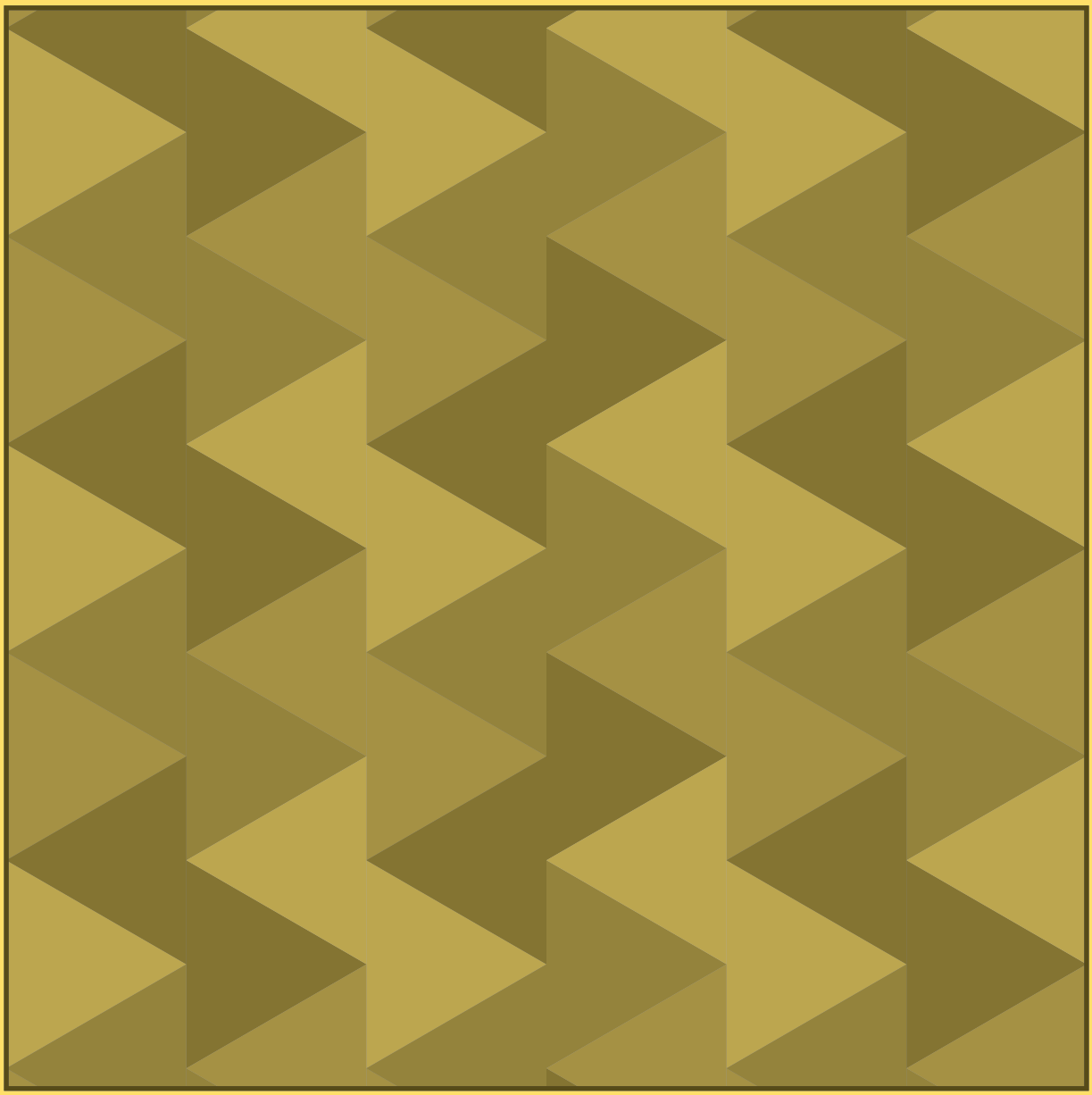
2019年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。１年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

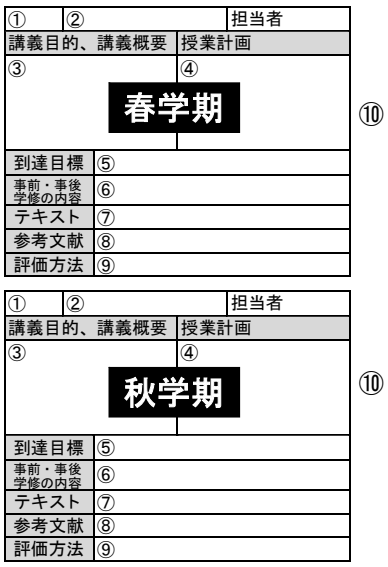
②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科		営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		環：国際環境経済学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科	全：言語文化学科以外の全学部学科		免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方（右図参照）



①適用学生

19年度以降 ：2019年度以降入学者対象科目
13～18年度 ：2013年度～2018年度入学者対象科目
13年度以降 ：2013年度～2019年度入学者対象科目
※12年度以前入学者は教務課窓口にお越しください。

②入学年度に対応した科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧参考文献

⑨評価方法について

⑩原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目（2019年度以降入学者用）

目　次

学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
秋	言語文化論	依田　珠江	木4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	林　永強	金4	2	1	全	2
	哲学Ⅱ	2022年度以降開講予定		2	4	全	
	哲学Ⅱ（再履修）	2022年度以降開講予定		2	4	全	

「外国語科目基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語Ⅰ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
春	英語Ⅰ（S）	各担当教員		1	1	全	5
春	英語Ⅰ（W）	各担当教員		1	1	全	6
秋	英語Ⅱ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
秋	英語Ⅱ（S）	各担当教員		1	1	全	5
秋	英語Ⅱ（W）	各担当教員		1	1	全	6
	英語Ⅲ（IE）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	英語Ⅲ（W）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	英語Ⅳ（IE）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	英語Ⅳ（W）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
春	スペイン語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
春	スペイン語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
秋	スペイン語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
	スペイン語Ⅲ（総合）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅲ（講読）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅲ（会話1）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅲ（会話2）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅳ（総合）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅳ（講読）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅳ（会話1）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	スペイン語Ⅳ（会話2）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
春	中国語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
春	中国語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
春	中国語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
秋	中国語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
秋	中国語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
	中国語Ⅲ（総合）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅲ（講読）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅲ（会話1）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅲ（会話2）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅳ（総合）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅳ（講読）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅳ（会話1）	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	中国語Ⅳ（会話2）	2020年度以降開講予定		1	2	全	

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	2020年度以降開講予定		1	2	全	
	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	2020年度以降開講予定		1	2	全	

「外国語科目進展科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	英語上級	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	英語演習Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	英語演習Ⅱ	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	上級英語演習Ⅰ	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	上級英語演習Ⅱ	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	翻訳通訳論・英語	2021年度以降開講予定		2	3		
	翻訳通訳実習・英語	2021年度以降開講予定		2	3		
	スペイン語上級	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	スペイン語演習	2021年度以降開講予定		2	3	全※1	
	翻訳通訳論・スペイン語	2021年度以降開講予定		2	3		
	翻訳通訳実習・スペイン語	2021年度以降開講予定		2	3		
	中国語上級	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	中国語演習	2021年度以降開講予定		2	3	全※1	
	翻訳通訳論・中国語	2021年度以降開講予定		2	3		
	翻訳通訳実習・中国語	2021年度以降開講予定		2	3		
	韓国語上級	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	韓国語演習	2021年度以降開講予定		2	3	全※1	
	翻訳通訳論・韓国語	2021年度以降開講予定		2	3		
	翻訳通訳実習・韓国語	2021年度以降開講予定		2	3		

※1:交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	スペイン研究概論	2019年度不開講		2	1	全	
春	ラテンアメリカ研究概論	佐藤　勘治	月4	2	1	全	72
	スペインの言語と歴史・文化	2020年度以降開講予定		2	2		
	スペイン語研究	2020年度以降開講予定		2	2		
秋	スペイン語圏の文学	2020年度以降開講予定		2	2		
春	ラテンアメリカの歴史と文化	2020年度以降開講予定		2	2		
春	ラテンアメリカの政治と社会	2020年度以降開講予定		2	2		
春	ラテンアメリカの経済と社会	2020年度以降開講予定		2	2		
秋	ラテンアメリカ近現代史	2020年度以降開講予定		2	2		
秋	ラテンアメリカの国際関係	2020年度以降開講予定		2	2		
春	ラテンアメリカ経済発展論	2020年度以降開講予定		2	2		
秋	ブラジル研究	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	中国研究概論	松岡　格	火3	2	1		81
	中国言語文化論	2020年度以降開講予定		2	2		
	中国社会論	2020年度以降開講予定		2	2		
	中国地域論	2020年度以降開講予定		2	2		
	現代中国論Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	法	
	現代中国論Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	法	

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	中国史Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	中国史Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	中国特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究概論	小宮　秀陵	月4	2	1	全	88
	韓国社会論Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国社会論Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国経済論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国史	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国前近代史	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	日韓比較文化論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	日韓比較教育論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	日韓交流史	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国研究情報収集法	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国政治論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	韓国特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究概論Ⅰ	城﨑　陽子	火4	2	1	全	98
秋	日本研究概論Ⅱ	生田　守	木4	2	1	全	98
春	日本文学論・古代Ⅰ	福沢　健	月3	2	1	全	99
秋	日本文学論・古代Ⅱ	福沢　健	月3	2	1	全	99
春	日本文学論・中世Ⅰ	城﨑　陽子	火3	2	1	全	100
春	日本文学論・中世Ⅱ	飯島　一彦	水1	2	1	全	109
春	日本文学論・近現代Ⅰ	佐藤　毅	木1	2	1	全	101
秋	日本文学論・近現代Ⅱ	佐藤　毅	木1	2	1	全	101
春	民俗学	林　英一	木1	2	1	全	102
春	日本史概論Ⅰ	堀川　徹	火4	2	1		103
秋	日本史概論Ⅱ	堀川　徹	火4	2	1		103
	日本史研究Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2		
	日本史研究Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2		
	日本史研究Ⅲ	2020年度以降開講予定		2	2		
	日本史研究Ⅳ	2020年度以降開講予定		2	2		
	日本特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「言語教育研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	言語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	112
秋	英語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	113
春	日本語教育概論	石塚　京子	月2	2	1	全	114
春	応用言語学Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
秋	応用言語学Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	英語圏の文学Ⅰ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	116
秋	英語圏の文学Ⅱ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	117
	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	国際共通語としての英語	2020年度以降開講予定		2	2		
	授業研究と実践	2021年度以降開講予定		2	3		
	教材研究と実践	2021年度以降開講予定		2	3		
	早期外国語教育	2021年度以降開講予定		2	3		
	英語研究専門講読	2021年度以降開講予定		2	3		
	日本語教授法Ⅰa	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	日本語教授法Ⅰb	2021年度以降開講予定		2	3	全	
	日本語教授法Ⅱ	2022年度以降開講予定		2	4	全	
	日本語音声学	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	日本語文法論Ⅰ	浅山　佳郎	火1	2	1	全	123
秋	日本語文法論Ⅱ	浅山　佳郎	火1	2	1	全	123
秋	日本語コミュニケーション論	野原　ゆかり	火3	2	1	全	122
	英語教育特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		
	日本語教育特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「グローバル社会研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	異文化間コミュニケーションⅠ	岡村　圭子	木3	2	1		132
秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本　英政	月2	2	1	全	133
	多文化共生研究Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2		
	多文化共生研究Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2		
	比較文化論	2020年度以降開講予定		2	2		
	大衆文化論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	ローカル・メディア論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	英語圏の文化	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	英語圏事情	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	法律学概論	2020年度以降開講予定		2	2		
	政治学概論Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2		
	政治学概論Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2		
	経済学概論	2020年度以降開講予定		2	2		
	国際関係論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	国際協力論	浦部　浩之	水3	2	1		139
秋	南北問題	浦部　浩之	水3	2	1		139
秋	NGO論	清水　俊弘	水2	2	1	全	135
	国際政治論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	国際経済論Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	国際経済論Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	日本政治外交史Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	日本政治外交史Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	市民生活と法Ⅰ	新井　剛	金1	2	1		198
秋	市民生活と法Ⅱ	齋藤　哲	木4	2	1		199
	国際機構と法	2021年度以降開講予定		2	3		
	地域研究論	2020年度以降開講予定		2	2		
	東南アジアの開発と社会	2020年度以降開講予定		2	2		
	アメリカ合衆国のラティーノ社会	2020年度以降開講予定		2	2		
	グローバル社会特殊研究	2020年度以降開講予定		2	2		

「人間発達科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	教職論	萩原　真美	火4	2	1	全	148
春	教職論	桑原　憲一	月3	2	1	全	148
秋	教職論	桑原　憲一	月4	2	1	全	148
春	教育原論	萩原　真美	火3	2	1	全	149
秋	教育原論	川村　肇	木3	2	1	全	149
秋	教育原論	萩原　真美	火3	2	1	全	149
秋	教育原論	萩原　真美	火4	2	1	全	149
	心理学概論Ⅰ	2019年度不開講		2	1	全	
	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	2020年度以降開講予定		2	2	全	
春	スポーツ・レクリエーション概論	和田　智	金4	2	1	全	150
	スポーツ科学概論	2019年度不開講		2	1	全	
	教育の歴史Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	教育の歴史Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	教育制度	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	教育課程論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	道徳教育の理論と実践	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	特別活動論	2020年度以降開講予定		2	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2020年度以降開講予定		2	2		
	教育方法学	2020年度以降開講予定		2	2		
	生徒指導と進路指導	2020年度以降開講予定		2	2		
春	特別支援教育論	福田　亜矢子	水4	2	1		154
秋	特別支援教育論	福田　亜矢子	水4	2	1		154
秋	特別支援教育論	福田　亜矢子	水3	2	1		154
春	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	155
春	教育心理学	利根川　明子	集中	2	1	全	155
秋	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	155
	社会心理学Ⅰ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	社会心理学Ⅱ	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	教育相談	2020年度以降開講予定		2	2	全	
秋	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	川村　肇	水1	2	1	全	158

「総合科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	社会学概論Ⅰ	岡村　圭子	土1	2	1	全	164
秋	社会学概論Ⅱ	岡村　圭子	土1	2	1	全	164
春	文化人類学Ⅰ	松岡　格	金2	2	1	全	165
秋	文化人類学Ⅱ	松岡　格	金2	2	1	全	165
春	倫理学概論Ⅰ	林　永強	木3	2	1	全	166
秋	倫理学概論Ⅱ	林　永強	木3	2	1	全	166
秋	外国史概論Ⅰ	兼田　信一郎	木3	2	1		167
春	外国史概論Ⅱ	久慈　栄志	木5	2	1		167
春	文化史入門	古川　堅治	木2	2	1	全	168
春	東洋思想史Ⅰ	犬塚　悠	月2	2	1	全	169
秋	東洋思想史Ⅱ	犬塚　悠	月2	2	1	全	169
春	文明史研究Ⅰ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	170
秋	文明史研究Ⅱ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	170
	比較宗教史	2019年度不開講		2	1	全	
春	地中海世界の宗教と文化Ⅰ	髙橋　裕子	月3	2	1		186
秋	地中海世界の宗教と文化Ⅱ	髙橋　裕子	月3	2	1		186
秋	世界の宗教と文化－－神教と多神教－	古川　堅治	木2	2	1		184
春	科学史Ⅰ	野澤　聡	月2	2	1	全	171
秋	科学史Ⅱ	野澤　聡	月2	2	1	全	171
春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤　聡	水1	2	1	全	172
	科学技術基礎論Ⅱ	2019年度不開講		2	1	全	
春	数学Ⅰ	東　孝博	月2	2	1	全	173
秋	数学Ⅱ	東　孝博	月2	2	1	全	173
春	物理学Ⅰ	東　孝博	月4	2	1	全	174
秋	物理学Ⅱ	東　孝博	月4	2	1	全	174
春	天文学Ⅰ	内田　俊郎	木4	2	1	全	175
秋	天文学Ⅱ	内田　俊郎	木4	2	1	全	175
春	生物学Ⅰ	2019年度不開講		2	1	全	
秋	生物学Ⅱ	2019年度不開講		2	1	全	
春	生理学Ⅰ	依田　珠江	水1	2	1	全	176
秋	生理学Ⅱ	依田　珠江	水1	2	1	全	176
春	地球環境論Ⅰ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	177
秋	地球環境論Ⅱ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	177
春	コンピュータと言語	呉　浩東	月2	2	1	全	178
春	情報科学各論Ⅰ	内田　俊郎	木3	2	1	全	179
秋	情報科学各論Ⅱ	内田　俊郎	木3	2	1	全	179
	データ構造とアルゴリズム論	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	データベース論	2020年度以降開講予定		2	2		
	社会調査法	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	統計と調査法	2020年度以降開講予定		2	2	全	
	総合科学特殊研究（科学技術と社会a）	2019年度不開講		2	1	全	
秋	総合科学特殊研究（科学技術と社会b）	野澤　聡	木1	2	1	全	187
春	総合科学特殊研究（宇宙論a）	東　孝博	火1	2	1	全	188
秋	総合科学特殊研究（宇宙論b）	東　孝博	火1	2	1	全	188
秋	総合科学特殊研究（大学生のための法律入門）	新井　剛	金1	2	1	全	200

「演習・卒業研究等」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春/秋	卒業研究	2022年度以降開講予定		2	4	全	

国際教養学部言語文化学科授業科目（2013～2018年度入学者用）

目　次

学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
秋	言語文化論	依田　珠江	木4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	林　永強	金4	2	1	全	2
春	哲学Ⅱ	林　永強	金3	2	4	全	3
秋	哲学Ⅱ（再履修）	林　永強	金3	2	4	全	3

「外国語科目基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語Ⅰ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
春	英語Ⅰ（S）	各担当教員		1	1	全	5
春	英語Ⅰ（W）	各担当教員		1	1	全	6
秋	英語Ⅱ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
秋	英語Ⅱ（S）	各担当教員		1	1	全	5
秋	英語Ⅱ（W）	各担当教員		1	1	全	6
春	英語Ⅲ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
春	英語Ⅲ（W）	各担当教員		1	2	全	8
秋	英語Ⅳ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
秋	英語Ⅳ（W）	各担当教員		1	2	全	8
春	スペイン語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
春	スペイン語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
秋	スペイン語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	13
春	スペイン語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	13
秋	スペイン語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	16
春	中国語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
春	中国語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
春	中国語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
秋	中国語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
秋	中国語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	21
春	中国語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	22
春	中国語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	21
秋	中国語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	22
秋	中国語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	24

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	29
春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	30
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	31
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	29
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	30
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	31
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	32

「外国語科目進展科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語上級	B. ゲンチ	火3	2	3	全	33
春	英語上級	B. バッタ	水4	2	3	全	34
春	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	35
春	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	36
春	英語上級	R. ラビーニ	水4	2	3	全	37
春	英語上級	齋藤　雪絵	火3	2	3	全	38
春	英語上級	中村　香代子	水4	2	3	全	39
春	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	40
春	英語上級	小瀬　百合子	水4	2	3	全	41
春	英語上級	奥平　文子	水4	2	3	全	42
春	英語上級	春川　真理恵	火3	2	3	全	43
秋	英語上級	B. ゲンチ	火3	2	3	全	33
秋	英語上級	B. バッタ	水4	2	3	全	34
秋	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	35
秋	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	36
秋	英語上級	R. ラビーニ	水4	2	3	全	37
秋	英語上級	齋藤　雪絵	火3	2	3	全	38
秋	英語上級	中込　知子	水4	2	3	全	39
秋	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	40
秋	英語上級	小瀬　百合子	水4	2	3	全	41
秋	英語上級	奥平　文子	水4	2	3	全	42
秋	英語上級	春川　真理恵	火3	2	3	全	43
春	英語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	44
秋	英語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	44
春	英語演習Ⅰ	関口　智子	金5	2	2	全	45
秋	英語演習Ⅰ	中村　香代子	水4	2	2	全	45
春	英語演習Ⅱ	B. ゲンチ	金1	2	3	全	46
春	英語演習Ⅱ	澁井　とし子	木4	2	3	全	47
春	英語演習Ⅱ	奥平　文子	水3	2	3	全	48
春	英語演習Ⅱ	中込　知子	水3	2	3	全	49
春	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	50
秋	英語演習Ⅱ	B. ゲンチ	金1	2	3	全	46
秋	英語演習Ⅱ	J. G. ショールツ	金4	2	3	全	47
秋	英語演習Ⅱ	奥平　文子	水3	2	3	全	48
秋	英語演習Ⅱ	関口　智子	金5	2	3	全	49
秋	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	50

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	翻訳通訳論・英語	関口　智子	金4	2	3		51
秋	翻訳通訳実習・英語	関口　智子	金4	2	3		51
春	スペイン語上級	各担当教員		2	3	全	52
秋	スペイン語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	52
春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	53
春	スペイン語演習	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	54
春	スペイン語演習	J. マルティネス	木4	2	3	全※1	55
秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	53
秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	水3	2	3	全※1	57
秋	スペイン語演習	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	54
秋	スペイン語演習	浦部　浩之	月4	2	3	全※1	56
秋	スペイン語演習	J. マルティネス	木4	2	3	全※1	55
秋	スペイン語演習	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	58
春	翻訳通訳論・スペイン語	矢田　陽子	火3	2	3		59
秋	翻訳通訳実習・スペイン語	矢田　陽子	火3	2	3		59
春	中国語上級	各担当教員		2	3	全	60
秋	中国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	60
春	中国語演習	明田川　聡士	火4	2	3	全※1	61
春	中国語演習	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	62
春	中国語演習	蔡　暁軍	金5	2	3	全※1	63
春	中国語演習	武信　彰	月2	2	3	全※1	64
秋	中国語演習	明田川　聡士	火4	2	3	全※1	61
秋	中国語演習	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	62
秋	中国語演習	蔡　暁軍	金5	2	3	全※1	63
秋	中国語演習	吉田　桂子	金2	2	3	全※1	64
秋	中国語演習	横川　澄枝	金3	2	3	全※1	65
秋	中国語演習	明田川　聡士	火1	2	3	全※1	66
	翻訳通訳論・中国語	2019年度不開講		2	3		
	翻訳通訳実習・中国語	2019年度不開講		2	3		
春	韓国語上級	各担当教員		2	3	全	67
秋	韓国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	67
春	韓国語演習	朴　鍾厚	火4	2	3	全※1	68
秋	韓国語演習	朴　鍾厚	火4	2	3	全※1	68
秋	韓国語演習	沈　民珪	金3	2	3	全※1	69
秋	韓国語演習	白　寅英	金2	2	3	全※1	70
春	翻訳通訳論・韓国語	青木　義幸	火3	2	3		71
秋	翻訳通訳実習・韓国語	青木　義幸	火3	2	3		71

※1:交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	スペイン研究概論	2019年度不開講		2	1	全	
春	ラテンアメリカ研究概論	佐藤　勘治	月4	2	1	全	72
	スペインの言語と歴史・文化	2019年度不開講		2	2		
	スペイン語研究	2019年度不開講		2	2		
秋	スペイン語圏の文学	中井　博康	月3	2	2		72
春	ラテンアメリカの歴史と文化	佐藤　勘治	金3	2	2		73
春	ラテンアメリカの政治と社会	浦部　浩之	木2	2	2		74
春	ラテンアメリカの経済と社会	北野　浩一	金4	2	2		76
秋	ラテンアメリカ近現代史	佐藤　勘治	金3	2	2		73
秋	ラテンアメリカの国際関係	浦部　浩之	木2	2	2		74
春	ブラジル研究	E. ウラノ	火2	2	2	全	75
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（ラテンアメリカ経済発展論）	北野　浩一	金4	2	2		76
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a）	P. ラゴ	月3	2	2		77
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b）	P. ラゴ	月3	2	2		77
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	倉田　量介	火3	2	2	全	78
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	井垣　昌	木3	2	2	全	79
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(カリブ海域研究)	工藤　多香子	火2	2	2	全	78
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	佐藤　勘治	木3	2	2		79
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	P. ラゴ	水3	2	2		80

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	中国研究概論	松岡　格	火3	2	1		81
秋	中国言語文化論	武信　彰	月4	2	2		82
	中国社会論	2019年度不開講		2	2		
春	中国地域論	松岡　格	火3	2	2		81
春	現代中国論Ⅰ	松岡　格	水1	2	2	法	83
秋	現代中国論Ⅱ	松岡　格	水1	2	2	法	83
春	中国史Ⅰ	張　士陽	木4	2	2	全	84
秋	中国史Ⅱ	張　士陽	木4	2	2	全	84
春	中国特殊研究(日中比較文化研究a)	大澤　昇	水3	2	2		85
秋	中国特殊研究(日中比較文化研究b)	大澤　昇	水3	2	2		85
春	中国特殊研究(中国文学研究a)	明田川　聡士	金3	2	2		86
秋	中国特殊研究(中国文学研究b)	明田川　聡士	金3	2	2		86
春	中国特殊研究(日中交流史)	武信　彰	月4	2	2		87
秋	中国特殊研究(専門講読)	松岡　格	月2	2	2		87

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究概論	小宮　秀陵	月4	2	1	全	88
春	韓国社会論Ⅰ	羅　一等	月2	2	2	全	89
秋	韓国社会論Ⅱ	小宮　秀陵	水3	2	2	全	89
秋	韓国経済論	奥田　聡	水4	2	2	全	90
春	韓国史	佐藤　厚	金2	2	2	全	90
秋	日韓比較文化論	青木　義幸	火4	2	2	全	91
春	日韓比較教育論	小島　優生	木3	2	2	全	91
秋	日韓交流史	小宮　秀陵	火3	2	2	全	92
春	韓国研究情報収集法	田代　裕一朗	月4	2	2	全	92
春	韓国特殊研究(韓国政治論)	呉　吉煥	金3	2	2	全	93
春	韓国特殊研究(韓国前近代史)	小宮　秀陵	火3	2	2	全	94
秋	韓国特殊研究(韓国の宗教)	佐藤　厚	金2	2	2	全	93
秋	韓国特殊研究(韓国の言語文化)	金　秀晶	水3	2	2	全	94
春	韓国特殊研究(専門講読)	小宮　秀陵	水3	2	3	全	95
春	韓国特殊研究(韓国メディア論)	青木　義幸	火4	2	2	全	96
春	韓国特殊研究(韓国の芸術と文化a)	田代　裕一朗	月3	2	2	全	97
秋	韓国特殊研究(韓国の芸術と文化b)	田代　裕一朗	月3	2	2	全	97
	韓国特殊研究(日韓比較地域史論)	2019年度不開講		2	2		

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究概論Ⅰ	城﨑　陽子	火4	2	1	全	98
秋	日本研究概論Ⅱ	生田　守	木4	2	1	全	98
春	日本文学論･古代Ⅰ	福沢　健	月3	2	1	全	99
秋	日本文学論･古代Ⅱ	福沢　健	月3	2	1	全	99
春	日本文学論･中世Ⅰ	城﨑　陽子	火3	2	1	全	100
春	日本文学論･中世Ⅱ	飯島　一彦	水1	2	1	全	109
春	日本文学論･近現代Ⅰ	佐藤　毅	木1	2	1	全	101
秋	日本文学論･近現代Ⅱ	佐藤　毅	木1	2	1	全	101
春	民俗学	林　英一	木1	2	1	全	102
	日本史Ⅰ	2019年度不開講		2	1	全	
	日本史Ⅱ	2019年度不開講		2	1	全	
	日本思想史Ⅰ	2019年度不開講		2	2	全	
	日本思想史Ⅱ	2019年度不開講		2	2	全	
春	日本特殊研究(日本文学作品研究a)	城﨑　陽子	水3	2	2	全	104
春	日本特殊研究(日本文学作品研究b)	飯島　一彦	金4	2	2	全	106
春	日本特殊研究(日本文学作品研究c)	城﨑　陽子	水4	2	2	全	105
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究d)	城﨑　陽子	水3	2	2	全	104
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究e)	城﨑　陽子	火3	2	2	全	105
秋	日本特殊研究(日本文化研究a)	飯島　一彦	金4	2	2	全	106
秋	日本特殊研究(日本文化研究b)	城﨑　陽子	水4	2	2	全	107
秋	日本特殊研究(日本文化研究c)	林　英一	木1	2	2	全	108
秋	日本特殊研究(日本文化研究d)	飯島　一彦	水1	2	2	全	109
春	日本特殊研究(日本史研究a)	丸浜　昭	水1	2	2	全	110
秋	日本特殊研究(日本史研究b)	丸浜　昭	水1	2	2	全	110
春	日本特殊研究(日本史研究c)	堀川　徹	火3	2	2		111
秋	日本特殊研究(日本史研究d)	堀川　徹	火3	2	2		111

「言語教育研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	言語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	112
秋	英語学概論	安間　一雄	火3	2	1	全	113
春	日本語教育概論	石塚　京子	月2	2	1	全	114
春	応用言語学Ⅰ	臼井　芳子	水1	2	2	全	115
秋	応用言語学Ⅱ	臼井　芳子	水1	2	2	全	115
春	英語圏の文学Ⅰ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	116
秋	英語圏の文学Ⅱ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	117
春	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	末松　良道	木3	2	2	全	118
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	末松　良道	木3	2	2	全	118
春	国際語としての英語	臼井　芳子	火2	2	2		119
春	日本語教授法Ⅰa	野原　ゆかり	火2	2	3	全	120
秋	日本語教授法Ⅰb	瀬尾　悠希子	木2	2	3	全	120
春	日本語教授法Ⅱ	野原　ゆかり	水3	2	4	全	121
春	日本語音声学	磯村　一弘	水5	2	2	全	122
春	日本語文法論Ⅰ	浅山　佳郎	火1	2	1	全	123
秋	日本語文法論Ⅱ	浅山　佳郎	火1	2	1	全	123
秋	日本語コミュニケーション論	野原　ゆかり	火3	2	1	全	122
春	英語教育特殊研究（専門講読a）	関戸　冬彦	木1	2	2		124
秋	英語教育特殊研究（専門講読b）	関戸　冬彦	木1	2	2		124
	英語教育特殊研究（授業分析と実践a）	2019年度不開講		2	3		
秋	英語教育特殊研究（授業分析と実践b）	臼井　芳子	火2	2	3		125
秋	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	澁井　とし子	木4	2	3		126
秋	英語教育特殊研究（英西語学演習）	臼井　芳子	水3	2	2		127
春/秋	日本語教育特殊研究（教育実習）	各担当教員	その他	2	4	全	128
春	日本語教育特殊研究（教育教材論）	倉田　芳弥	月4	2	2	全	129
春	日本語教育特殊研究（専門講読）	谷内　美智子	木1	2	2	全	130
秋	日本語教育特殊研究（年少者日本語教育）	宇津木　奈美子	火2	2	2		129
秋	日本語教育特殊研究（日本語教育のための社会言語学）	野原　ゆかり	水2	2	2	全	130
秋	日本語教育特殊研究（日本語学の諸問題）	浅山　佳郎	木1	2	2	全	131
春	日本語教育特殊研究（日本語教育研究法）	瀬尾　悠希子	水2	2	2	全	131

「グローバル社会研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	異文化間コミュニケーションⅠ	岡村　圭子	木3	2	1		132
秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本　英政	月2	2	1	全	133
春	多文化共生研究Ⅰ	佐藤　唯行	火3	2	2		134
秋	多文化共生研究Ⅱ	佐藤　唯行	火3	2	2		134
秋	比較文化論	岡村　圭子	木3	2	2		136
春	大衆文化論	木本　玲一	月4	2	2	全	135
春	ローカル・メディア論	岡村　圭子	火3	2	2	全	136
春	英語圏の文化	山本　英政	木2	2	2	全	137
秋	英語圏事情	山本　英政	水2	2	2	全	137
春	国際関係論	大串　敦	火2	2	2	全	138
春	国際協力論	浦部　浩之	水3	2	1		139
秋	南北問題	浦部　浩之	水3	2	1		139
秋	NGO論	清水　俊弘	水2	2	1	全	135
秋	国際政治論Ⅰ	岡垣　知子	水1	2	2	全	140
春	国際政治論Ⅱ	山下　光	金5	2	2	全	140
春	国際経済論Ⅰ	益山　光央	月3	2	2	全	141
秋	国際経済論Ⅱ	益山　光央	月3	2	2	全	141
春	日本政治外交史Ⅰ	福永　文夫	金3	2	2	全	142
秋	日本政治外交史Ⅱ	福永　文夫	金3	2	2	全	142
	国際機構と法Ⅰ	2019年度不開講		2	3	全	
秋	国際機構と法Ⅱ	鈴木　淳一	火1	2	3	全	143
春	地域研究論	浦部　浩之	月4	2	2		143
秋	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究）	石川　朝子	火3	2	2	法	144
春	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	山本　英政	月2	2	2	全	144
秋	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	佐藤　勘治	月4	2	2		145
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合a）	高安　健一	金1	2	2	全	146
秋	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合b）	高安　健一	金1	2	2	全	146
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	江藤　双恵	火1	2	2	全	145
春	グローバル社会特殊研究（地球環境と法a）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	147
秋	グローバル社会特殊研究（地球環境と法b）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	147
	グローバル社会特殊研究（ポストコロニアル研究）	2019年度不開講		2	2	全	

「人間発達科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原　憲一	月3	2	1	全	148
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	萩原　真美	火4	2	1	全	148
秋	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原　憲一	月4	2	1	全	148
春	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火3	2	1	全	149
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	川村　肇	木3	2	1	全	149
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火4	2	1	全	149
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火3	2	1	全	149
	心理学概論Ⅰ(こころの世界)	2019年度不開講		2	1	全	
秋	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	田口　雅徳	木4	2	2	全	150
春	スポーツ・レクリエーション概論	和田　智	金4	2	1	全	150
	スポーツ科学概論	2019年度不開講		2	1	全	
春	教育の歴史Ⅰ	川村　肇	火3	2	2	全	151
秋	教育の歴史Ⅱ	川村　肇	火3	2	2	全	151
春	比較教育制度論	桑原　憲一	月4	2	2	全	152
春	比較教育制度論	小島　優生	水3	2	2	全	152
秋	比較教育制度論	小島　優生	水2	2	2	全	152
春	教育課程論	桑原　憲一	火3	2	2	全	153
春	教育課程論	安井　一郎	月4	2	2	全	153
秋	教育課程論	桑原　憲一	火4	2	2	全	153
春	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	155
春	教育心理学	利根川　明子	集中	2	1	全	155
秋	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	155
春	カウンセリング論	白砂　佐和子	火2	2	2	全	156
秋	パーソナリティ理論	白砂　佐和子	火2	2	2	全	156
春	学校カウンセリング	山本　良	月2	2	2	全	157
秋	学校カウンセリング	山本　良	月2	2	2	全	157
秋	学校カウンセリング	鈴木　乙史	木4	2	2	全	157
	人間発達科学特殊研究(子ども論a)	2019年度不開講		2	2	全	
	人間発達科学特殊研究(子ども論b)	2019年度不開講		2	2	全	
秋	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	川村　肇	水1	2	1	全	158
春	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口　雅徳	木2	2	2	全	159
秋	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口　雅徳	木2	2	2	全	159
春	人間発達科学特殊研究(社会心理学a)	樋口　匡貴	金2	2	2	全	160
春	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口　匡貴	金3	2	2	全	160
秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口　匡貴	金2	2	2	全	160
秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口　匡貴	金3	2	2	全	160
秋	人間発達科学特殊研究(スポーツ指導実習)	松原　裕	水3	2	2	全	161
春	人間発達科学特殊研究(リーダーシップ論)	和田　智	金2	2	2	全	161
春	人間発達科学特殊研究(スポーツマネージメント)	川北　準人	月3	2	2	全	162
秋	人間発達科学特殊研究(ボランティア論)	中條　共子	月3	2	2	全	162
春	人間発達科学特殊研究(スポーツパフォーマンス分析)	依田　珠江	木3	2	2	全	163

「総合科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	社会学Ⅰ	岡村　圭子	土1	2	1	全	164
秋	社会学Ⅱ	岡村　圭子	土1	2	1	全	164
春	文化人類学Ⅰ	松岡　格	金2	2	1	全	165
秋	文化人類学Ⅱ	松岡　格	金2	2	1	全	165
春	倫理学Ⅰ	林　永強	木3	2	1	全	166
秋	倫理学Ⅱ	林　永強	木3	2	1	全	166
春	文化史入門	古川　堅治	木2	2	1	全	168
春	東洋思想史Ⅰ	犬塚　悠	月2	2	1	全	169
秋	東洋思想史Ⅱ	犬塚　悠	月2	2	1	全	169
春	文明史研究Ⅰ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	170
秋	文明史研究Ⅱ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	170
	比較宗教史	2019年度不開講		2	1	全	
春	科学史Ⅰ	野澤　聡	月2	2	1	全	171
秋	科学史Ⅱ	野澤　聡	月2	2	1	全	171
春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤　聡	水1	2	1	全	172
	科学技術基礎論Ⅱ	2019年度不開講		2	1	全	
春	数学Ⅰ	東　孝博	月2	2	1	全	173
秋	数学Ⅱ	東　孝博	月2	2	1	全	173

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	物理学Ⅰ	東　孝博	月4	2	1	全	174
秋	物理学Ⅱ	東　孝博	月4	2	1	全	174
春	天文学Ⅰ	内田　俊郎	木4	2	1	全	175
秋	天文学Ⅱ	内田　俊郎	木4	2	1	全	175
春	生物学Ⅰ	2019年度不開講		2	1	全	
秋	生物学Ⅱ	2019年度不開講		2	1	全	
春	生理学Ⅰ	依田　珠江	水1	2	1	全	176
秋	生理学Ⅱ	依田　珠江	水1	2	1	全	176
春	地球環境論Ⅰ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	177
秋	地球環境論Ⅱ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	177
春	コンピュータと言語	呉　浩東	月2	2	1	全	178
春	情報科学各論Ⅰ	内田　俊郎	木3	2	1	全	179
秋	情報科学各論Ⅱ	内田　俊郎	木3	2	1	全	179
春	データ構造とアルゴリズム論	黄　海湘	水3	2	2	全	180
春	データベース論	黄　海湘	水2	2	2		181
春	社会調査法	田端　章明	木2	2	2	全	182
秋	統計と調査法	安間　一雄	木1	2	2	全	180
秋	総合科学特殊研究（世界の宗教と文化－－神教と多神教）	古川　堅治	木2	2	2		183
秋	総合科学特殊研究（思想と文化）	林　永強	金4	2	2		184
春	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化a）	髙橋　裕子	月3	2	2		185
秋	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化b）	髙橋　裕子	月3	2	2		185
春	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術a）	W. イブラヒム	月2	2	2	全	186
秋	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術b）	W. イブラヒム	月2	2	2	全	186
	総合科学特殊研究（科学技術と社会a）	2019年度不開講		2	1	全	
秋	総合科学特殊研究（科学技術と社会b）	野澤　聡	木1	2	1	全	187
春	総合科学特殊研究（宇宙論a）	東　孝博	火1	2	1	全	188
秋	総合科学特殊研究（宇宙論b）	東　孝博	火1	2	1	全	188
春	総合科学特殊研究（自然観察a）	2019年度不開講		2	2	全	
秋	総合科学特殊研究（自然観察b）	2019年度不開講		2	2	全	
春	総合科学特殊研究（サイエンスライティングa）	東　孝博	木4	2	2	全	189
秋	総合科学特殊研究（サイエンスライティングb）	東　孝博	木4	2	2	全	189
春	総合科学特殊研究（人工知能入門a）	黄　海湘	金1	2	2	全	190
秋	総合科学特殊研究（人工知能入門b）	黄　海湘	金1	2	2	全	190
秋	総合科学特殊研究（情報検索演習）	呉　浩東	金2	2	2	全	191
	総合科学特殊研究（自然言語処理a）	2019年度不開講		2	2	全	
春	総合科学特殊研究（自然言語処理b）	呉　浩東	木1	2	2	全	191
春	総合科学特殊研究（プログラミング論a）	呉　浩東	月4	2	2		192
秋	総合科学特殊研究（プログラミング論b）	呉　浩東	月4	2	2		192
秋	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論）	呉　浩東	月2	2	2	全	193
秋	総合科学特殊研究（コーパス言語学）	呉　浩東	木1	2	2	全	194
秋	総合科学特殊研究（からだの機能を測る）	依田　珠江	木3	2	2	全	195
	総合科学特殊研究（文化について調べて書くa）	2019年度不開講		2	2	全	
秋	総合科学特殊研究（文化について調べて書くb）	松岡　格	月3	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究（暮らしの中の民法入門）	新井　剛	金1	2	1	全	198
秋	総合科学特殊研究（不動産取引と法）	新井　剛	木4	2	2	全	197
春	総合科学特殊研究（日本の司法(1)）	齋藤　哲	金1	2	2		201
秋	総合科学特殊研究（日本の司法(2)）	齋藤　哲	金1	2	2		201
秋	総合科学特殊研究（大学生のための法律入門）	新井　剛	金1	2	1	全	200
秋	総合科学特殊研究（市民生活と法）	齋藤　哲	木4	2	2		199
春	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質a）	内田　正夫	木4	2	2	全	202
秋	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質b）	内田　正夫	木4	2	2	全	202

「演習・卒業研究等」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	203

13 年度以降	基礎演習	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「基礎演習」の目的は、４年間の大学における学び、とりわけ２年次以降の専門性の高い演習（ゼミナール）に対応できる力を準備することである。 そこで基礎演習では、各自が正確な文章の読解を前提として、図書館・ＰＣの利活用を含む『読む・書く・聞く・話す』の基礎力を高めていくことを課題とする	1. クラス別オリエンテーション 2. 英語オリエンテーション 3〜13. ・図書館実習（１回） 図書館の利用方法と資料検索の仕方を実習 ・観察学習（１回） 大学外の施設における学習 ・読む・書く・聞く・話すなどの基礎力の養成（10回） 文章を読む、要約をする、ノートを取る、講義を受ける、ディスカッション、プレゼンテーション、 PCスキル基礎などの学習 （各クラスによって学習順序や方法は異なる） 14. まとめ（レポート課題の提出、など）

到達目標	論理的思考、授業に臨む姿勢、レポート作成法、コンピュータリテラシーを習得し、大学において基本的な学習ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から指示される。
テキスト	各担当教員から指示される。指定の課題図書を購入する必要がある。
参考文献	各担当教員から指示される。
評価方法	期末レポート課題および授業での発表内容などに基づき総合的に評価するが、 詳細は各担当教員の指示による。

13 年度以降	言語文化論	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」がどのようなものであるかを認識するための授業である。今日現代世界において国際的教養人に求められる基礎的な知識とはどのようなものかを受講者とともに考えてみたい。また学科が設置している各研究科目群を構成する分野を把握し、受講生自身が今後の学修、研究のための「設計図」をえがくことも本講義の目的である。 〔講義概要〕 各研究科目群の学問領域・分野の概説、研究の動向の紹介と、それらに関連した現代世界の諸課題を教員、学生がともに議論する。授業期間の後半ではグループに分かれて学生自身が設定したテーマでプレゼンテーションを行う。授業内での積極的な発言を強く要求する。	1. イントロダクション－「言語」と「文化」を学ぶ意味 2. スペイン・ラテンアメリカ研究 3. 中国研究 4. 韓国研究 5. 日本研究 6. 言語教育研究 7. グローバル社会研究 8. 人間発達科学研究 9. 総合科学研究 10. 演習選択について 11. プレゼンテーション（Aグループ） 12. プレゼンテーション（Bグループ） 13. プレゼンテーション（Cグループ） 14. 今後の課題、展望

到達目標	国際教養と言語文化の概念を理解し、言語と文化について、自分なりの問題設定ができるようにする。
事前・事後学修の内容	関連する資料、論文、書籍や新聞を読み、問題意識を持つとともに知識を蓄積すること
テキスト	適宜プリントを配布する。言語文化学科『演習の手引き』
参考文献	授業で紹介する
評価方法	授業への参加度（50%）、プレゼンテーション（30%）、小レポート（20%）

13 年度以降	哲学 I	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は大学の教養教育の基礎として、思考力、判断力、行動力を向上しようとする。 教養は知的追求をしながら、人格を養うことでもある。哲学も、説得力をもつ普遍的な知を目指そうとする一方、人生のあり方を多角的に深く考察する。 本科目は、西洋と東洋哲学において、哲学と人生、現象と実在、知識と論理、行為と道徳という四つの課題を取り上げ、実生活の諸問題に向けて探求する。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に基づき、講義、発表、また討論を通して取り組む。	1.　哲学と人生 2.　人間と動物 3.　現象と実在 4.　特性と本質 5.　仮名と真実 6.　因果と必然 7.　推論と確率 8.　経験と観念 9.　言語と真理 10.　功利と行為 11.　義務と約束 12.　美徳と修養 13.　人性と道徳 14.　哲学と世界

到達目標	現代の諸問題について、他者の意見を尊重しつつ、積極的・自主的なディスカッションができるようにする。さらに、人間と世界との関係を理性的に理解し、かつ説明できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	哲学Ⅱ	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は価値判断の諸説を考察する。卒業に向けて、大学から社会への道を踏み出しながら、実社会における諸問題を哲学的に考えていく。自らの思考により、あらゆる打開策を構築する。 具体的には、規範倫理、人格実現説、人間学、そして公と私という四つの課題を取り上げ、価値そのものや価値判断の諸基準を考察する。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に沿いながら、講義、発表、また討論を通して取り組む。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。	1.　イントロダクション 2.　規範倫理学Ⅰ：功利主義 3.　規範倫理学Ⅱ：義務論 4.　規範倫理学Ⅲ：徳倫理学 5.　人格実現説Ⅰ：意志と行為 6.　人格実現説Ⅱ：人格と動機 7.　人格実現説Ⅲ：美徳と善人 8.　人間学Ⅰ：倫理と人間 9.　人間学Ⅱ：間柄と世間 10.　人間学Ⅲ：存在と道徳 11.　公と私Ⅰ：個人と政府 12.　公と私Ⅱ：自他と公共 13.　公と私Ⅲ：正直と勇気 14.　公と私Ⅳ：忠義と反逆

到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学Ⅰ」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	哲学Ⅱ（再履修）	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は価値判断の諸説を考察する。卒業に向けて、大学から社会への道を踏み出しながら、実社会における諸問題を哲学的に考えていく。自らの思考により、あらゆる打開策を構築する。 具体的には、規範倫理、人格実現説、人間学、そして公と私という四つの課題を取り上げ、価値そのものや価値判断の諸基準を考察する。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に沿いながら、講義、発表、また討論を通して取り組む。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。	1.　イントロダクション 2.　規範倫理学Ⅰ：功利主義 3.　規範倫理学Ⅱ：義務論 4.　規範倫理学Ⅲ：徳倫理学 5.　人格実現説Ⅰ：意志と行為 6.　人格実現説Ⅱ：人格と動機 7.　人格実現説Ⅲ：美徳と善人 8.　人間学Ⅰ：倫理と人間 9.　人間学Ⅱ：間柄と世間 10.　人間学Ⅲ：存在と道徳 11.　公と私Ⅰ：個人と政府 12.　公と私Ⅱ：自他と公共 13.　公と私Ⅲ：正直と勇気 14.　公と私Ⅳ：忠義と反逆

到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学Ⅰ」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	英語 I （IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う．主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う．また，より正確かつ効率的に読めるよう，様々なリーディングストラテジーを学習する．内容理解の表現方法としては，口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする．テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後，ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする．この他に，課外活動として多読学習を取り入れ，英語の読書習慣の形成を図る．授業の使用言語は英語とする．	各担当教員が初回の授業で指示する。 テキストはクラスによって異る． (Class A): *New Directions* (Cambridge UP). (Classes B-E): *Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 3* (Cengage). (Classes F-H): *Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 2* (Cengage).

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．また，課題は必ず提出しなければならない．
テキスト	テキストはクラスによって異る．
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する．
評価方法	授業内課題 (40%), 多読関連(20%), 期末テスト(40%)

13 年度以降	英語Ⅱ （IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う．主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う．また，より正確かつ効率的に読めるよう，様々なリーディングストラテジーを学習する．内容理解の表現方法としては，口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする．テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ，リーディング素材などを通して問題提起を学習した後，ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする．この他に，課外活動として多読学習を取り入れ，英語の読書習慣の形成を図る．授業の使用言語は英語とする．	各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語 I 」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．また，課題は必ず提出しなければならない．
テキスト	春学期に同じ
参考文献	春学期に同じ
評価方法	春学期に同じ

13 年度以降	英語 I （S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う．ここでは，音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする．また，プレゼンテーションスキルを学び，身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする．受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	ﾃｷｽﾄはｸﾗｽにより異る• *Present Yourself, Level 2, 2nd ed.* (Cambridge UP, 2014; ISBN 978-1107435780)その他
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する．
評価方法	参加態度・予習・努力等（10%）、口頭発表（30%）、期末インタビュー（30%）、課題到達度（30%）

13 年度以降	英語 II （S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語 I （S）」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．定型言語形式の使用練習においては，自発的な発話場面においても，適切に使用できることを目標とする．また，プレゼンテーションスキルを学び，アカデミックなテーマに関するプレゼンテーションの練習をする．受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する． ・与えられたテーマによるプレゼンテーションのコンテスト Presentation Championship がクラスを超えた規模で行われる．

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語 I 」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ
参考文献	春学期に同じ
評価方法	春学期に同じ

13 年度以降	英語 I （W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ．パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない
テキスト	Chin, Koizumi, Reid, Wray, Yamazaki, *Academic Writing Skills 1* (Cambridge UP; ISBN 9781107636224)
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する．
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度（50%），期末作文課題（20%），授業参加態度（20%），ポートフォリオ（10%）

13 年度以降	英語Ⅱ （W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ．「英語 I （W）」に示した内容と目標を継承し，さらに発展的な学習を行う．パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語 I 」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない
テキスト	春学期に同じ
参考文献	春学期に同じ
評価方法	春学期に同じ

13 年度以降	英語Ⅲ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅱ（IE)」に引き続き，様々なテーマに基づく統合的学習を行う．主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで，テーマに関連した語彙学習も行う．この授業では，受講者は読んだ内容を適格に要約し，それを口頭でも再構築する．また，読んだ内容を建設的に批判し，自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる．最後に，そのユニットで学んだことを総合的に評価し，自分の意見を文章にまとめる．	各担当教員が初回の授業で指示する。 テキストはクラスによって異る． (Class A):*New Directions* (Cambridge UP). (Classes B-E): *Making Connections 3* (Cambridge UP). (Classes G-J): *Making Connections 2* (Cambridge UP)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない
テキスト	テキストはクラスによって異なる。
参考文献	特になし。
評価方法	授業内課題（40%)，多読関連（20%)，期末テスト（40%）

13 年度以降	英語Ⅳ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ（IE)」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を的確に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。	各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない
テキスト	春学期に同じ
参考文献	春学期に同じ
評価方法	春学期に同じ

13 年度以降	英語Ⅲ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
実質的なエッセイライティングを学ぶ．1 パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因–結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う．実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される．すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで，このためにブレーンストーミング，アウトラインプロセシング，資料の利用法といった新しい技法を学ぶ．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	*Basic Steps to Writing Research Papers, 2nd ed.* (Cengage) ・クラスにより追加教材が使用される．
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する．
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度（50%），期末作文課題（20%），授業参加態度（20%），ポートフォリオ（10%）

13 年度以降	英語Ⅳ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ（W）」に引き続き，実質的なエッセイライティングを学ぶ．1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが，いずれもより高度な内容を含み，より安定したスキルの証明が求められる．教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他，受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う．このほか随時正書法上の重要事項を学習する．授業の主要な使用言語は英語とする．また，課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする．受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる． 授業は英語で行われる．学生も英語で参加することが求められる．	各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．また，課題は必ず提出しなければならない．
テキスト	春学期に同じ．
参考文献	春学期に同じ．
評価方法	春学期に同じ．

13 年度以降	スペイン語 I （総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。（総合）は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 I （総合2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 発音 ② アクセント ③ 名詞の性・数 ④ 冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar動詞の活用 ⑦ ser, estar動詞の用法 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用の練習 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用の練習 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞の用法 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞の練習

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor　I （青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅱ（総合1）は、スペイン語 I （総合1, 2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用の練習 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形 ⑭ 動詞の活用---過去未来形

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor　I （青い表紙）” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語 I （総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I （総合 2）はスペイン語 I （総合 1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I （総合 1）と同（総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語 I （総合 1 ）に同じ。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	スペイン語 I （総合 1）に同じ。
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I （総合2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合2）はスペイン語Ⅱ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	スペイン語 I（総合 2）に同じ。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語 I （会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語 I （総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 I （総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 I （総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I （会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、過去完了、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、過去完了、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話1）の継続である。 （会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話1)、(会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、(総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話2）の継続である。 （会話1)、(会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、(総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	中国語Ⅰ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5. 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6. 形容詞述語文、選択疑問文 7. 前半のまとめ 8. 二重目的文、量詞 9. 連動文、年月日・曜日の言い方 10. “有／没有”、“几／多少”、方位詞、数詞 11. “在”、金額の表現 12. 助動詞、語気助詞“了” 13. 動態助詞“了”、時量・回数と時点、時間量の言い方 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする
テキスト	『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1. 主述述語文、程度補語、離合詞 2. 進行相、動詞の重ね型 3. 方向補語、結果補語 4. 持続相、可能補語 5. 経験相、将然相、時刻の表現 6. 存現文 7. 前半のまとめ 8. “把”字文、定着表現、到達表現 9. 比較の表現 10. 受身文 11. 様態補語 12. 使役文、後置修飾 13. “（是）…的”構文 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課　姓名の表現 5. 第 2 課　判断の表現 6. 発音・第 1 課・第 2 課の復習 7. 前半のまとめ 8. 第 3 課　程度の表現（Ⅰ） 9. 第 4 課　行為の表現 10. 第 5 課　時間の表現 11. 第 3 課～第 5 課の復習 12. 第 6 課　所有の表現 13. 第 7 課　存在の表現（Ⅰ） 14. 後半のまとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1. 第 8 課　生活習慣の表現 2. 第 9 課　行為完了の表現 3. 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課　願望と感情の表現 5. 第 12 課　条件と選択の表現 6. 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7. 前半のまとめ 8. 第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 9. 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 10. 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 11. 第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 12. 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 13. 第 14 課～第 18 課の復習 14. 後半のまとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新表現の達人Ⅰ』[基本ブック]（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，発音指導を中心に，簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課 5. 第 2 課 6. 第 3 課 7. 前半のまとめ 8. 第 4 課 9. 第 5 課 10. 復習 11. 第 7 課 12. 第 8 課 13. 後半のまとめ 14. 総復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。	1. 第 9 課 2. 第 10 課 3. 第 11 課 4. 第 12 課 5. 第 13 課 6. 第 14 課 7. 前半のまとめ 8. 第 15 課 9. 第 16 課 10. 第 17 課 11. 第 18 課 12. 第 19 課 13. 第 20 課 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課　姓名の表現 5. 第 2 課　判断の表現 6. 発音・第 1 課・第 2 課の復習 7. 前半のまとめ 8. 第 3 課　程度の表現（Ⅰ） 9. 第 4 課　行為の表現 10. 第 5 課　時間の表現 11. 第 6 課　所有の表現 12. 第 7 課　存在の表現（Ⅰ） 13. 後半のまとめ 14. 総復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1. 第 8 課　生活習慣の表現 2. 第 9 課　行為完了の表現 3. 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課　願望と感情の表現 5. 第 12 課　条件と選択の表現 6. 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7. 前半のまとめ 8. 第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 9. 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 10. 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 11. 第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 12. 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 13. 後半のまとめ 14. 総復習 ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『表現の達人Ⅰ』[発展ブック]（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 第 3 課 4. 第 4 課 5. 第 5 課 6. 第 6 課 7. 前半のまとめ 8. 第 7 課 9. 第 8 課 10. 第 9 課 11. 第 10 課 12. 第 11 課 13. 第 12 課 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『作文ルール６６ ― 日中翻訳技法 ― 』(朝日出版社)
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1. 第 13 課 2. 第 14 課 3. 第 15 課 4. 第 16 課 5. 第 17 課 6. 第 18 課 7. 前半のまとめ 8. 第 19 課 9. 第 20 課 10. 第 21 課 11. 第 22 課 12. 第 23 課 13. 第 24 課 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『作文ルール６６ ― 日中翻訳技法 ― 』(朝日出版社)
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典 ※ 見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 第 1 課・第 2 課の復習 4. 第 3 課 5. 第 4 課 6. 第 3 課・第 4 課の復習 7. 前半のまとめ 8. 第 5 課 9. 第 6 課 10. 第 7 課 11. 第 5 課～第 7 課の復習 12. 第 1 課～第 4 課に関連する読み物（プリント教材） 13. 第 5 課～第 7 課に関連する読み物（プリント教材） 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社）＋（各クラス担当者作成の）プリント教材
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1. 第 8 課 2. 第 9 課 3. 第 8 課・第 9 課の復習 4. 第 10 課 5. 第 11 課 6. 第 10 課・第 11 課の復習 7. 前半のまとめ 8. 第 12 課 9. 第 13 課 10. 第 14 課 11. 第 12 課～第 14 課の復習 12. 第 8 課～第 11 課に関連する読み物（プリント教材） 13. 第 12 課～第 14 課に関連する読み物（プリント教材） 14. 後半のまとめ ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社）＋（各クラス担当者作成の）プリント教材
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得し会話能力を養う。	1. ガイダンス・PCによる中国語の入力練習／第1課 2. 第2課 3. 第3課 4. 第1-3課の復習テスト　解答と解説 5. 第4課 6. 第5課 7. 第6課 8. 第4-6の復習テスト　解答と解説 9. 第7課 10. 第8課 11. 第9課 12. 第10課 13. 第7-10課の復習テスト　解答と解説 14. まとめ

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『音で覚える中国語会話特訓』同学社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（復習テスト・期末試験）75%，授業への参加度 25%

13 年度以降	中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得し会話能力を養う。	1. 第11課 2. 第12課 3. 第13課 4. 第11-13課の復習テスト　解答と解説 5. 第14課 6. 第15課 7. 第16課 8. 第14-16の復習テスト　解答と解説 9. 第17課 10. 第18課 11. 第19課 12. 第20課 13. 第17-20課の復習テスト　解答と解説 14. まとめ

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『音で覚える中国語会話特訓』同学社
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（復習テスト・期末試験）75%，授業への参加度 25%

13 年度以降	中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1.　第 1 課 2.　第 1 課の応用練習 3.　第 2 課 4.　第 2 課の応用練習 5.　第 3 課 6.　第 3 課の応用練習 7.　前半のまとめ 8.　第 4 課 9.　第 5 課 10.　第 4 課・第 5 課の応用練習 11.　第 6 課 12.　第 7 課 13.　第 6 課・第 7 課の応用練習 14.　後半のまとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1.　第 8 課 2.　第 9 課 3.　第 8 課・第 9 課の応用練習 4.　第 10 課 5.　第 11 課 买东西 6.　第 10 課・第 11 課の応用練習 7.　前半のまとめ 8.　第 12 課 9.　第 13 課 10.　第 12 課・第 13 課の応用練習 11.　第 14 課 12.　第 15 課 13.　第 14 課・第 15 課の応用練習 14.　後半のまとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	韓国語 I （文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ 2. 有声音化、激音、濃音 3. 終声、連音化 4. 名詞文 5. 存在文 6. 用言文 7. 漢語系数詞 8. 固有語系数詞、助数詞 9. 否定形 10. 尊敬形 11. 連用形 12. 해요体 13. 해요体の尊敬形 14. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ （文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 逆接・移動の目的表現 3. 連体形（未来・回想） 4. 婉曲表現 5. 不可能表現 6. 意志・意向の表現/謙譲・推量表現 7. 禁止表現/理由・誘い表現 8. 状態・動作の羅列/気づき・発見の表現 9. 条件・譲歩表現 10. 不可能表現 11. いろいろな形容詞 12. ことばの架け橋中級編－復習 13. 3課推量表現 14. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社　生越直樹『ことばの架け橋中級表現編』　白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ 2. 有声音化、激音、濃音 3. 終声、連音化 4. 名詞文 5. 存在文 6. 用言文 7. 漢語系数詞 8. 固有語系数詞、助数詞 9. 否定形 10. 尊敬形 11. 連用形 12. 해요体 13. 해요体の尊敬形 14. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ （文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認 2. 過去形（現在・過去） 3. 連体形 4. 連体形－未来意思形 5. ㄹ変則 6. ㄷ変則 7. ㅅ変則 8. ㅂ変則 9. ㅎ変則 10. ㄹ変則 11. 復習 12. 3課ぞんざいな文末表現（ことばの架け橋中級編） 13. 3課推量表現 14. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社　生越直樹『ことばの架け橋中級表現編』　白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 字母編1課 基本母音 3. 字母編3課 合成母音 4. 1課 SET1 自己紹介 5. 1課 SET2 疑問文 6. 1課 SET3 이/가 아닙니다 7. 3課 SET1 場所 8. 3課 SET2 固有数字 9. 3課 SET3 해요体/否定形 10. 復習 11. 5課 SET1 過去形 12. 5課 SET2 敬語表現/ 고 싶다 13. 5課 SET3 比較表現 14. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 7課 SET1 電話表現・不可能の못 2. 7課 SET2 理由の아서 / 아야 하다 3. 7課 SET3 誕生日と食べ物・誘いの表現 4. 9課 SET1 時間の順次 아서 5. 9課 SET1 連体形（現在） 6. 9課 SET2 許可の아도 되다　禁止の 으면 안 되다 7. 復習 8. 11課 SET1 進行の고 있다　推測の나 보다 9. 11課 SET2 르変則 10. 11課 SET2 病状のオノマトペ・病状の表現 11. 11課 SET2 状態の変化 아지다 12. 13課 SET1 色のことば、ㅎ脱落 13. 13課 SET2 直接引用文・命令の否定形・推量表現 14. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. オリエンテーション 2. 字母編2課 基本子音 3. 字母編4課 パッチム 4. 2課 SET1 注文・SET2 位置関連 5. 2課 SET3 漢数字 6. 復習 7. 4課 SET1 過去形・否定形 8. 4課 SET2 曜日 9. 4課 SET3 時間表現 10. 課外授業（ことわざ・慣用句） 11. 6課 SET1 天気予報 12. 6課 SET2 ㅂ変則 13. 6課 SET2 丁寧な命令形 14. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 8課 SET1 国の名前・理由の으니까 2. 8課 SET2 ㄷ変則・ 으変則 3. 8課 SET2 意図の으려고　条件の으면　目的の으러 4. 10課 SET1 連体形の未来・フォーマルな表現 5. 10課 SET2 ㅅ変則・意志の을 거예요 6. 10課 SET2 可能・不可能の을 수 있다/없다 7. 復習 8. 12課 SET1 道案内 9. 12課 SET2 連体形（過去）은 후에 10. 12課 SET2 同時の으면서/ 자마자 11. 14課 SET1 伝聞/ 기の慣用句 12. 14課 SET2 推量の을 것 같다 13. 14課 SET2 予想外の는 줄 알다 14. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung 『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の富裕なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認 2. 3課 会話・読解；図書館で 3. 3課 ぞんざいな文末表現 4. 5課 会話・読解；手紙 5. 5課 引用形 6. 5課 さまざまな表現 7. 復習 8. 7課 会話・読解；東大門市場で 9. 7課 受身形 10. 7課 さまざまな表現 11. 9課 会話・読解；チュソク 12. 9課 使役形 13. 9課 名詞に続く慣用句 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、特に「読む」と「書く」を中心にアカデミックライティングができることを目的とする	1. オリエンテーション 2. 予備編；正書法 3. 1章1課 ハングルは表音文字 4. 1章3課 インターネット言語と言語生活 5. 1章3課 序論・結論作成 6. 2章1課 公的・私的自意識が高い人の特徴 7. 2章3課 特自性欲求 8. 発表/フィードバック 9. 3章1課 需要と供給の原理 10. 3章3課 統計資料の説明 11. 4章1課 ニュートンのリンゴ 12. 4章3課 科学法則を説明する 13. 発表/フィードバック 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『西江韓国語学問目的ライティング 3』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、課題（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の富裕なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認 2. 4課 会話・読解；引っ越し祝い 3. 4課 未来連体形 4. 4課 さまざまな表現 5. 6課 会話・読解；映画 6. 6課 名詞化語尾 7. 6課 さまざまな表現 8. 復習 9. 8課 会話・読解；民俗村 10. 8課 さまざまな慣用句 11. 8課 さまざまな表現 12. 10課 会話・読解；日本国会演説 13. 10課 書き言葉で使われる表現 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、特に「読む」と「書く」を中心にアカデミックライティングができることを目的とする	1. オリエンテーション 2. 予備編；正書法 3. 1章2課 インターネット言語の特徴 4. 1章4課 試験答案の練習（肯定的・否定的面の記述） 5. 発表と発表のフィードバック 6. 2章2課 自己標的意識 7. 2章4課 公的自意識と自己標的意識の関連性 8. 前半の復習 9. 3章2課 グラーフを利用する 10. 3章4課 機会費用 11. 4章2課 エネルギーの法則 12. 4章4課 エネルギー保存法則とエントロピー法則 13. 後半の復習 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『西江韓国語学問目的ライティング 3』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、課題（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 描写・紹介をする 2. 1課 服装関係の表現 3. グループワーク；有名人を紹介する 4. 3課 約束・提案する 5. 3課 반말 6. グループワーク；パーティーの計画 7. 5課 言い訳する・助けを求める 8. 5課 아지다/ 아도/ 으라고 하다 9. グループワーク；問題の相談 10. 7課 心配を表現する 11. 7課 은지 알다 겠 12. グループワーク；謎謎 13. 9課 励ましの言葉 게 되다/ 기로 하다 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 2B』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 基本事項の確認 2. 1課 은 지 (time) 됐다/ 인데 3. グループワーク；有名人を紹介する 4. 3課 家探し 5. 3課 은/는 편이다/ 긴 하다 6. グループワーク；住みたい家について 7. 5課 外見・性格の描写 8. 5課 아 보니까 9. グループワーク；友達について描写とクイズ 10. 7課 心配を表現する 11. 7課 다면서요 / 을 텐데 걱정이다 12. グループワーク；10年後消える仕事と有望な仕事 13. 課外授業；慣用句 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. オリエンテーション 2. 2課 推測；는 것 같다 3. 2課 絵をみて話を作る 4. グループワーク；短い話を作って発表 5. 4課 比較；는데 6. 4課 写真を見せながら紹介する 7. グループワーク；昔話(콩쥐팥쥐)　ロールプレイ 8. 発表（演劇・紙芝居） 9. 6課 推薦; 은 적이 있다 10. 6課 観光地を推薦する 11. グループワーク；旅行地でのハプニング発表 12. 8課 間接話法 13. 課外授業；受け身 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 2B』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 2課 情報交換をする 2. 2課 으려면/間接話法 3. グループワーク； 部活やサークルの情報について 4. 4課 招待をする 5. 4課 을 테니까/ 으면서 6. グループワーク；結婚式やお葬式について発表 7. 6課 問題の解決 8. 6課 기 때문에/ 았으면 좋겠다/ 던데 9. グループワーク;改善してほしいことについて発表する 10. 8課 公共施設の利用 11. 8課 을 텐데 / 다면서요? 12. グループワーク；アルバイトの経験について発表 13. 課外授業；使役 14. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Social Media）	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will explore various issues related to social media by reading scholarly articles written on the topic. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Discussion Week: 6 ways social media harms us 3. Discussion Week: What about the benefits? 4. Research Paper: Structure of Introduction 5. Research Paper: Structure of Body Paragraphs 6. Research Paper: Topic and Bibliography 7. Research Paper: Detailed Outline 8. Research Paper: Quotations and Paraphrases 9. Research Paper: First Draft and Conferencing 10. Discussion Week: A tool of manipulation? 11. Discussion Week: Social media in education 12. Revised draft and feedback 13. Oral Presentation：Group A 14. Oral Presentation：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Decreasing Population in Japan）	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will explore the theme, population problem in japan, from various perspectives by reading scholarly articles. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Discussion: Demographic time bomb in action 3. Discussion: Humanoids instead of humans? 4. Research Paper: Structure of Introduction 5. Research Paper: Structure of Body Paragraphs 6. Research Paper: Topic and Bibliography 7. Research Paper: Detailed outline 8. Research Paper: Quotations and Paraphrases 9. Research Paper: First Draft and Conferencing 10. Discussion: More women in the workforce 11. Discussion: What about the working mothers? 12. Revised Draft and Final Feedback 13. Oral Presentation：Group A 14. Oral Presentation：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(Social Discrimination: Workplace and Physical Ability)	担当者	B．バッタ

講義目的、講義概要	授業計画
□ Content In this course, students will examine the issues related to discrimination prevailing in various societies. The reading and discussion bases on a range of articles addressing the issue from workplace, and physical abilities. □ Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □ Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	Weekly Schedule Week 1: Introduction and Discussion of the Objectives Week 2: Reading and Discussion of Possible Topics Week 3: Topic Conference and Outlining Week 4: Resourcing: Paraphrasing and Quoting Week 5: Discussion: Style of Academic Research Week 6: Research Paper Writing: First Draft Week 7: Research Paper Writing: Peer Review Week 8: Research Paper Writing: Second Draft Week 9: Research Paper Writing: Peer Review Week 10: Plagiarism Checking and Referencing Week 11: Research Paper Writing: Final Draft Week 12: Evaluating and Finalizing Final Draft Week 13: Presentations Group A Week 14: Presentations Group B, Concluding Remarks

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook unites or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials and handouts will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題(15%), Research Paper (55%: Outline, Drafts, Final Product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(Social Discrimination: Gender and Race)	担当者	B．バッタ

講義目的、講義概要	授業計画
□ Content In this course, students will examine the issues related to discrimination prevailing in various societies. The reading and discussion bases on a range of articles addressing the issue from race, gender, and others. □ Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □ Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	Weekly Schedule Week 1: Introduction and Discussion of the Objectives Week 2: Reading and Discussion of Possible Topics Week 3: Topic Conference and Outlining Week 4: Resourcing: Paraphrasing and Quoting Week 5: Discussion: Style of Academic Research Week 6: Research Paper Writing: First Draft Week 7: Research Paper Writing: Peer Review Week 8: Research Paper Writing: Second Draft Week 9: Research Paper Writing: Peer Review Week 10: Plagiarism Checking and Referencing Week 11: Research Paper Writing: Final Draft Week 12: Evaluating and Finalizing Final Draft Week 13: Presentations Group A Week 14: Presentations Group B, Concluding Remarks

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook unites or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials and handouts will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), Research Paper (55%: Outline, Drafts, Final Product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE） (History of the Home: The Heart of Research, 1800s)	担当者	Ｊ．Ｇ．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will study the physical, social and economic histories of the home, and how research in these three different fields can be combined into a cohesive whole. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Topics and Sources 3. The Working Outline and Class Discussion 4. The Outline Continued 5. Style and Class Discussion 6. The Introduction and Class Discussion 7. The First Draft and Class Discussion 8. Body One and Discussion of Candle Light 9. Body Two and Discussion of Wealthyn Lifestyles 10. Body Three, Conclusion and Class Discussion 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and Rewriting 13. Presentations：Group A` 14. Presentations：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	At Home:　A Short History of Private Life (Bryson, Black Swan) ISBN978-0-552772-55-6
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE） (History of the Home: The Heart of Research, 1900s)	担当者	Ｊ．Ｇ．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will study the physical, social and economic histories of the home and how research in these three different fields can combined into a cohesive whole. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Topics and Sources 3. The Working Outline and Class Discussion 4. The Outline Continued 5. Style and Class Discussion 6. The Introduction and Class Discussion 7. The First Draft and Class Discussion 8. Body One and Discussion of Edison/Electricity 9. Body Two and Discussion of Inventions 10. Body Three, Conclusion and Class Discussion 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and Rewriting 13. Presentations：Group A 14. Presentations：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	At Home:　A Short History of Private Life (Bryson, Black Swan) ISBN978-0-552772-55-6
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級　(AE) (The Works of George Orwell)	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
Content: Students will read extracts from a variety of novels and essays by George Orwell, learn from the model of his lucid prose, and discuss themes such as poverty, class, imperialism, war, nostalgia, totalitarianism, and mechanisation. Reading and Discussion: • Read and evaluate texts in social sciences and humanities. • express one's opinions about the course topic in a discussion constructively Writing and Presentations: • write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) • Make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction; The Life of George Orwell 2. Down and Out in Paris and London: Poverty 3. The Road to Wigan Pier (1): Unemployment; Class 4. The Road to Wigan Pier (2): Mechanisation 5. Reflections on Gandhi / Burmese Days (1) 6. Burmese Days (2): Imperialism / Research Paper: Topic and Bibliography 7. Homage to Catalonia: War / Research paper: detailed outline 8. Animal Farm: More Equal Than Others 9. Coming Up For Air: Nostalgia 10. Research Paper: First Draft / In Defence of P.G. Wodehouse: Cross-cultural Misunderstandings 11. You and the Atomic Bomb / 1984 (1) 12. 1984 (2): Totalitarianism / Research Paper: Revised Draft 13. Presentations：Group A 14. Presentations：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before the beginning of the following class. Students are also expected to work on their research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers. (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	特になし。
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級　(AE) (The Works of George Orwell)	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
Content: Students will read extracts from a variety of novels and essays by George Orwell, learn from the model of his lucid prose, and discuss themes such as poverty, class, imperialism, war, nostalgia, totalitarianism, and mechanisation. Reading and Discussion: • Read and evaluate texts in social sciences and humanities. • express one's opinions about the course topic in a discussion constructively Writing and Presentations: • write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) • Make a visually aided presentation of the paper. Class is taught and participated in English.	1. Introduction; The Life of George Orwell 2. Down and Out in Paris and London: Poverty 3. The Road to Wigan Pier (1): Unemployment; Class 4. The Road to Wigan Pier (2): Mechanisation 5. Reflections on Gandhi / Burmese Days (1) 6. Burmese Days (2): Imperialism / Research Paper: Topic and Bibliography 7. Homage to Catalonia: War / Research paper: detailed outline 8. Animal Farm: More Equal Than Others 9. Coming Up For Air: Nostalgia 10. Research Paper: First Draft / In Defence of P.G. Wodehouse: Cross-cultural Misunderstandings 11. You and the Atomic Bomb / 1984 (1) 12. 1984 (2): Totalitarianism / Research Paper: Revised Draft 13. Presentations：Group A 14. Presentations：Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before the beginning of the following class. Students are also expected to work on their research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers. (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	特になし。
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Issues A）	担当者	R．ラビーニ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Alternative Global Issues In this course, students will examine issues connected to alternative media including topics on the pharmaceutical industry and health matters. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one’s opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and overview 2. Choosing a Topic and Discussion / Titles 3. Topics Proposals / Outlines 4. Plagiarism and Referencing 5. Paraphrasing and quotations 6. Research paper: writing an abstract 7. Research paper: detailed outline 8. Research paper: first draft and conferencing 9. Editing and Peer Review / Revised Draft 10. Presentation Preparation 11. Research paper: Final draft 12. Oral presentation 1: group A 13. Oral presentation 2: group B 14. Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Handouts will be given by the teacher periodically
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Issues B）	担当者	R．ラビーニ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Alternative Global Issues In this course, students will examine issues connected to alternative media including topics on the environment and international conflicts. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one’s opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and overview 2. Choosing a Topic and Discussion / Titles 3. Topics Proposals / Outlines 4. Plagiarism and Referencing 5. Paraphrasing and quotations 6. Research paper: writing an abstract 7. Research paper: detailed outline 8. Research paper: first draft and conferencing 9. Editing and Peer Review / Revised Draft 10. Presentation Preparation 11. Research paper: Final draft 12. Oral presentation 1: group A 13. Oral presentation 2: group B 14. Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Handouts will be given by the teacher periodically
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Language and Culture)	担当者	齋藤　雪絵

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several issues related to language and culture such as the definition of culture, stereotyping, and communication styles. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction & Course overview 2. Discussions on possible topics 3. Research paper: How to find reliable sources 4. Research paper: Topic proposals and approval 5. Research paper: Thesis and working outline 6. Research paper: Detailed outline & Introduction 7. Individual conference: Feedback on detailed outline 8: Research Paper: Body & Conclusion 9: Research paper: Citing & Referencing 10: Research paper: Peer editing 11: Review: How to make effective presentations 12: Individual conference: Feedback on 1st Draft 13: Oral Presentation 1: Group A 14: Oral Presentation 2: Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 及び配布資料
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Language and Culture)	担当者	齋藤　雪絵

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several issues related to language and culture such as the definition of culture, stereotyping, and communication styles. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction & Course overview 2. Discussions on possible topics 3. Research paper: How to find reliable sources 4. Research paper: Topic proposals and approval 5. Research paper: Thesis and working outline 6. Research paper: Detailed outline & Introduction 7. Individual conference: Feedback on detailed outline 8: Research Paper: Body & Conclusion 9: Research paper: Citing & Referencing 10: Research paper: Peer editing 11: Review: How to make effective presentations 12: Individual conference: Feedback on 1st Draft 13: Oral Presentation 1: Group A 14: Oral Presentation 2: Group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 及び配布資料
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Technology in Our Lives)	担当者	中村　香代子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine how technology benefits and affects our lives today. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1　Introduction and Course Overview 2　Reading & Discussion on Robots 3　Reading & Discussion on Medicine 4　Reading & Discussion on Brain Functions 5　Research Paper：Thesis and Detailed Outline 6　Reading & Discussion on Agriculture 7　Reading & Discussion on Virtual Reality 8　Research Paper：First Draft and Conferencing 9　Reading & Discussion on Space 10　Research Paper：Group Work 11　Research Paper：Revised Draft 12　Oral Presentation 1：Group A 13　Oral Presentation 2：Group B 14　Oral Presentation 3：Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps for Writing Research Papers* (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	授業中に紹介
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Social issues)	担当者	中込　知子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course students will examine various issues in society. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Reading and discussion (Animals in Zoos) 3. Reading and discussion (Security Camera) 4. Reading and discussion (Space Exploration) 5. Reading and discussion (Artificial Intelligence) 6. Reading and discussion (Life-prolonging Treatment) 7. Reading and discussion (Trusting Statistics) 8. Research paper (Brainstorming & outlining) 9. Research paper (First draft) 10. Research paper (Peer review) 11. Presentation preparation 12. Oral presentation: Group A 13. Oral presentation: Group B 14. Oral presentation: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	初回授業で紹介
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(School Bullying)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine different aspects of 'School Bullying' at middle schools in the United States. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1 Introduction 2 Learn definitions of bulling 3 Discuss bullying 4 Discuss what causes school bulling 5 Discuss different kinds of school bullying comparing US and Japan 6 Discuss prevention measures to stop bullyings 7 Discuss what adults can do 8 Watch film to discuss school bullying 9 Learn about structure and footnotes of research paper 10 Retrieve rough drafts for research paper 11 Return checked rough drafts with comments 12 Presentation1:Group A and retrieve research papers 13 Presentation2:Group B and retrieve research papers 14 Presentation3:Group C and retrieve research papers

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	電子ファイル
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE） (Animals and Domestication　School Bullying)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine different aspects of domestication of Animals and human beings. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1 Introduction 2 Learn definitions of domestication and taming and discuss pets you have ever kept 3 Discuss when humans started practicing domestication 4 Discuss what makes an animal possible to domesticate 5 Discuss if domesticated species are all mutants 6 Discuss what happens when you domesticate a species? 7 Discuss if humans are domesticated 8 Watch film to discuss limitation of animal domestication 9 Learn about structure and footnotes of research paper 10 Retrieve rough drafts for research paper 11 Return checked rough drafts with comments 12 Presentation1:Group A and retrieve research papers 13 Presentation2:Group B and retrieve research papers 14 Presentation3:Group C and retrieve research papers

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	電子ファイル
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Sociological Issues I)	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several sociological issues (e.g., marriage, influences of media). □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction, 2. Marriage 3. Family 4. Peer 5. Mass media 6. Research Paper: Topic and sources 7. Research Paper: Detailed outline 8. Social media 9. Research Paper: First draft 10. Privacy and media 11. Research Paper: Revised draft 12. Oral Presentation 1: Group A 13. Oral Presentation 2: Group B 14. Oral Presentation 3: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps to Writing Research Papers* (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-86312-308-3&配布資料
参考文献	なし
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Sociological Issues II)	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several sociological issues (e.g., gender, crime). □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction, 2. Gender 3. Mass media and gender role 4. Balancing home and work 5. Crime 6. Research Paper: Topic and sources 7. Research Paper: Detailed outline 8. Crime fighting 9. Research Paper: First draft 10. Crime and punishment 11. Research Paper: Revised draft 12. Oral Presentation 1: Group A 13. Oral Presentation 2: Group B 14. Oral Presentation 3: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps to Writing Research Papers* (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-86312-308-3&配布資料
参考文献	なし
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues I)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to help students explore interconnected global issues and challenges from multiple perspectives. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction / Academic skills 2. Stereotypes and Racism 3. Information and Communication 4. Culture and Fashion 5. Health 6. Food 7. A Sound Material-Cycle Society 8. Global Warming 9. Research paper: topic and bibliography 10. Research paper: detailed outline 11. Research paper: first draft and conferencing 12. Research paper: revised draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 2: group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および CLIL GLOBAL ISSUES
参考文献	Handouts / (Sasajima, S.,*et al.*, SANSHUSHA)
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues II)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to help students examine interrelated global issues from multiple perspectives in an interdependent global community. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction / Academic skills 2. Energy 3. Ecosystems and Humans 4. Endangered Species 5. International Relationships 6. War and Peace 7. Human Rights 8. Global Citizenship 9. Research paper: topic and bibliography 10. Research paper: detailed outline 11. Research paper: first draft and conferencing 12. Research paper: revised draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 2: group B

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および CLIL GLOBAL ISSUES
参考文献	Handouts / (Sasajima, S.,*et al.*, SANSHUSHA)
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語上級 （AE） (Issues in Society A)	担当者	春川　真理恵

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to allow the students to engage in and explore a variety of current issues in society. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction to the course of studies. 2. Why learn English. Introduction to the topic. 3. English as an international language. 4. Should English be compulsory in Japanese schools? 5. Japanese work ethics. Introduction to the topic. 6. Japanese work practices. 7. Japanese company culture. 8. Structure of the research paper. Introduction. 9. Building your research paper. 10. First draft. Peer review. 11. Revised draft. 12. Oral presentations. Group A 13. Oral presentations. Group B 14. Oral presentations. Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および配布資料
参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級 （AE） (Issues in Society B)	担当者	春川　真理恵

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to allow the students to engage in and explore a variety of current issues in society. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction to the course of studies. 2. Family issues. Introduction to the topic. 3. Traditional family, marriage and divorce. 4. Equality in marriage. 5. Right to die. Introduction to the topic. 6. Assisted suicide. 7. International comparisons of euthanasia. 8. Structure of the research paper. Introduction. 9. Building your research paper. 10. First draft. Peer review. 11. Revised draft. 12. Oral presentations. Group A 13. Oral presentations. Group B 14. Oral presentations. Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および配布資料
参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%), 課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（再履修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
Content In this course, students will examine and discuss contemporary topics using various sources such as journal articles and internet. **Reading & Discussion** Read and evaluate texts in social sciences and humanities Express one's opinions about the course topic in a discussion constructively **Writing & Presentations** Write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography Make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English	1.Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion: Brainstorming 3. Reading & Discussion: Topic Selection 4. Reading & Discussion: Research method 5. Research Paper: Basics of Academic Writing 6. Reading & Discussion: Introduction 7. Reading & Discussion: Body 8. Research Paper: First Draft and Conferencing 9. Research Paper: Peer Review 10. Research Paper: Revised Draft 11. Research Paper: Editing 12. Final Presentation: Group One 13. Final Presentation: Group Two 14. Review of the Course The content is subject to change

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning)
参考文献	To be announced by the instructor
評価方法	準備・参加 (10%), 課題 (15%), Research paper (55%: outline, drafts, final product), Presentation (20%)

13 年度以降	英語上級（再履修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
Content In this course, students will examine and discuss more advanced topics using various sources using various types of publications. **Reading & Discussion** Read and evaluate texts in social sciences and humanities Express one's opinions about the course topic in a discussion constructively **Writing & Presentations** Write a research paper on the course topic with appropriate citation 700-1,000 words + bibliography Make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English	1. Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion: Topic Sharing 3. Reading & Discussion: Individual Research 4. Reading & Discussion: Information analysis 5. Research Paper: Thesis and Outline 6. Reading & Discussion: Paraphrasing 7. Reading & Discussion: Reviewing Arguments 8. Research Paper: First Full Draft 9. Research Paper: Conferencing 10. Research Paper: Revised Full Draft 11. Research Paper: Editing/ Peer Review 12. Final Presentation: Group One 13. Final Presentation: Group Two 14. Review of the Course The content is subject to change

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning)
参考文献	To be announced by the instructor
評価方法	準備・参加(10%), 課題(15%), Research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表(20%)

13 年度以降	英語演習 I （ニュース英語で英語力強化）	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では,英語の生のニュースを素材に、語彙力とリスニング力を向上させるとともに、英語構文力と理解力を養成します。 ネットで配信されている英語ニュース（VOA, BBC, CNN10 など）を聞き、日々世界で起きている出来事について学んでいきます。 まず、世界の出来事を英語で理解するための語彙を習得し、時事英語で用いられる用語・表現を適切な日本語に変換できるようにします。徐々に早いスピードのニュースを聞き、聞き取りが難しいところは、ニュース原稿で確認し、構文の分析、正確な内容把握を行います。また、このクラスを通し、世界情勢を理解する背景知識も英語と日本語で身に着けていきます。	(1) 導入：時事問題診断テスト (2) 英語ニュースサイトの紹介 (3) 英語ニュースのディクテーション (4) 英語ニュースに必要な語彙力養成 (5) 英語ニュースのパラグラフ構造 (6) 英語ニュースの聞き方 (7) 最近の国際的事件総括 (8) 英語ニュースのスタイル (9) 英語ニュースの読み方 (10) 英語ニュースのシャドーイング (11) 英語ニュースのスピードへの対応 (12) 英語ニュースの原稿翻訳 (13) ボイスオーバーで実践 (14) 総括

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で課題が出され、また小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	小林 敏彦『ニュース英語パワーボキャビル 4000 語 』, 語研, 1998　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	課題　(30%)　小テスト　(30%)　授業中の実践　(40%)

13 年度以降	英語演習 I (映画とレクチャーで学ぶ異文化コミュニケーション)	担当者	中村　香代子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では異文化コミュニケーションに関する様々なトピックを軸に、総合的な英語力向上を目指します。映画「グラントリノ」を使ってたっぷりリスニング練習をすると共に、映画中の役立つ表現を覚え、ロールプレイを通して会話の自然なリズムやスピードを身につけて行きます。 コース後半ではレクチャーやリーディングを通してトピックの理解を更に深めます。また映画やレクチャー、リーディングの内容についてディスカッションを重ねることで、スピーキング力も鍛えていきます。 学期末にはクラスで扱ったトピックに関して各自プレゼンテーションをしてもらいます。その準備過程がリーディング・ライティング練習になるのはもちろんですが、効果的な発表の仕方やレジメの書き方も一緒に学びましょう。	1　ガイダンスとディスカッション 2　映画（リスニング・ディスカッション）生と死 3　映画（リスニング・ディスカッション）戦争の英雄 4　映画（リスニング・ディスカッション）新しい文化 5　映画（リスニング・ディスカッション）文化的タブー 6　映画（リスニング・ディスカッション）人生の道 7　映画（リスニング・ディスカッション）解決策 8　英語表現クイズとロールプレイテスト 9　ノンバーバルコミュニケーション（身振り・時間） 10　ノンバーバルコミュニケーション（空間・接触） 11　ノンバーバルコミュニケーション（パラ言語） 12　異文化コミュニケーション（リーディング） 13　プレゼンテーション 1：Group A 14　プレゼンテーション 2：Group B

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ英語表現の復習や音読の練習をし、リーディングプリントは意味を調べて、内容を予習しておきましょう。
テキスト	教材プリントは教員が準備・配布します。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	授業態度とディスカッションにおける貢献度(30%)、英語表現クイズとロールプレイ（40%)、プレゼンテーション(30%)で総合的に評価します。

13 年度以降	英語演習 II (Consumer Society)	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the notion of consumer culture and explore its different aspects as well as its influence on human relations. The goal of the course is to improve students' reading and discussion skills.	1. Orientation and Introduction 2. History of Consumerism: Introduction 3. How Humans Became Consumers? : Some Theories 4. Most Recent Discussion on Consumerism 5. What is Conspicuous Consumption: Thorstein Veblen 6. Edward Barney as the father of public relations 7. The New Mind Manipulators: Social media 8. Being Busy as a Symbol of Status 9. Wellness Boom 10. Oral Presentation Structure and Template 11. Use of Visuals in Presentations 12. A Guide to Effective Q&A Session 13. Presentations : Group A 14. Presentations : Group B

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to answer the questions on assigned reading materials prior to the class and should bring a copy of their answers to the class. Handwriting is not accepted.
テキスト	Students are not required to buy a textbook.
参考文献	Reading materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（20%), 課題（40%), 口頭発表（40%） 出席: 出席を大前提とし、5 回以上した場合は不合格とする。

13 年度以降	英語演習 II（Kawaii Culture)	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, students will read scholarly articles on Kawaii culture and examine its social implications from various perspectives. The goal of the course is to improve students' reading and discussion skills.	1. Orientation and Introduction 2. What is Kawaii?: Four Definitions Explored 3. The New Science of Cute: Definition of Kawaii/Cute 4. The New Science of Cute: Understanding cute in the West 5. The New Science of Cute: Cute in Japan 6. Kawaii in a Gendered Context: Cute or Capable? 7. Kawaii in a Gendered Context: Cute and Masculine? 8. Cuteness as a New Drug 9. Power of Cute Puppies 10. Oral Presentation Structure and Template 11. Use of Visuals in Presentations 12. A Guide to Effective Q&A Session 13. Presentations : Group A 14. Presentations : Group B

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to answer the questions on assigned reading materials prior to the class and should bring a copy of their answers to the class. Handwriting is not accepted.
テキスト	Students are not required to buy a textbook.
参考文献	Reading materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（20%), 課題（40%), 口頭発表（40%） 出席: 出席を大前提をとし、5 回以上した場合は不合格とする。

13 年度以降	英語演習 II （児童英語教育）	担当者	澁井　とし子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、young learnersに対する外国語教育の理論と指導法を扱う。まず初めに子どもの学習者と大人の学習者の違いを理解し、認知発達、母語獲得、バイリンガリズム、年齢的要因、第二言語習得の観点から検証し、早期で始める意義について考察する。次に、4技能に関する具体的な指導法を学ぶ。メタ認知ストラテジー、異文化意識、評価、そして教材研究も行う。授業ではディスカッションと発表も取り入れるので、各自の積極的な参加を望む。	1 Orientation & Getting ready 2 Learning and development 3 Learning the first language at home and at school 4 Learning second languages at home and at school 5 Policy: primary ELT programmes 6 Teaching listening and speaking 7 Teaching reading and writing 8 Teaching vocabulary and grammar 9 Learning to learn 10 Materials evaluation and materials design 11 Assessment 12 Intercultural awareness 13 Research in the primary English classroom 14 Presentation

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習として毎回テキストの範囲を読んでおくこと。 復習として学んだことを整理し、大切なポイントをまとめておくこと。
テキスト	*Teaching Young Language Learners*　second edition (Annamaria Pinter　Oxford, 2017)
参考文献	小川隆夫・東仁美著『小学校はじめる教科書　外国語・外国語活動指導者養成のために－コアカリキュラムに沿って』
評価方法	授業への参加度 20%、課題発表 30%、小テスト 30%、プレゼンテーション 20%

13 年度以降	英語演習 II （The Screenplay and Formal Analysis）	担当者	J．G．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
Students will write a screenplay and do a formal analysis of a film, and apply both to other professional fields.	1. Introduction and Professional Development 2. Introduction to Screenwriting and Formal Analysis 3. The Screenplay and Analysis Essay 4. Direction, Dialogue and Class Analysis 5. Analysis Essay 6. Class Analysis 7. Movie Analysis Presentations：Group A 8. Movie Analysis Presentations：Group B 9. Professional Analysis 10. Class Analysis 11. Script Readings：Group A 12. Script Readings：Group B 13. Professional Analysis Presentations：Group A 14. Professional Analysis Presentations：Group B

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare for class discussions, write a short formal analysis of a movie, write part of a short screenplay, write a short analysis related to future career goals and present their analyses.
テキスト	Students are not required to buy a textbook.
参考文献	Reading materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	assignments 20%, presentations 20%, writing 60 % 出席: 出席を大前提とし、5 回以上欠席した場合は不合格とする。

13 年度以前	英語演習Ⅱ（SDGs Ⅰ）	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は，英語を媒体とし，(1)国連で採択された 2016-2030 年の 17 の SDGs (Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標)の内，1～9 のゴール及びターゲットを理解し各方面の取組み等を体系的に学ぶ。(2) 多様な視点とともに包括的に身近な事柄と世界を見る力を培う。(3) 国際社会に必要なスキルの向上を目指す。 ■授業構成は，(1) ウォームアップ (2) インプット(3) アウトプットの３段階とし，授業は全て英語で行う。 ◆インプットでは，英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有し，内容の理解を深め，リスニングやリーディング力の向上を図る。◆アウトプットでは，ディスカッション，ディベート，ネゴシエーション，ファシリテーション，ペア/ グループワーク等を行う。さらに，リサーチやライティングも行い英語による発信力を鍛える。	1. オリエンテーション 2. ◆SDGs の概要・アジェンダ ◆アカデミック・スキルズ 3. GOAL 1 (NO POVERTY) 4. GOAL 2 (ZERO HUNGER) 5. GOAL 3 (GOOD HEALTH AND WELL-BEING) 6. GOAL 4 (QUALITY EDUCATION) 7. G1～G4 復習及びプレゼンテーション 8. GOAL 5 (GENDER EQUALITY) 9. GOAL 6 (CLEAN WATER AND SANITATION) 10. GOAL 7 (AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY) 11. GOAL 8 (DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH) 12. GOAL 9 (INDSUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE) 13. G5～G9 の復習及びグループワーク 14. グループプロジェクト・評価

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎時の SDG についての予習・復習及び課題
テキスト	随時ハンドアウト・資料を配布
参考文献	随時紹介
評価方法	授業への参加度・貢献度 20%　クラス内外の課題 50%　　プレゼンテーション 30%

13 年度以前	英語演習Ⅱ（SDGsⅡ）	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は，英語を媒体とし，(1)国連で採択された 2016-2030 年の 17 の SDGs (Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標)の内，10～17 のゴール及びターゲットを理解し各方面の取組み等を体系的に学ぶ。(2) 多様な視点とともに包括的に身近な事柄や世界を見る力を培う。(3) 国際社会に必要なスキルの向上を目指す。 ■授業構成は，(1) ウォームアップ (2) インプット(3) アウトプットの３段階とし，授業は全て英語で行う。 ◆インプットでは，英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有し，内容の理解を深め，リスニングやリーディング力の向上を図る。◆アウトプットでは，ディスカッション，ディベート，ネゴシエーション，ファシリテーション，ペア/ グループワーク等を行う。さらに，リサーチやライティングも行い英語による発信力を鍛える。	1. オリエンテーション 2. ◆SDGs の概要・アジェンダ ◆アカデミック・スキルズ 3. GOAL 10 (REDUCED INEQUALITIES) 4. GOAL 11 (SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES) 5. GOAL 12 (RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION) 6. Goal 13 (CLIMATE ACTION) 7. G10～G13 復習及びプレゼンテーション 8. GOAL 14 (LIFE BELOW WATER) 9. GOAL 15 (LIFE ON LAND) 10. GOAL 16 (PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS) 11. GOAL 17 (PARTNERSHIPS FOR THE GOALS) 12. G14～17 の復習及びプレゼンテーション 13. SDGs 全体のまとめ 14. グループプロジェクト・評価

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎時の SDG ついての予習・復習および課題
テキスト	随時プリント・資料を配布
参考文献	随時紹介
評価方法	授業への参加度・貢献度 20%　クラス内外の課題 50%　　プレゼンテーション 30%

13 年度以降	英語演習Ⅱ　(映画英語)	担当者	中込　知子

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリストを目指す 20 代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 The Devil Wears Prada を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義概要 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンをグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。 グループプロジェクトとして 1 シーンの script の共同執筆、ロールプレイの発表がある。	1. Introduction 2. Unit 1 Andy Meets Miranda 3. Unit 2 Andy's First Day at Runway 4. Unit 3 Miranda, the Almighty 5. Unit 4 Andy's Metamorphosis 6. Unit 5 Andy Performs a Miracle 7. Group Project (Brainstorming & Outlining) 8. Group Project (Script Writing) 9. Group Project (Role Play) 10. Unit 6 Andy's Stock Goes Up 11. Unit 7 Andy's Dilemma 12. Unit 8 A Night in Paris 13. Unit 9 A Plot against Miranda 14. Unit 10 Andy's Final Choice

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	前回の授業の復習と事前に指示された部分の予習をしてくること。
テキスト	Aline Brosh McKenna, *The Devil Wears Prada* 松柏社
参考文献	特になし
評価方法	授業への積極的参加度（30%）　課題、口頭発表（40%）　期末テスト（30%）

13 年度以降	英語演習Ⅱ（ニュース英語で英語力強化）	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では,英語の生のニュースを素材に、語彙力とリスニング力を向上させるとともに、英語構文力と理解力を養成します。英語演習Ⅰより、長い複雑なニュースを素材として使用します。 ネットで配信されている英語ニュース（VOA, BBC, CNN10 など）を聞き、日々世界で起きている出来事について学んでいきます。 まず、世界の出来事を英語で理解するための語彙を習得し、時事英語で用いられる用語・表現を適切な日本語に変換できるようにします。徐々に早いスピードのニュースを聞き、聞き取りが難しいところは、ニュース原稿で確認し、構文の分析、正確な内容把握を行います。また、このクラスを通し、世界情勢を理解する背景知識も英語と日本語で身に着けていきます。	(1) 導入：時事問題診断テスト (2) 英語ニュースサイトの紹介 (3) 英語ニュース　NHK World News (4) 英語ニュース　PBS Newshour (5) 英語ニュース　CNN 10 (6) 英語ニュースに必要な語彙力増強 (7) 最近の国際的事件総括 (8) 英語ニュースの聞き方 (9) 英語ニュースのスタイル (10) 英語ニュースの読み方 (11) 英語ニュースのスピードへの対応 (12) 英語ニュース原稿の翻訳 (13) ボイスオーバーで実践 (14) 総括

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で課題が出され、また小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	小林 敏彦『ニュース英語パワーボキャビル 4000 語 』, 語研, 1998　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	課題　(30%)　小テスト　(30%)　授業中の実践　(40%)

13 年度以降	英語演習Ⅱ（American Comic Book Culture）	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, we will take a look at the cultural history and background of American comic books. In class, students will improve their critical thinking and discussion skills by taking a closer look at American comic book culture while comparing it with its counterpart in Japan. How are American and Japanese comic books different? What are the cultural and historical influences that have created these differences? Each week, students will learn about a different aspect of U.S. comic books while discussing and presenting on influences such as immigration, gender, and fan culture. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension.	1. Introduction and course overview (How to read a comic book) 2. A Brief History of American Comic Books (1933 to Present) 3. Immigrant origins of Superheroes (Superman and Beyond) 4. Immigrant issues in Comic Books (Immigration Issues Today) 5. Women in Comics (Wonder Woman) 6. Women in Comic books (She Makes Comics) 7. The Ten Cent Plague: Censorship and Comics 8. Censorship in Comics Continued (Comics Code Presentations) 9. The Marvel Age (Comic Books in the 60s and Beyond) 10. The Diversification of Comic Books (Underground Comics) 11. Comic Books in Film (Extended Universes) 12. Comic Book Culture (Fandom) 13. Fan Culture & Activism 14. Course Review

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Participation is crucial in this class. Outside readings and writing in reflection journal, are required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations.
テキスト	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.
参考文献	特になし。
評価方法	Participation and Attitude 20% /Reflection Journal and Homework 50% Presentations 20% Take Home Test 10 %

13 年度以降	英語演習Ⅱ（Science Fiction）	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, we will look at how current issues are portrayed in the genre of science fiction. Science fiction is not only about robots and spaceships, but is also known for asking important questions about the future and what it means to be human. Through readings, short films, and class discussions, students will take a critical look at the present while learning to organize and discuss their ideas about problems in the world today. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension.	Week 1: Course Introduction and Overview Week 2: The Environment (Climate Change) Week 3: The Environment (Climate Change Cont) Week 4: Gender Roles and Family (Beholder) Week 5: Gender Roles and Family (Advantageous) Week 6: Work and Education (Educational Technology) Week 7: Work and Education (Education and Inequality) Week 8: Immigration and Globalization (The Other Side) Week 9: Immigration and Globalization (Presentations) Week 10: Identity and Virtual Reality (Code Academy) Week 11: Identity and Virtual Reality(Digital Antiquities) Week 12: Artificial Intelligence (Robot Walks into a Bar) Week 13: Artificial Intelligence (A.I.) Week 14: Course Review

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Participation is crucial in this class. Outside readings and writing in reflection journal,are required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations.
テキスト	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.
参考文献	特になし。
評価方法	Participation and Attitude 20% /Reflection Journal and Homework 50% Presentations 20% Take Home Test 10 %

13 年度以降	翻訳通訳論・英語	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，基礎的な通訳技能訓練法を通して，語彙力・リスニング力・スピーキング力・文章構成力など総合的な英語力を向上させることを目標とします。 初心者のためのリスニングとスピーキングのスキル強化を特に重視し，基本に忠実でシステマティックなトレーニングを，英日・日英双方向で行います。聴き取り，語彙の確認，語彙のクイックレスポンス，サイト・トランスレーション、シャドーイングなどの基礎的な通訳訓練を行います。また、通常の語学学習と異なり，通訳の基礎訓練では，集中力・記憶力訓練，即時反応のための訓練，メモ取り練習など他の技能も同時に訓練します。さらに内容とレベルを発展させ，スピーチの逐次通訳および同時通訳を目指す「翻訳通訳実習」との連携も念頭に置いて授業を進めます。	(1) 導入：通訳訓練法の紹介 (2) 逐次通訳（英日）：パートナーの自己紹介 (3) 第１章　通訳とは (4) スピーチ英日通訳（World Polulation） (5) 第２章　通訳の種類と活躍の場 (6) 副教材　ショートスピーチ英日通訳 (7) 第３章　通訳に求められるもの (8) 副教材　ショートスピーチ日英通訳 (9) 第４章　通訳の研究 (10) スピーチ・サイトラ　(Job Hunting) (11) 第５章　通訳のモデル (12) スピーチ英日通訳（Job Hunting） (13) 第６章　通訳と翻訳 (14) 総括

到達目標	英語の翻訳通訳についての基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	友野百枝ほか　『通訳学１０１』，大阪教育図書，2012　　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	水野真紀子ほか『グローバル時代の通訳』三修社，2002
評価方法	小テスト　(30%)，　授業中の通訳演習　(50%)，　レポートなどの提出物　(20%)

13 年度以降	翻訳通訳実習・英語	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，翻訳通訳論で習得した通訳の基本スキルを土台に，逐次通訳と同時通訳の訓練を通し，英語の実践的運用能力を更に向上させることを目標とします。 授業は，ミニレクチャー，個人，ペアワーク，グループワーク，全体での演習の形をとします。様々な素材を教材として使用し，まず、聴き取り，語彙の確認，語彙のクイックレスポンス，サイト・トランスレーション、シャドーイングなどの通訳訓練から始めます。徐々に実践の比重を増やし，後半はメモ取りをしながらの逐次通訳，最後に同時通訳で仕上げを行います。 通訳は，単なる英文和訳や和文英訳ではなく，起点言語（原語）で表現されたメッセージを “解釈” して、目標言語（訳出語）で “意味” を伝えるという側面を強調します。	(1) インタビュー通訳にトライ (2) 第７章　記憶とノートテーキング (3) メモ取り訓練 (4) 第８章　逐次通訳概論 (5) スピーチ・サイトラ（Donald Keene） (6) 第９章　逐次通訳実践 (7) スピーチ英日逐次通訳（Donald Keene） (8) 第 10 章　同時通訳概論 (9) スピーチ・サイトラ(Bottled Water) (10) 第 11 章　同時通訳実践 (11) スピーチ英日同時通訳（Bottled Water） (12) 第 12 章　通訳とデリバリー (13) スピーチ英日日英同時通訳（Bottled Water） (14) 総括

到達目標	英語の翻訳通訳についての応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	友野百枝ほか　『通訳学１０１』，大阪教育図書，2012　　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	水野真紀子ほか『グローバル時代の通訳』三修社，2002
評価方法	小テスト　(30%)，　授業中の通訳演習　(50%)，　レポートなどの提出物　(20%)

13 年度以降	スペイン語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
非ネイティブ講師の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 ネイティブ講師のクラスでは、「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語上級(再履修)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語上級の内容に従って、非ネイティブ講師の授業では購読を中心とした「読み」の訓練を、ネイティブ講師の授業では実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目指す。 スペイン語上級を参照のこと。	14回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	N．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めるとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目的とします。 様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	1. Presentación del curso Argentina: información general 2. Argentina: Patrimonios de la Humanidad 3. Historietas argentinas: Mafalda 4. Historietas argentinas: Mafalda: personajes 5. Música argentina: folklore y tango 6. Festivales de música, Teatro Colón 7. Ecuador: Información general 8. Patrimonio de la Humanidad: Quito 9. Islas Galápagos: información general 10. Islas Galápagos: actividades turísticas 11. Chile: información general 12. Literatura chilena: Pablo Neruda 13. Gabriela Mistral 14. Resumen final

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。
テキスト	教室で配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という 2 つの要素から総合的に判断して付けます。 50%を授業へ積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	N．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の総合的応用能力を高めるとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目的とします。 様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	1. Presentación del curso México: información general 2. Arte: el Muralismo: D. Rivera 3. Arte: el Muralismo: C. Orozco, D. Siqueiros 4. Frida Kahlo: información general 5. Frida Kahlo: obras representativas. 6. Patrimonios de la Humanidad. 7. Cuba: información general 8. Cuba: Patrimonios de la Humanidad: Habana 9. Cuba: Patrimonios de la Humanidad. Trinidad 10. Música cubana. 11. Cine hispanoamericano: información general 12. Película: Diario de motocicleta 13. Película: El amor en los tiempos del cólera 14. Resumen final

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。
テキスト	教室で配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という 2 つの要素から総合的に判断して付けます。 50%を授業へ積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
El presente curso trata de desarrollar la competencia comunicativa de los alumnos de nivel intermedio para que éstos puedan interaccionar de forma adecuada en diferentes situaciones de comunicación. Asimismo, se pondrá énfasis en la expresión escrita y en la comprensión lectora. Para ello se han elegido una serie de temas cercanos al mundo de los estudiantes con el propósito de aumentar su motivación. Finalmente, se promoverá el acercamiento de los aprendices a la cultura, los comportamientos, valores y las convenciones sociales de la lengua meta.	1. Las costumbres de España y de otros países 2. Las costumbres. Expresar oposición. 3. Las costumbres. Valorar actividades. 4. El mundo laboral. Expresar posibilidad. 5. El mundo laboral. Expresar obligación. 6. El mundo laboral. Hábitos en el pasado. 7. El amor. Expresar deseos e indiferencia. 8. El amor. Expresar acuerdo y desacuerdo. 9. El amor. Comparar. 10. Los amigos. Hablar de nuestros sentimientos hacia otras personas. 11. Los amigos. Hablar del carácter y el aspecto físico. 12. Los amigos. Hablar del pasado. 13. El dinero. Escribir la biografía de una persona. 14. El dinero. Interpretar datos. Aconsejar.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario preparar la clase con antelación y repasar
テキスト	Fotocopias preparadas por la profesora.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 100% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
El presente curso trata de desarrollar la competencia comunicativa de los alumnos de nivel intermedio para que éstos puedan interaccionar de forma adecuada en diferentes situaciones de comunicación. Asimismo, se pondrá énfasis en la expresión escrita y en la comprensión lectora. Para ello se han elegido una serie de temas cercanos al mundo de los estudiantes con el propósito de aumentar su motivación. Finalmente, se promoverá el acercamiento de los aprendices a la cultura, los comportamientos, valores y las convenciones sociales de la lengua meta.	1. El mundo de la moda. Hablar de gustos preferencias. 2. El mundo de la moda. Hacer cumplidos y ponderar. 3. El mundo de la moda. Expresar opinión. 4. Enigmas de nuestro planeta. Expresar probabilidad. 5. Enigmas de nuestro planeta. Hablar de finalidad. 6. Enigmas de nuestro planeta. Escribir textos utilizando expresiones de probabilidad. 7. Tiempo de ocio. Hacer invitaciones y aceptarlas o rechazarlas. 8. Tiempo de ocio. Hablar de hábitos y frecuencia. 9. Tiempo de ocio. Aconsejar. 10. La Navidad en España. La lotería de Navidad. Expresar condiciones. 11. Los belenes. La cena de Nochebuena y la comida de Navidad. Pedir permisos y favores. 12. El día de los Santos Inocentes. La voz pasiva. 13. Nochevieja y fin de año. Hacer invitaciones 14. El día de Reyes. Expresar sorpresa y alegría.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario preparar la clase con antelación y repasar
テキスト	Fotocopias preparadas por la profesora.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 100% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
El objetivo de esta asignatura es desarrollar la expresión oral de los estudiantes así como la confianza a la hora de expresarse e interactuar con hablantes nativos en situaciones de la vida diaria. Las clases se llevarán a cabo exclusivamente en español y el programa se discutirá para adapatarse al interés y motivaciones de los estudiantes. Es FUNDAMENTAL la PARTICIPACIÓN ACTIVA en clase. La clase se dividirá en tres partes: 1. Conversación (temas elegidos por los estudiantes). Discusión moderada por un estudiante. 2. Desarrollo de estrategias para la expresión oral, potenciando la fluidez por encima de la exactitud gramatical. Práctica de la entrevista del examen DELE si así lo desean los estudiantes.	1. Presentación de la asignatura. 2. Expresar opiniones I. 3. Expresar opiniones II. Práctica DELE. 4. Contar algo, estructurar un relato. 5. Hacer generalizaciones y excepciones I. 6. Hacer generalizaciones y excepciones II. DELE. 7. Hacer conjeturas I. 8. Hacer conjeturas II. Práctica DELE. 9. Relatar experiencias. Práctica DELE. 10. Cómo hacer presentaciones I. 11. Cambiar de tema I. 12. Cambiar de tema II. Práctia DELE. 13. Repaso. 14. Presentaciones de los proyectos.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: tareas asignadas.
テキスト	El professor suministrará el material necesario.
参考文献	El professor suministrará el material necesario.
評価方法	Participación activa: 30%. Tareas: 30% Presentación: 40%

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuando con los objetivos del primer semestre, desarrollaremos la capacidad de los estudiantes de expresar de forma independiente sus opiniones, argumentarlas y debatir con el resto de compañeros. Para ello deberán moderar discusiones sobre artículos de periódico de actualidad. Los estudiantes (dependiendo del número) tendrán que realizar presentaciones comparando aspectos económicos, políticos, educativos… entre Japón y un país de habla hispana de su elección. El objetivo es desarrollar la capacidad crítica y de evaluación de los estudiantes así como su capacidad de exponer, argumentar y defender sus opiniones sobre un tema concreto. Si los estudiantes tienen interés PRACTICAREMOS LA PARTE DE LA ENTREVISTA DEL EXAMEN DE ESPAÑOL **DELE**.	1. Presentación de la asignatura. 2. Expresiones coloquiales. 3. El sistema educativo obligatorio en España. 4. La universidad en España. 5. Comparación sist. educ. de Japón y España. 6. Más expresiones idiomáticas. 7. El sistema político español. 8. El sistema electoral español. 9. Comparación sist. pol. español y japonés. 10. Expresiones y refranes. 11. El turismo en España. 12. Comparación ind. turística en Japón y España. 13. Repaso final. 14. Presentaciones. Los temas se adaptarán al interés de los estudiantes.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: tareas asignadas.
テキスト	El professor suministrará el material necesario.
参考文献	El professor suministrará el material necesario.
評価方法	Participación active: 30%. Tareas: 30% Presentación: 40%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以前	スペイン語演習	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、スペイン語の(1)読解力、(2)語彙力、(3)応用文法力を高めることを主要な目的とする。 スペイン語に慣れ、読解力と表現力を向上させるためには、数多くの文章を読むことが重要である。しかし第5学期(3年生春学期)までの授業では必ずしもそれに十分な時間を割けていないので、本授業では(1)基礎文法をひととおり学習した人向けの応用文法のテキストと、(2)多読用の長文のテキスト(主要な単語の意味があらかじめ記されており、辞書を引く時間を省けるため、その分、かなり長い文章を読むことができるように工夫されている)の2つを毎回の授業で用い、スペイン語力を総合的に高めていく。 演習形式の授業であり、試験は実施しないが、あくまで応用レベルのスペイン語力を身につけたい人向けの内容なので、必修段階でのスペイン語力をある程度習得していないとレベルが合わない。この点、注意すること。	1. 講読(小説)／応用文法(放任の動詞) 2. 講読(小説)／応用文法(叙述補語としての形容詞) 3. 講読(紀行文)／応用文法(接続詞si) 4. 講読(紀行文)／応用文法(所有を表す間接目的語) 5. 講読(神話)／応用文法(目的格人称代名詞の重複) 6. 講読(神話)／応用文法(関係代名詞 lo que) 7. 講読(笑い話)／応用文法(副詞と直接目的語の位置) 8. 講読(笑い話)／応用文法(疑問詞＋不定詞) 9. 講読(詩)／応用文法(利害を表す間接目的語) 10. 講読(詩)／応用文法(形容詞・副詞につく中性冠詞) 11. 講読(評論)／応用文法(冠詞の代名詞的用法) 12. 講読(評論)／応用文法(時制の一致) 13. 講読(時事問題)／応用文法(無人称表現) 14. 講読(時事問題)／応用文法(強調構文) (時間配分の目安：講読70分、文法20分、復習等10分)

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業前に予習をしておく必要がある。また、授業直後に入念な復習を行うことで授業効果が高まる。
テキスト	担当者が用意し、授業で配布する。
参考文献	西和辞典(各自が所有しているもので可)。
評価方法	授業参加 100%(授業参加とは授業出席率ではない。事前の予習を含め、授業への積極的な参加こそが語学力の向上に資するので、授業での真剣な取り組みを適切に評価に反映させる)。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．Ｉ．ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。この授業では特にスペイン語検定DELE試験のA2とB1レベルの資格取得に特化して授業を進めます。従って本科目では「話す・聞く」に重点を置きます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。そのためにビデオ教材などを使用し、スペイン文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	１．Presentación. Conversación sobre las vacaciones ２．Descripciones de personas y cosas ３．Relatar actividades cotidianas, presente y pasado ４．Examen de DELE auditivo ５．Contar historietas a través de viñetas ６．Discusión sobre los medios de comunicación ７．Hablar sobre preferencias gustos etc. ８．Contar historietas a través de dibujos ９．Debate sobre tema elegido por los alumnos １０．Examen de DELE oral １１．Los medios de transporte. Discusión １２．Las costumbres. Diferencias entre España y Japón １３．Comparación de cosas, diferencias y similitudes １４．Examen oral

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業のテーマについて語彙や表現を準備して授業に臨むこと。
テキスト	プリント
参考文献	プリント
評価方法	宿題、授業内評価　２０％ 試験　８０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	M．サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は口述表現、筆記表現、聴解、読解の４つの技能の向上をその目標とし、合わせて中級レベルに対応する文法問題ならびに語彙練習も同時に実施する。とりわけクラスではコミュニケーションを図るためにシンプルな状況設定をしたり、写真やイラストを使用することで口述表現の練習を重点的に行うが、常に受講者のレベルに応じて進度を調整し、リラックスして参加できるよう努める。また試験前にはコース終了に必要な学習内容を確認できるよう、講師は重要事項の復習を行う。	1. コース説明、オリエンテーション 2. テーマ・旅行：口頭表現練習:"最後にした旅行" 3. テーマ・旅行：読解ならびに筆記表現練習 4. テーマ・旅行：文法と語彙 5. テーマ・町：口頭表現練習:自分の町 6. テーマ・町：読解ならびに筆記表現練習 7. テーマ・町：文法と語彙 8. テーマ・余暇：口頭表現練習 9. テーマ・余暇：読解ならびに筆記表現練習 10. テーマ・余暇：文法と語彙 11. テーマ・健康と暮らし：口頭表現練習 12. テーマ・健康と暮らし：読解ならびに筆記表現 13. テーマ・健康と暮らし：文法と語彙 14. 復習：本コースで学習した内容の復習と評価

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前、単語の予習をする 授業後、宿題・課題をする
テキスト	教材：コピーを使用
参考文献	コースの教材はウェブサイト上でダウンロード可能
評価方法	筆記試験: 60% 宿題、授業態度: 40%

13 年度以降	翻訳通訳論・スペイン語	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、スペイン語と日本語間の翻訳・通訳における難しさや問題点を考察し、スペイン語と日本語の言語文化差異を乗り越えて意味を伝えるとはどうしたらいいのかを 14 週に渡って考察していきます。 春学期の授業では、既存の文学翻訳作品や著名人の自伝の翻訳を通して基礎的翻訳理論を理解し、翻訳の現実とその理想を考察していきます。 授業では、実際に翻訳分析をしながら基礎的翻訳理論を学びますが、小説、自伝、新聞、ニュース映像といった様々な媒体を使うため、高度なスペイン語能力を必要とします。	Week 1　翻訳とは？　翻訳理論とは何か Week 2　日本文学スペイン語版の翻訳分析「妊娠カレンダー」(翻訳理論：等価理論)（概要） Week 3　日本文学スペイン語版の翻訳分析「妊娠カレンダー」(翻訳理論：等価理論)（分析） Week 4　日本文学スペイン語版の翻訳分析『凍り付いた香り』(翻訳理論：等価理論)（分析） Week 5　日本文学スペイン語版の翻訳分析『凍り付いた香り』(翻訳理論：等価理論)（解説） Week 6　文化要素と翻訳：「ピカソ」(概要) Week 7　文化要素と翻訳：「ピカソ」(導入) Week 8　文化要素と翻訳：「ピカソ」(実践) Week 9　文化要素と翻訳：「ピカソ」(実践と解説) Week 10 文化要素と翻訳：「ピカソ」(解説) Week 11 文化要素と翻訳：中南米の現代移民文学「Cuando era Puertoriqueña」(概要) Week 12 文化要素と翻訳：中南米の現代移民文学「Cuando era Puertoriqueña」(導入) Week 13 文化要素と翻訳：中南米の現代移民文学「Cuando era Puertoriqueña」(実践) Week 14 文化要素と翻訳：中南米の現代移民文学「Cuando era Puertoriqueña」(解説)

到達目標	スペイン語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	教員からプリント配布
参考文献	『翻訳学入門』 みすず書房、『翻訳の原理』 大修館書店
評価方法	レポート提出(60%)、授業参加度(40%)

13 年度以降	翻訳通訳実習・スペイン語	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、スペイン語から日本語への翻訳通訳について考察していきますが、秋学期は、新聞やスペイン国営放送のニュースといったジャーナリズムに関わる内容に取り組み, 音声のみでの訳出の実践と要約演習に挑戦していきます。そのなかから現代スペイン社会や中南米諸国が抱える問題点をみつめ、それを日本語にどのように伝えれば良いのかを考え、翻訳が本来もつ役割について考えます。 受講資格は、春学期に「翻訳通訳論　スペイン語」を履修していること、また、十分なスペイン語力を必要とします。	Week 1 El País 1 スペイン語圏時事問題 traducción 1 Week 2 El País 2 スペイン語圏時事問題 resumen en japonés 1 Week 3 El País 3 スペイン語圏時事問題 traducción 2 Week 4 El País 4 スペイン語圏時事問題 resumen en español Week 5 El País 5 スペイン語圏時事問題 traducción 3 Week 6 El País 6 スペイン語圏時事問題 resumen en japonés 3 Week 7 Televisión Española Noticias 書き取り演習 Week 8 Televisión Española Noticias 要約演習 Week 9 Televisión Española Noticias Interpretación oral 1 Week 10 Televisión Española Noticias Interpretación oral 2 Week 11 CNN Español 1 スペイン国営放送との差異は？ Week 12 CNN Español 2 墨スペイン語 Week 13 CNN Español 3 英語の影響下の墨スペイン語 Week 14 CNN Español 4

到達目標	スペイン語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	教員からプリント配布
参考文献	『翻訳学入門』 みすず書房 , 『翻訳の原理』 大修館書店
評価方法	レポート提出（60%）、授業参加度（40%）

13 年度以降	中国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語 I から中国語Ⅳまでに学習した内容を総復習し、定着をはかるとともに、さらなる中国語能力向上にむけた確実な足がかりを築くことを目的とする。 単語（語彙力強化）編と実用（発信力強化）編に分けて授業運営を行う。 単語編についてはこれまで学習した語彙を総復習し、併せて発音の矯正と基本語を通した文法知識の確認を行う。既習語彙を網羅した語彙集で，毎回ほぼ等分した範囲の語彙を学習し、同時に小テストによって確認し定着を図る。 実用編については、これまでの学習で身についた発信力を、テキストを用いた学習で磨く形で行う。また受講者同士でのペアワークやグループワークを通して、中国語による発信力・コミュニケーション能力の確立を目指す。	1　a-c　単語レッスン 2　c-d　単語レッスン 3　d-f　単語レッスン 4　f-g　単語レッスン 5　g-h　単語レッスン 6　h-j　単語レッスン 7　j-l　単語レッスン 8　l-m　単語レッスン 9　m-p　単語レッスン 10　p-r　単語レッスン 11　s-w　単語レッスン 12　x-y　単語レッスン 13　y-z　単語レッスン 14　まとめ ※各回のアルファベットは扱う単語の範囲を示す。学習内容の詳細は講義概要参照。 単語編については上記計画で行う。実用編についてはテキストの流れにしたがって実施する。

到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	単語編については小テストの結果を復習し、次回の範囲を声に出して読むことによって既習語彙の記憶を確かなものにする。実用編については自分の弱点などを意識して会話練習を繰り返すこと。
テキスト	単語編については語彙集を配付する。実用編については、『おもてなしの中国語』（郁文堂）を使用する。
参考文献	中国語の辞書・辞典全般
評価方法	単語編（小テスト 80%、授業への参加度 20%）、実用編（中間・期末テスト 70%、授業への参加度 30%）

13 年度以降	中国語上級(再履修)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語上級の内容に沿って、同授業と同等の中国語能力を身につけることを目標とする。 中国語上級と同様、単語編と実用編に分けて授業運営を行う。詳しい内容については中国語上級のシラバスを参照。	1　a-c　単語レッスン 2　c-d　単語レッスン 3　d-f　単語レッスン 4　f-g　単語レッスン 5　g-h　単語レッスン 6　h-j　単語レッスン 7　j-l　単語レッスン 8　l-m　単語レッスン 9　m-p　単語レッスン 10　p-r　単語レッスン 11　s-w　単語レッスン 12　x-y　単語レッスン 13　y-z　単語レッスン 14　まとめ ※各回のアルファベットは扱う単語の範囲を示す。学習内容の詳細は講義概要参照。 単語編については上記計画で行う。実用編についてはテキストの流れにしたがって実施する。

到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	単語編については小テストの結果を復習し、次回の範囲を声に出して読むことによって既習語彙の記憶を確かなものにする。実用編については自分の弱点などを意識して会話練習を繰り返すこと。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	中国語の辞書・辞典全般
評価方法	単語編（小テスト 80%、授業への参加度 20%）、実用編（中間・期末テスト 70%、授業への参加度 30%）

13 年度以降	中国語演習	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国の現代文学を原文で講読します。中国で 20 万部が売れたベストセラーの長編小説、畢飛宇『推拿』（北京・人民文学出版社、2008 年）から本文の一部を抜粋して、輪読していきます。 原文講読を通して、中国語を正確に発話すると同時に（もちろん、テキストにピンインは表記されていません）、原文の意味を捉え、適切な日本語に翻訳するちからを磨きます。 また、読解力をはじめとする中国語リテラシーを鍛えると同時に、作品の背景を意識しながら行間を読み解くことで、現代中国社会に対する理解も深めていきます。 授業終了時にはリアクションペーパーに所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。	1. ガイダンス――畢飛宇『推拿』について 2. 第一章 王大夫 3. 第二章 沙复明 4. 第三章 小马 5. 第四章 都红 6. 第五章 小孔 7. 第六章 金嫣和泰来 8. 第七章 沙复明 9. 第八章 小马 10. 第九章 金嫣 11. 第十章 王大夫 12. 第二十章 沙复明、王大夫和小孔 13. 第二十一章 王大夫、尾声 夜宴 14. まとめ ※受講生の読解力や関心に応じて、進度および抜粋箇所を微調整する場合もあります。ガイダンスは必ず出席するようにして下さい。

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にはテキストに目を通し、辞書とインターネットを使って単語や文法事項を調べておくことが不可欠です。授業後は紹介する参考文献をよく読んでおくようにして下さい。
テキスト	コピーを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業参加度 50%（事前学修への取り組み方を厳格に採点します）、期末レポート 50%

13 年度以降	中国語演習	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、台湾の現代文学を原文で講読します。台湾と中国の双方で複数の文学賞を受賞した長編SF小説、伊格言『零地点 GroundZero』（台北・麦田出版、2013年）から本文の一部を抜粋して、輪読していきます。 原文講読を通して、中国語を正確に発話すると同時に（もちろん、テキストにピンインは表記されていません）、原文の意味を捉え、適切な日本語に翻訳するちからを磨きます。 また、読解力をはじめとする中国語リテラシーを鍛えると同時に、作品の背景を意識しながら行間を読み解くことで、中国語圏の社会に対する理解も深めていきます。 授業終了時にはリアクションペーパーに所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。	1. ガイダンス――伊格言『零地点 GroundZero』について 2. 0 GroundZeroから2 Above GroundZeroまで 3. 3 Under GroundZeroから5 Above GroundZeroまで 4. 6 Under GroundZeroから8 Above GroundZeroまで 5. 9 Above GroundZeroから11 Above GroundZeroまで 6. 12 Under GroundZeroから14 Under GroundZeroまで 7. 15 Above GroundZeroから17 Above GroundZeroまで 8. 18 Under GroundZeroから20 Under GroundZeroまで 9. 21 Above GroundZeroから23 Above GroundZeroまで 10. 24 Under GroundZeroから26 Under GroundZeroまで 11. 38 Under GroundZeroから40 Under GroundZeroまで 12. 41 Under GroundZeroから43 Under GroundZeroまで 13. 44 Under GroundZeroから0 GroundZeroまで 14. まとめ ※受講生の読解力や関心に応じて、進度および抜粋箇所を微調整する場合もあります。ガイダンスは必ず出席するようにして下さい。

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にはテキストに目を通し、辞書とインターネットを使って単語や文法事項を調べておくことが不可欠です。授業後は紹介する参考文献をよく読んでおくようにして下さい。
テキスト	コピーを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業参加度 50%（事前学修への取り組み方を厳格に採点します）、期末レポート 50%

13 年度以降	中国語演習	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
上手に話したい人のための授業。 ２年生までで学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即応力を身につけることを目指す。 テキストにより会話の部分と読解の部分の違いを意識しながら学習を進める。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものにできる。同時に応用力もレベルアップできる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて完成してもらう場合がある。	1　ガイダンス 2　会話：自我介绍 3　文章：全家福 4　会話：五一节 5　文章：过生日 6　会話；约会 7　文章：我的一天 8　会話：问路 9　文章：十月北京 10　会話：体育运动 11　文章：给姐姐的信 12　会話：谈爱好 13　文章：民族音乐家 14　まとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示する
テキスト	『新・ブラッシュアップ中国語』（関中研　朝日出版社）
参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	授業への参加度 30%、テスト 70%

13 年度以降	中国語演習	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
上手に話したい人のための授業。 ２年生までで学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即応力を身につけることを目指す。 テキストにより会話の部分と読解の部分の違いを意識しながら学習を進める。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものにできる。同時に応用力もレベルアップできる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて完成してもらう場合がある。	1　ガイダンス 2　会話：参观与旅游 3　文章：自行车日 4　会話：宾馆服务台 5　文章：三个和尚没水吃 6　会話；买东西 7　文章：笑脸相迎 8　会話：在医务室 9　文章：书包太沉重 10　会話：作客 11　文章：情人多算账 12　会話：谁请客 13　文章：来盘微笑 14　まとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示する
テキスト	『新・ブラッシュアップ中国語』（関中研　朝日出版社）
参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	授業への参加度 30%、テスト 70%

13 年度以降	中国語演習	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、保護などの表現を中心に、各要素の文中における正確な位置を把握する。 また、1930年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。	1　「父からの躾」読解 2　「父からの躾」新出語彙、文型の学習 3　「好きな授業」読解 4　「好きな授業」新出語彙、文型の学習 5　「友達との遊び」読解 6　「友達との遊び」新出語彙、文型の学習 7　まとめと中間テスト 8　「空き地での遭遇」読解 9　「空き地での遭遇」新出語彙、文型の学習 10　「胡同の風景」読解 11　「胡同の風景」新出語彙、文型の学習 12　「ボール探し」読解 13　「ボール探し」新出語彙、文型の学習 14　まとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示する
テキスト	初回のガイダンスで説明、指示する
参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	授業への参加度 30%、テスト 70%　※適宜小テストを実施する

13 年度以降	中国語演習	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、保護などの表現を中心に、各要素の文中における正確な位置を把握する。 また、1930年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。	1　「学校生活」読解 2　「学校生活」新出語彙、文型の学習 3　「事件との関わり」読解 4　「事件との関わり」新出語彙、文型の学習 5　「見知らぬ人１」読解 6　「見知らぬ人１」新出語彙、文型の学習 7　まとめと中間テスト 8　「見知らぬ人２」読解 9　「見知らぬ人２」新出語彙、文型の学習 10　「父との議論１」読解 11　「父との議論１」新出語彙、文型の学習 12　「父との議論２」読解 13　「父との議論２」新出語彙、文型の学習 14　まとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示する
テキスト	初回のガイダンスで説明、指示する
参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	授業への参加度 30%、テスト 70%　※適宜小テストを実施する

13 年度以降	中国語演習	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って，そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの”記事だけに，語彙や文体に特有のものも含まれる一方，内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 もちろん，教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので，基礎力と相当の努力が必要となる。	1. ひょっこり！公用車の窓から犬、役人の私的な利用ばれる 2. ヘビにかまれた女性、ヘビごと病院を訪れ周囲は仰天！ 3. おまえならできる！夫婦が 6 歳の娘に車を運転させる 4. 大学がガチョウの入学を許可、証明書も発行 5. 高速道路上に屋台が出現＝危険も迷惑も何のその 6. 飛行機のエンジンに硬貨を投げ込む搭乗客 7. 中国高速鉄道の弁当の賞味期限が不思議なほど長い！ 8. 中国バス転落、原因は運転手と乗客のけんか　幼児も犠牲 9. 「近道」に「替え玉」…、中国ハーフマラソン大会 10. 手術中の患者や麻酔下の患者に「値上げ交渉」 11. 臭い靴下を毎日嗅ぎ続けた男性、肺真菌症で緊急入院 12. 「俺のこと覚えているか！」20 年後に教師に“報復” 13. 過激なダンナ、妻の駐車に腹を立て車を燃やす 14. 駐車違反の罰金逃れようとして道路に「駐車区画」を書く ※　上記のものは候補であって，実際には最新のニュースに取り替えられる可能性があります

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の文章を予習し，既習部分の復習をする
テキスト	プリント配布
参考文献	適宜指示する。
評価方法	レポート 50%，発表等の授業への参加度 50%

13 年度以降	中国語演習（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
「世界の中の日本」という視点を持つことはとても大切です。特に隣国である中国と日本は、政治、経済、文化あらゆる面で密接な関係にあります。 ビジネスの分野でも、中国語を自由に操れる人材の育成がこれまでにも増して求められています。 本講では、こうした人材育成のファーストステップとして、「ビジネス業務の基本」を理解しながら、中国語による「ビジネス会話」を習得していきます。 実際の授業では、毎回、ホットな日中間のビジネス現場を紹介しながら、参加者全員に会話の機会を提供して、楽しみながら聞いて話せる中国語の「会話能力」を身に着けていきます。 中国語のブラッシュアップに、幅広い興味を持った皆さんの参加を期待します。	1. 商談のアポイントメント取得 2. 引き合い 3. オファー 4. 商品およびメーカーの紹介 5. カウンタービット 6. コミッション 7. 注文 8. 支払条件 9. 信用状 10. 船積期日 11. 包装 12. 保険 13. 契約 14. 貿易上のクレーム処理　講義のまとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱った会話内容を各自復習し、次回の授業で発表し相互評価する。
テキスト	テキスト：『実習ビジネス中国語　商談編』白水社
参考文献	授業中に指示
評価方法	定期試験 30%、授業への参加度 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国語演習	担当者	横川　澄枝

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1・2年時における中国語学習の延長として、文章を読み読解力を高め語彙量を増やす。“教育”を統一テーマとし、2つの切り口から現代中国の側面を考え、関連して日本の教育について考察する。 【講義概要】 前半は映画《**一个都不能少**》を通して、内容への疑問点を抽出し、“**代课老师,民办学校,希望工程**” などの意味を調べ、初級教育の側面を知る。公教育の歴史的変遷に関する文章、教育関連法規、当該映画の評論文などを読み、各自調べたことをもとにレポートを作成する。 後半のテーマは初等教育における[国語]･[語文]教科書の日中比較、および教師用指導書を比較すること。これらを通じていわゆる国語の授業で何を教えようとしているのかを探り、考察したことをレポートにまとめる。	1. 講義概要　（人数、進捗状況により変更がありうる） 2. 映画《**一个都不能少**》の内容への疑問点を抽出する 3. キーワード： **代课老师,民办学校,希望工程** etc 4. 中国の公教育の在り方（通時的に） 5. 中国の教育関連法規 6. 映画《**一个都不能少**》に関する評論 7. まとめ、レポート作成 8. 標準語と共通語 9. 中国の義務教育課程教科書《**语文**》 10. 義務教育課程教師用指導書《**语文 教师教学用书**》 11. 日本の義務教育国語教科書 12. 日中指導法比較　例《**上学歌**》と中川李枝子の詩 13. 日中指導法比較　例　漢字の成立ち 14. まとめ、レポート作成

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	前時に渡すプリントの予習。最低限の予習として単語の意味を調べておく
テキスト	教材はその都度プリントを配布する
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	レポート課題（2 篇）など 70%、授業への参加度（含　貢献度）など 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国語演習	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国の現代文学を原文で講読します。中国で空前の大ヒットを飛ばした2009年正月映画「非誠勿擾」の馮小剛監督による同名小説『非誠勿擾』（武漢・長江文芸出版社、2008年）から本文の一部を抜粋して、輪読していきます。 原文講読を通して、中国語を正確に発話すると同時に（もちろん、テキストにピンインは表記されていません）、原文の意味を捉え、適切な日本語に翻訳するちからを磨きます。 また、読解力をはじめとする中国語リテラシーを鍛えると同時に、作品の背景を意識しながら行間を読み解くことで、現代中国社会に対する理解も深めていきます。 授業終了時にはリアクションペーパーに所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。	1. ガイダンス――馮小剛『非誠勿擾』について 2. 伊人何方 3. 同志有约 4. 墓地丽影 5. 黑白有道 6. 惊鸿一瞥 7. 炎凉自知 8. 不期而遇 9. 脂腹征婚 10. 有备而来 11. 熊市论婚 12. 新人故地 13. 心诚勿扰 14. まとめ ※受講生の読解力や関心に応じて、進度および抜粋箇所を微調整する場合もあります。ガイダンスは必ず出席するようにして下さい。

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前にはテキストに目を通し、辞書とインターネットを使って単語や文法事項を調べておくことが不可欠です。授業後は紹介する参考文献をよく読んでおくようにして下さい。
テキスト	コピーを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業参加度 50%（事前学修への取り組み方を厳格に採点します）、期末レポート 50%

13 年度以降	韓国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	1. オリエンテーション 2. 1課 司会をする 3. 1課 -아서 -게 됐어요 4. 1課 紹介文を読んで説明をする 5. 2課 アドバイスをする 6. 2課 -다 보니 -게 됐어요 7. 2課 有名人とのインタビュー活動 8. プレゼンテーション課題発表 9. 3課 発表の表現 10. 3課 3分発表文の作成 11. プレゼンテーション課題発表 12. 4課 心配・意見を話す 13. 4課 -을까봐/ -는 게 -을 것 같아요/ -으면 -을수록 14. プレゼンテーション課題発表

到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4A』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、発表および授業中の課題遂行（20%）、宿題（20%）

13 年度以降	韓国語上級（再履修）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	1. オリエンテーション 2. 5課 道案内 3. 5課 -다고요? 4. 5課 自分が紹介したい場所のアクセスや位置を伝える 5. 6課 話の概要を理解する 6. 6課 話の概要を理解し、伝える 7. 演劇および紙芝居で発表 8. 7課 自分の意見を述べる 9. 7課 -잖아요/ -다고 해서 다 -은 것은 아니에요 10. 7課 説得のロールプレイ 11. 8課 物について描写する 12. 8課 -이 넘어요 / -이 안 돼요 13. 8課 自分のお気に入りについて語る 14. まとめ

到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4A』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、発表および授業中の課題遂行（20%）、宿題（20%）

13 年度以降	韓国語演習	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、社会生活のなかで遭遇しうる様々な問題を解決するための韓国語の表現を身につけることを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更する可能性があります。	１．キーワードで自己紹介 ２．第１課 韓国語であいづちをする ３．第１課 エピソードを語る ４．第２課 日韓のことわざの比較する ５．第２課 意味を説明する ６．第２課 引用しながら語る ７．読解や聴解の練習 ８．まとめ及び発表準備 ９．第３課 季節ごとの表現 １０．第３課 理由を説明する １１．第４課 感情を伝える １２．第４課 推薦する １３．総まとめ及び発表準備 １４．発表会

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4B』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト 50%、発表 20%、授業中の課題遂行・宿題 30%

13 年度以降	韓国語演習	担当者	朴　鍾厚

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更する可能性があります。	１．夏休みのエピソードを語る ２．第８課 比較する ３．第８課 比較して説明する ４．第５課 回想して語る ５．第５課 仮定して語る ６．読解や聴解の練習 ７．第６課 クレームする ８．第６課 問題改善を要請する ９．第６課 付加説明をする １０．第７課 事件・事故を説明する １１．第７課 情報を伝達する １２．読解や聴解の練習 １３．総まとめ及び発表準備 １４．発表会

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4B』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト 50%、発表 20%、授業中の課題遂行・宿題 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国語演習	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は春学期の上級で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意思交換ができる場とする。	1　人物-reading 2　人物-感情表現 3　人物-speaking 4　風習-reading 5　風習-使役動詞 6　風習-speaking 7　前半のReview 8　文学-reading 9　文学-比喩表現 10 文学-speaking 11 成功的な人生-reading 12 成功的な人生-主張の表現 13 成功的な人生-speaking 14 後半のReview

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に発表・提出してください。
テキスト	『Sogang Korean -student's book 5A』、西江大学校国際文化教育院出版部
参考文献	特になし
評価方法	期末テスト 50%、課題及び発表 20%、授業参加度 30%

（春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国語演習	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は春学期の韓国語上級の授業で習得した言語的知識や発話のスキール、文化的な理解をベースに、韓国語のコミュニケーション能力をより高度化させるためのものである。各課を進めるに当たって、受講生自らの調べ学習や発表などを積極的に取り入れて、課題をクリアしていく過程で韓国語の知識と運用力を高める学習者主導のアクティブラーニングの場を設ける。	1　Reading：楽しいソウルの旅行 2　調べ学習：おすすめの観光情報について 3　活動：テーマのある旅行プランの作成及び発表 4　Reading：漫画で学ぶ四字熟語 5　調べ学習：四字熟語やことわざについて 6　活動：四字熟語を用いた会話文の作成と発表 7　Review（おさらい及び確認テスト） 8　Reading：良い人間関係を築くための会話術 9　調べ学習：円滑な会話のための表現について 10　活動：効果的な会話術を用いたロールプレイの導入 11　Reading：韓国の現代史 12　調べ学習：現代の重要な出来事（事件）について 13　活動：興味を持つ事件について発表 14　Review（おさらい及び確認テスト）

到達目標	韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に発表・提出してください。
テキスト	『Sogang Korean -student's book 5A』、西江大学校国際文化教育院出版部
参考文献	特になし。
評価方法	定期試験 50%、課題及び発表 30%、授業に臨む態度（積極的で能動的な発言及び参加）20%

13 年度以降	翻訳通訳論・韓国語	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
通訳と翻訳は、どちらもある言語を別の言語に置き換えるものだが、ただ右にあるものを左に移し替えれば完成するものではない。言語能力はもちろん、文章やスピーチの中心となるメッセージ、文化的・歴史的背景、言葉の受け手の認識など、通訳・翻訳の実践には考慮しなければならない側面が数多くある。特に、日本語と韓国語には表層的な類似点が多いため、無意識のうち「迷訳」を作り出してしまう。本講義は、日韓通訳・翻訳に求められる素養とその理由を理解した上で、実際の通訳・翻訳の演習を通じて基本的な技術を学び、日韓の通訳・翻訳の一丁目一番地に到達することが目的である。 注意：本講義には韓国語・日本語を自由に操る能力が求められるため、初回にレベルテストを行う。受講希望者は必ず１回目の授業から出席すること。	第1回：総合ガイダンス 第2回：通訳と翻訳の共通点 第3回：通訳と翻訳の違い 第4回：多様な日本語・韓国語との出会い 第5回：通訳家に求められる素養 第6回：通訳の基本的技術とフロー 第7回：日韓通訳演習 第8回：文芸翻訳の落とし穴 第9回：翻訳の基本的技術とフロー 第10回：翻訳・校正の技術 第11回：日韓翻訳演習 第12回：演習課題の論評 第13回：通訳・翻訳の多様な姿 第14回：まとめ

到達目標	韓国語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎講義で課される課題を提出するとともに、課題に関する質問の準備してくること。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	東江一紀『ねみみにみみず』（作品社、2018 年）
評価方法	授業に対する積極的参加度(30%)，　実習課題(20%)，　期末課題(50%)

13 年度以降	翻訳通訳実習・韓国語	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、前期の翻訳通訳論を踏まえた上で、実習を通じてより実践的な日本語と韓国語で行う通訳、翻訳を学ぶことを目的とする。日韓翻訳、韓日翻訳、日韓通訳、韓日通訳を実際に行いながら、起こりうる様々な問題を解決する能力の向上を図る。特に、日本において最も需要が見込まれる韓日翻訳については、どのようなテキストにも対応できるよう、新聞やエッセー等の身近なテキストだけでなく、回顧録や日記などの様々なテキストの精読を通じて、多様な文体を操れるようになることを目指す。 注意：本講義には韓国語・日本語を自由に操る能力が求められるため、初回にレベルテストを行う。受講希望者は必ず１回目の授業から出席すること。	第1回：総合ガイダンス 第2回：通訳・翻訳の基本的ルール 第3回：新聞記事翻訳実習１（テキストの正確な理解） 第4回：新聞記事翻訳実習２（調査と語彙変換） 第5回：新聞記事翻訳実習３（校正と脱稿） 第6回：エッセー翻訳実習１（テキストの正確な理解） 第7回：エッセー翻訳実習２（調査と語彙変換） 第8回：エッセー翻訳実習３（校正と脱稿） 第9回：回顧録・日記翻訳実習 第10回：スピーチ通訳実習１（事前調査と準備） 第11回：スピーチ通訳実習２（メモ取り） 第12回：スピーチ通訳実習３（状況にあった言葉の選択） 第13回：通訳の現場で起こりうる問題と解決方法 第14回：まとめ

到達目標	韓国語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎講義で課される課題を提出するとともに、課題に関する質問の準備してくること。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	本多勝一『＜新版＞日本語の作文技術』（朝日文庫、2015 年）
評価方法	授業に対する積極的参加度(30%)，　実習課題(20%)，　期末課題(50%)

13 年度以降	ラテンアメリカ研究概論	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカ（カリブ海地域も含める）を対象とした地域研究入門 の授業である。日々の新聞記事、ニュースなどに現れるラテンアメリカに関する諸情報を理解するための基礎知識を修得したうえで、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深め、さらに自ら調べる力を養成することを目的としている。 スペイン語を履修しているか、履修するつもりの人の受講を特に歓迎する。ただし、スペイン語の知識は必須ではない。ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について、歴史的背景を中心に深く知る場としたい。 授業は講義形式ですが、授業の冒頭で、授業テーマと関連する音楽や絵画、映像などを示し、ラテンアメリカの多様な文化に接する場にしたい。	1　導入①　対象地域「ラテンアメリカ」とはなにか？ 2　導入②　「ラテンアメリカ」イメージ 3　食文化①　多様性：地理・気候と植物・動物 4　食文化②　事例研究：世界遺産メキシコ食文化 人種・民族構成の特徴と歴史（５から８まで） 5　①　概要＋コロンブスの到着とカリブ海地域における先住民、アフリカ系 6　②　「インディオ」と「メスティーソ」の誕生 7　③　アジア系とレバノン系（日系移民を中心に） 8　④　「未完成」の征服事業　アマゾン 9　文化と社会①：宗教と祭り、家族、女性、子供 10　文化と社会②：文学、造形美術、音楽 11　19-20 世紀のラテンアメリカ 独立、「ラテンアメリカ」の誕生、キューバ革命まで 12　現代ラテンアメリカの政治と経済 13　米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 14　まとめ

到達目標	ラテンアメリカの歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業までにすべき課題を示します。
テキスト	授業で配布、指示します。
参考文献	清水透『ラテンアメリカ五〇〇年：歴史のトルソー』岩波現代文庫 2017 年など
評価方法	数回の小テスト 50%　期末レポート 50%

13 年度以降	スペイン語圏の文学	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語文学について基本的な知識を身につけるとともに、できるだけ多くの文学テクストを実際に読むことにより、新たな作家や作品と出会う機会にしてほしいと思います。具体的には、授業時間内では17世紀までの有名な韻文テクストを精読し、授業時間外の課題として、各自の興味にしたがってブックリストの本を数冊読み、その読書報告をしてもらいます。	01 ガイダンス, romance 02 Marqués de Santillana, Jorge Manrique, Danza de la Muerte 03 Gómez Manrique, Íñigo de Mendoza, Juan del Encina. 04 Garcilaso de la Vega, Gutierre de Cetina 05 Fernando de Acuña, Battasar del Alcázar, Francisoc de Aldana. 06 Herrera, Francisco de Figueroa, Francisco de la Torre 07 Santa Teresa, San Juan de la Cruz, Luis de León 08 Lope de Vega, Argensola 09 Luis de Góngora 10 Francisco de Quevedo 11 Francisco de Medrano, Rodrigo Caro, etc. 12 Francisco de Rioja, Gabriel Bocángel, etc. 13 Sor Juana Inés de la Cruz 14 Francisco de Terrazas, Mateo Rosas de Oquendo

到達目標	スペイン・ラテンアメリカの芸術文化の特質等を理解したうえで、スペイン語圏の文学作品を分析し、鑑賞・批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	レスポンスシートにより理解度を確認します。また、ブックレポートを作成してもらいます。
テキスト	特定のテキストは使用しません。レポートのためのブックリストを配布します。
参考文献	講義で随時紹介します。
評価方法	レスポンスシート(50%)とブックレポート(50%)により、総合的に評価します。

13 年度以降	ラテンアメリカの歴史と文化	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていく。現代ラテンアメリカの多面的理解に資するものとしたい。現代ラテンアメリカの特徴は、①米国とは違う「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。 ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。	1）はじめに　1830 年のラテンアメリカ地図 近代スポーツとラテンアメリカ近現代史 2）サッカー文化圏とイギリス非公式帝国 3）野球文化圏と米国のラテンアメリカ進出 「ラテンアメリカ」の誕生フランス・メキシコ出兵 4）テキサス独立と米国による併合：「アラモの闘い」 5）米メキシコ戦争 6）パナマ鉄道とスイカ事件 7）ウォーカーのニカラグア＋パナマ建国と運河建設 事例研究：米メキシコ関係史 8）米メキシコ国境線の歴史（トランプ大統領期まで） 9）メキシコのジェロニモ：口述自伝を読む ２０世紀史 10）米スペイン戦争とバナナ共和国 11）キューバ革命 12）冷戦時代　軍事政権とチリ革命・ニカラグア革命 13）新自由主義の時代と対抗運動 14）まとめ：アメリカスの時代へ

到達目標	ラテンアメリカの歴史と文化に関して自ら課題を設定し、調査・分析のうえ、自らの見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業までにすべき課題を示します。
テキスト	授業内で適宜配布、指示します。
参考文献	清水透『ラテンアメリカ五〇〇年：歴史のトルソー』岩波現代文庫 2017 年など
評価方法	授業中の発言などの参加度および報告内容 50%　期末レポート 50%

13 年度以降	ラテンアメリカ近現代史	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、ラテンアメリカの歴史と文化に関する重要事項を世界史の展開と関係付けて理解することにある。先コロンブス期から現代までを絵画や音楽、文献史料など、おもにメキシコ関係の素材を使って概観し、歴史理解を通じて、ラテンアメリカ的特質とは何かを探っていく場としたい。 参加型の授業形態を試みたいので、履修生に発言（履修者数によっては発表）を求める。授業計画の各回後半に示したものは、みんなで検討したい資料・テーマである。	1　導入①　ラテンアメリカの自己表象と他者表象 映画「スペクター」、「Coco」などを題材に 2　導入②　ラテンアメリカにおける服飾の文化政治史 3　アメリカ大陸の諸文明：「メンドーサ絵文書」など 4　1492 年と現代世界：「コロンブス航海記」 5　魂の征服：「グアダルーペの聖母」 6　植民地期における人種民族関係：「カスタ絵」など 7　ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』を読む 8　ラテンアメリカ諸国の独立をめぐる諸問題 9　黒人文化の再発見とカリブ海におけるクレオール主義 10　メキシコ革命とナショナリズム芸術運動 フリーダ・カーロ／壁画運動など 11　現代メキシコ文化：リラ・ダウンズなど 12　グルーバル化の中の先住民：サパティスタ蜂起など 13　アジアとラテンアメリカ 14　米国ラティーノの歴史と文化

到達目標	ラテンアメリカの近現代史に関して自ら課題を設定し、調査・分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業までにすべき課題を示します。
テキスト	授業内で適宜配布・指示します。
参考文献	清水透『ラテンアメリカ五〇〇年』岩波現代文庫 2017 年、アンダーソン『定本：想像の共同体』書籍工房早山
評価方法	授業中の発言などの参加度および報告内容 50%　期末レポート 50%

13 年度以降	ラテンアメリカの政治と社会	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。 本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に取り上げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。	1. 政治史(1)：ラテンアメリカ諸国の独立(19世紀) 2. (2)：近代化とポピュリズム(20世紀前半) 3. (3)：開発と軍事政権(1960年代～) 4. (4)：経済危機と民主化(1980年代～) 5. (5)：ネオリベラリズムと現代社会 6. 地域的多様性(1)：ラプラタ諸国(アルゼンチンなど) 7. (2)：ブラジル 8. (3)：アンデス諸国(ペルーなど) 9. (4)：メキシコ・中米諸国 10. (5)：カリブ諸国 11. 現代の課題(1)：ネオリベラリズムと貧困・格差 12. (2)：先住民運動と多文化主義 13. (3)：麻薬と組織犯罪・暴力 14. (4)：政治の左傾化と社会運動

到達目標	ラテンアメリカの政治と社会に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、諸問題について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 100%(ただし公正な評価のためにその他の事項を加味する場合がある)。

13 年度以降	ラテンアメリカの国際関係	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解することを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また多くの第三世界諸国と異なり、独立国としても200年近い歴史のある、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、対米関係やラテンアメリカ諸国間の関係に関する重要論点について学ぶ。そして、今日のグローバル化の影響やラテンアメリカで強まりつつある新しい地域主義の動向を知り、この地域が抱える21世紀の課題について考える。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。	1. 国際関係史(1)：ラテンアメリカの独立と経済成長 2. (2)：米国の覇権主義の拡大(20世紀前半) 3. (3)：国家発展と経済危機(20世紀後半) 4. (4)：地域協調の時代(1990年代以降) 5. 対米関係(1)：キューバ革命と米国 6. (2)：軍事政権と米国による援助政策 7. (3)：米国の国益とネオリベラリズムの浸透 8. (4)：地域的自立の模索 9. 域内関係(1)：資源開発と国境紛争 10. (2)：輸入代替工業化期の経済統合 11. (3)：反グローバリズムと社会運動 12. (4)：21世紀の域内協力 13. 日本とラテンアメリカ(1)：日本人移民と日系社会 14. (2)：日本による開発協力

到達目標	ラテンアメリカの国際関係に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 100%(ただし公正な評価のためにその他の事項を加味する場合がある)。

13 年度以降	ブラジル研究	担当者	E．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、受講生がブラジルについて積極的に考え、独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性と挑戦的課題を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や社会政策が必要なのか、激変するブラジルの政治的シナリオをどう解釈すれば良いのかなどを課題として取り上げる。 近年目立つ出来事として､BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。また、2019 年に誕生した新政権により、今後ブラジルはいかなる方向に進行しうるのかを議論する。 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 「失われた 80 年代」、90 年代、インフレーション、経済安定化 3. 2000 年代、経済成長への道 4. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生 5. 人種による不平等：クォーター制度と是正の試み 6. 2010 年代の経済停滞と政治混乱 7. 左から右へ：2019 年新政権誕生が持つ意味 8. 映像から見たブラジル 9. 映像が語るブラジルという国 10. 日本の中のブラジル：1980 年代に始まった日系ブラジル人の日本への国際移動 11. 在日ブラジル人の労働と社会 12. 外国人労働者受け入れにおける今日的課題と在日ブラジ人 13. 学生のプレゼンテーション 14. 学生のプレゼンテーションとまとめ

到達目標	ブラジルの経済・社会などを体系的に理解し、各種の問題について論理的に分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、内容について予習をすること。
テキスト	テキストはなし。文献は授業時に紹介する。
参考文献	堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書
評価方法	平常授業における課題レポートと参加(20%)、 プレゼンテーション(20%)、 期末試験（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ラテンアメリカの経済と社会	担当者	北野　浩一

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの国々やそこに住む人々を理解するためには、経済的な営みについての正しく深い知識を持っていることも重要です。 本講義では、できるだけ実態に即しながらラテンアメリカの経済的特徴を理解し、それぞれの問題に対する考え方を養うことを目的とします。春学期では、ラテンアメリカの経済分野のうち、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）で重要性を増す「地域統合」、「輸出一次産品」といった貿易投資分野、また「貧困」、「所得格差」といった社会分野を扱い、ミクロ経済学の枠組みで考え方を学びます。経済学の知識を前提としない講義にします。 授業は、2、3回で一つのトピックを取り上げます。まず、経済データ等資料でラテンアメリカの状況を示し、続く回で、これを分析するための考え方を解説します。	1．ラテンアメリカ経済概観・歴史 2．日本とラテンアメリカ 3．ラテンアメリカ経済のグローバル化 4．貿易政策の考え方 5．直接投資の考え方 6．ラテンアメリカの地域統合 7．経済統合の考え方 8．ラテンアメリカの企業 9．企業分析の考え方 10．ラテンアメリカの農業 11．ラテンアメリカの貧困と格差 12．貧困・所得格差の考え方 13．ラテンアメリカの開発と環境 14．まとめ

到達目標	ラテンアメリカの経済と社会の特色と歴史的変遷過程、主要な思想、現状と課題、および対応等について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業でプリントを配布します。次の講義までに復習をしてください。
テキスト	宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009 年.
参考文献	西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ、2011 年.
評価方法	期末テスト 50%、授業中の小テスト 30%、レポート等 20%として、総合的に評価します。

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （ラテンアメリカ経済発展論）	担当者	北野　浩一

講義目的、講義概要	授業計画
20世紀後半からのラテンアメリカの経済危機とその後の政策転換は、発展途上国の経済政策に大きな影響を与えました。新興国が世界経済で重みを増す中で、経済成長を促すための戦略の再検討が急務となっています。秋学期では、特に「インフレーション」や「外国為替レート」、さらには「新しい経済成長論」といったマクロ経済の分野について学習します。 授業は、2、3回で一つのトピックを取り上げ、経済データ等資料でラテンアメリカの状況を示し、続いてこれを分析するための考え方を解説します。経済学の知識を前提としない講義にします。 ラテンアメリカの経済発展を深く理解するとともに、受講者自らが発展途上国の経済を分析し、評価できる能力の習得を目指します。	1．ラテンアメリアのマクロ経済の諸問題 2．マクロ経済の考え方 3．ラテンアメリカの経済自由化政策 4．ラテンアメリカの金融 5．金融政策の考え方 6．インフレーションの考え方 7．外国為替レート政策の考え方 8．ラテンアメリカの開発と政府 9．財政政策の考え方 10．社会保障政策の考え方 11．ラテンアメリカの長期経済成長 12．ラテンアメリカの人的資本と技術開発 13．経済成長の考え方 14．まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業でプリントを配布します。次の講義までに復習をしてください。
テキスト	宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009 年.
参考文献	二神孝一著『マクロ経済学入門』（第３版）日本評論社、2017 年.
評価方法	期末テスト 50%、授業中の小テスト 30%、レポート等 20%として、総合的に評価します。

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a)	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita a través de las tareas que se piden. **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1. Introducción. 2. Los albores del arte español: *la cueva de Altamira* 3. Los iberos: su sociedad y manifestaciones artísticas. 4. Los celtas: su sociedad y manifestaciones artísticas. 5. La romanización de la Península Ibérica. 6. La arquitectura e ingeniería hispanorromanas. 7. Las invasiones germánicas. La sociedad en la España visigoda. 8. La arquitectura y la orfebrería hispanovisigodas 9. La invasión musulmana (s. VIII). La sociedad y la cultura hispanomusulmanas. 10. La arquitectura hispanomusulmana 11. La Alhambra de Granada 12. Los jardines del Generalife 13. La sociedad española durante Reconquista 14. El arte durante la Reconquista.

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario repasar para poder contestar a las preguntas de cada tema.
テキスト	La profesora entregará las fotocopias correspondientes a cada tema.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 100% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 3. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 4. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita a través de las tareas que se piden. **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1. La arquitectura medieval: el románico (s. XI) 2. La arquitectura medieval: el gótico (s. XII) 3. El Camino de Santiago. Su historia e infraestructura. 4. Recorrido visual del Camino. 5. *La Celestina* como paso de la Edad Media al Renacimiento 6. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI) 7. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 8. El Greco en Toledo. Última etapa de su pintura. Su influencia en movimientos artísticos posteriores 9. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 10. Velázquez (1599-1660). Época sevillana. 11. Velázquez pintor de la corte. Viajes a Italia. 12. *Las hilanderas* y *Las meninas*. Influencias en movimientos artísticos posteriores. 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración. 14. Francisco de Goya. Invasión napoleónica. Pinturas negras. Exilio. Influencias posteriores.

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario repasar para poder contestar a las preguntas de cada tema.
テキスト	La profesora entregará las fotocopias correspondientes a cada tema.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 100% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地ラテンアメリカ(中南米スペイン語圏など)のパフォーミングアーツ(音楽・ダンス・演劇)および映像・アニメほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本と比較することで，背景となる社会や時代の諸相を考察します。この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたため，まずは身体技法について触れます。クレオールという概念を筆頭に文化混淆がキーワードとなることから，個別の構成要素を探ります。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例を皮切りに、ジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け，ドキュメンタリーを参照しながら，クラブカルチャーの源流をたどります。他言語圏も概観しつつ，ローカルな民俗芸能が国民文化として戦略的に広報される経緯を追います。アートとは技巧を意味し、芸術はサブカルチャーから流行に至る場合が多い。多極化する映画界やガウディの商標化も取りあげます。ルーツとは何か。「表象」を柔軟に論じましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域ほか中南米の混血主義とシンクレティズム 3. キューバにおけるスペイン系弦楽器とアフリカ系太鼓の遭遇 4. フォルクローレ(民俗)をめぐる身体技法とグローカル化 5. 国際的なマーケットでブランド化された建築家ガウディ 6. 映画の媒介: ICAIC からエリセやアルモドーバルまで 7. 主流と対象化: アイコン化される美の複製とポストモダン 8. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 9. マス対象の文化産業とサルサほか移民の市場細分化 10. 黒塗りとブラックアトランティック: ラップ・レゲトン.... 11. カット&ミックス: ジャマイカ発のスカ・レゲエ・ダブ.. 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民の祝宴 13. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」や J ポップ 14. まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため，特に事前学修は必要ないが，関心を抱いたジャンルや実践者については，事後に自分で PV ほかのコンテンツを検索するなどして，最終レポートの下準備につなげること。
テキスト	テキストは指定せず，適宜プリント配布する。
参考文献	授業中に紹介するが，各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢(35%)と期末レポート(65%)

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（カリブ海域研究）	担当者	工藤　多香子

講義目的、講義概要	授業計画
カリブ海域といっても、日本から遠く、あまりなじみのない場所かもしれません。しかし、砂糖やタバコ、そしてサルサやレゲエといった音楽を通じてカリブ海域と私たちの社会は密接につながっています。この講義では、なぜ砂糖がこの地域で栽培されるようになったのか、また、どうして多様な音楽がこの地域から生まれるのかを歴史的背景にさかのぼりながら解説します。 具体的には2015年に米国と国交再開したばかりのキューバを中心に人々の暮らしなどを紹介しながら、広くカリブ海域の人々の経験について文化人類学的に考察します。コロンブスの「発見」以来、独特の歴史を背負うこととなったこの地域の社会や人々の考え方に、遠い日本に住む私たちにもきっと学ぶべきことが多くあるはずです。	1. 概論　「ヨーロッパの闘技場」としてのカリブ海域 2. コロンブスと「カリブ」の出会い 3. ヨーロッパと砂糖 4. 砂糖が生んだ社会 5. タバコの文化史 6. 海賊とラム酒 7. 奴隷制度の実態 8. 奴隷制度の爪痕 9. 人種と民族 10. クレオール文化 11. カリブ海域の音楽 12. カリブ海域の宗教 13. キューバ革命 14. キューバのいま

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。ふだんからカリブ海域のニュースなどに関心をもつようにしてください。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	レポート 60%、リアクションペーパー40%

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	井垣　昌

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、主に南米の数カ国に関する事例研究に触れながら、現代ラテンアメリカの社会と文化との関係について理解することにある。ラテンアメリカ全体の特徴、域内における多様性と相違についても視野に入れる。 本授業は講義形式で行なうが、履修生には、自由研究の提出や発表、講義や発表への質問など、積極的な授業参加を求める。また、知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。なお、課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。 ※履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、授業計画等を変更する場合があるが、講義で取り上げる主な国やテーマは、ラテンアメリカの一部に限られる。 ※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。また、右記の授業計画は、進捗状況などにより変わる場合がある。	1. ガイダンス、ラテンアメリカの概念と全体像 2. ラテンアメリカの主な亜地域と諸国家の特徴 3. ラテンアメリカにおける人種と民族 4. ラテンアメリカにおける宗教と国家 5. アンデス地域におけるコミュニティ形成 6. アンデス地域の宗教、政治、文化―コカ葉 7. アンデス地域の宗教、政治、文化―祝祭 8. アンデス地域の伝統、社会、文化―フォルクローレ 9. 異文化接触―アンデス地域とアマゾン地域 10. ラプラタ地域の政治、文学、舞踊―ガウチョ 11. ラプラタ地域の宗教、政治、経済―マテ葉 12. 異文化接触―アンデス地域とラプラタ地域 13. ラテンアメリカの他地域との比較―嗜好品 14. まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：資料の指定された箇所を精読し、用語の意味と具体例を関連付けて把握しておくこと。 事後：授業の学習内容を復習し、新出用語の意味と具体例を調べること。出された課題に取り組むこと。
テキスト	参考資料を配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	試験 50%、平常点 50%（小テスト、リアクションペーパー、プレゼンテーションなど）

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（専門講読）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、授業時間のおよそ三分の二を使って、スペイン語圏の文化や社会を扱う外国語文献を購読します。日本語文献についても、適宜使用します。のこりの時間は、各自（あるいはグループ）が選んだ文献（もしくは受講者の興味に従って指定した文献）について、受講者がその内容を報告することとします。共通で読むものとして「死者の日」など祝祭関連、「スペイン語圏の食文化」関連「日本とラテンアメリカ交流」関連を予定している。この授業は演習形式でおこないます。 この授業の目的は、自分の問題意識に関する先行研究、基礎文献を見つけた上で、自ら選択し、読み込むことのできる能力を養成することです。言語文化学科で必修である卒業研究を進めるための基礎訓練とするだけでなく、卒業研究の課題以外に興味、問題関心を広げる場としたいとおもいます。 文献テーマについては、履修者からの要望などにより変更する場合がある。	1　はじめに 2　Sánchez González, “Día de muertos; una invención cultural del siglo XX” 3　オクタビオ・パス『孤独の迷宮』 4　Marchi, *Day of the Dead in the USA,第二章前半* 5　上記第二章後半 6　Pilcher, ¡Que vivan los tamales!, 第 4 章前半 7　上記後半 8　Kerber Palma, “Una utopía social japonesa” 9　日本外交文書　照井亮次郎書簡など 10　報告準備（グループ作業：発表外国語文献の確定） 11　報告準備（グループ作業：翻訳の相互確認・批判） 12　報告準備（グループ作業：報告資料の相互確認・批判） 13　履修者（もしくはグループ）のプレゼンテーション 14　まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者が用意したテキストを予習してください。また、各自、報告を用意する必要があります。
テキスト	担当者がプリントを用意します。
参考文献	なし
評価方法	授業での発言 50%、プレゼンテーションおよびプレゼンテーションをもとにした期末レポート 50%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	担当者	P．ラゴ ／ 臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
英語とスペイン語を比較したことがあるだろうか。両言語の類似点や相違点を理解することで語彙力の向上や言語習得の伸長が期待できる。 本講義では、講義と実践をまじえ、今まで学習してきた英語とスペイン語を語源、意味範囲、語用（言語使用）や統語（文法）などの側面から比較・分析し、両言語の類似点および相違点を認識・理解し、言語習得・使用に応用できるようにすることを目的とする。	第1回　概論 第2回　スペイン語と英語の語源：理論 第3回　スペイン語と英語の語源：実践 第4回　偽同族語：理論 第5回　偽同族語：実践 第6回　単語の意味範囲（意味論） 第7回　言語使用と表現（語用論） 第8回　スペイン語と英語の文法（統語論） 第9回　スペイン語と英語の慣用句とその背景 第10回　翻訳１：スペイン語から英語 第11回　翻訳２：英語からスペイン語 第12回　スパングリッシュ（Spanglish） 第13回　口頭発表1：グループ1 第14回　口頭発表2：グループ2

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	前回の講義内容を復習し、次回の講義テーマについて考える。
テキスト	配布資料
参考文献	スペイン語とともに考える英語のラテン語系の世界（山中和樹、2013、開拓社）
評価方法	授業内課題　25%　課題　25%　レポート・口頭発表　50%

13 年度以降	中国地域論	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
国家の政策と民衆の生活双方に関わる事物をとりあげて解説し、これを通して現在の中国および中国語圏各地域への理解を深めることを目的とする。 具体的なトピックとして挙げるのは祝祭日、国旗、市民権、国籍、姓名、少数民族の権利、文字などである。どれも国家・民族の象徴と関わる事物であるが、同時に国内に住む全ての人の生活と切り離せない関係にある。こうしたものに対する個々人の距離のとり方、アイデンティティの所在なども視野に入れながら、履修生とともに考えたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1.　ガイダンス 2.　祝祭日1―台湾の場合 3.　祝祭日2―現代中国の場合 4.　国旗・国歌 5.　国籍・市民権1―中国 6.　国籍・市民権2―台湾 7.　国籍・市民権3―香港 8.　華僑・華人1―歴史 9.　華僑・華人2―現状 10.　少数民族の権利 11.　地方各レベルの自治権 12.　国境線・領土権 13.　文字とことば 14.　まとめ

到達目標	中国各地域の特色や問題に対する理解を深め、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教員が用意して配付する
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国研究概論	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国研究および中国語圏理解のために役立つ、基礎的な知識を身につけることを目標とする。 中国人の現代生活と深い関わりを持つ、文化・政治・社会・経済などに関わる諸トピックをとりあげ、関連する中国語キーワードとともに、現代中国への理解への手がかりとする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1.　ガイダンス 2.　前提知識：中国の近代 3.　前提知識：中国と現代 4.　生活の知恵：伝統的遊び 5.　生活の知恵：古典作品 6.　生活の知恵：歴史ドラマ 7.　中国の海外投資：アジア 8.　中国の海外投資：アフリカ 9.　学園生活：初等教育 10.　学園生活：中等教育 11.　中国の建築：伝統 12.　中国の建築：現在 13.　現代中国社会：土地 14.　まとめ

到達目標	中国の歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教員が用意して配付する
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国言語文化論	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は，古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は，背景の文化に対するそれと同様，独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては，この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。	1. 中国語とは？普通话、汉语、华语、国语　漢字文化圏 2. 現代中国語の音韻 3. 華人と中国語の比喩 4. 中国人のコミュニケーションの特色 5. 中国人の「色」 6. ことわざ・歇後語 7. 〝既成の言い回し〟描写表現 8. 東西南北、右左 9. 日本語母語話者ゆえの誤謬 10. 飲食に関する言葉 11. 中国人の名前・命名 12. 自尊心・コネ社会・宗教 13. 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 14. まとめ

到達目標	中国語とその文化を学ぶための視点を養成し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回の内容について思いを巡らせ，既習の内容について咀嚼玩味する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	現代中国論 I	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国の現状について理解するために、北京・上海・広州などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、地域ごとの現状（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には中国国内の情勢に対する理解を深めてもらう。 ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1.　ガイダンス 2.　広州・深圳と対外貿易 3.　上海と工業・金融 4.　重工業と東北三省 5.　山東省とドイツ 6.　出稼ぎ供給地としての華中地域 7.　革命故地 8.　首都、北京 9.　古都、西安・杭州・南京 10.　四川省と観光 11.　雲南と少数民族 12.　内モンゴルと草原・モンゴル族 13.　新疆ウィグル自治区と中央アジア 14.　まとめ

到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教員が用意して配付する
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	現代中国論 II	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国語世界の多様性を理解するための一つの方法として、本授業では民族・エスニシティを主なトピックとしてアプローチを試みる。 広大な面積を擁する中国国内には、多くの民族が暮らしている。本授業では、他の国の多文化共存のあり方と比較しつつ、多民族国家・中国の実態について検討する。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1.　ガイダンス 2.　トン族の歴史 3.　トン族の文化 4.　ミャオ族 5.　ジンポー族 6.　タイ族の歴史 7.　タイ族の文化 8.　中国の宗教と民族 9.　回族 10.　彝族 11.　客家 12.　多文化主義：アメリカ・カナダ 13.　多民族国家と多文化主義 14.　まとめ

到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教員が用意して配付する
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国史 I	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国をより深く理解するために，その原型が形成された18世紀の中国について学ぶ。 18世紀の中国は清朝の統治下で盛世の時代を迎える。版図は歴代王朝の中で最大となり，経済は発展し，人口も1億人から3億人となる。授業では王朝支配の体制，国際関係，広域経済の形成，多民族統治，法と裁判，警察・徴税から見た地方行政，地域エリートと慈善事業などについて講義する。	1　講義の概要 2　皇帝支配 3　科挙と地方統治 4　税制改革と財政 5　国際関係と冊封朝貢体制 6　銀両・銅銭通貨と広域経済の形成 7　多民族統治の実態 8　映像資料の視聴 9　法制度 10　裁判の実態と情理 11　犯罪と警察制度の展開 12　徴税と地方行政 13　地域エリートと慈善事業 14　まとめ

到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	岸本美緒・宮嶋博史『世界の歴史 12　明清と李朝の時代』(中公文庫 S-22-12)中央公論新社、2008 年。
参考文献	授業時に指示する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

13 年度以降	中国史 II	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国をより深く理解するために，その原型が形成された18世紀の中国について学ぶ。 18世紀の中国は清朝の統治下で盛世の時代を迎える。版図は歴代王朝の中で最大となり，経済は発展し，人口も1億人から3億人となる。授業では台湾の開発，山地経済の形成と無生老母信仰の展開，家と家族や婚姻などの慣行から見る女性の地位の変化，イスラームと中華との文化対話などについて講義する。	1　講義の概要 2　台湾の開発 3　山地経済の形成 4　無生老母信仰の展開と嘉慶白蓮教徒の反乱 5　家と宗族 6　婚姻の諸形態 7　売妻・典妻慣行 8　纏足の展開と婚活戦略 9　女性の地位の変化 10　映像資料の視聴 11　中国ムスリム社会の形成 12　回儒と中華との対話 13　イエズス会宣教師の見た中国 14　まとめ

到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	岸本美緒・宮嶋博史『世界の歴史 12　明清と李朝の時代』(中公文庫 S-22-12)中央公論新社、2008 年。
参考文献	授業時に指示する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

13 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究ａ）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
日本人の見た[中国]、中国人の考えた[日本] 経済・政治などが地球上で均一化していく「グローバル（全球）化」の中で、日本と中国の地域的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経 済的にも対立する）、更には日中間の「文明の衝突」に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代の中国人観光客の日本観やネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか」「中国人が日本をどう見たか」を題材に、日中両国の文化を世界的な視点で、歴史の流れの中で比較していく。	1.　「支那」と「小日本」――ネット上に溢れる蔑称 2.　徐福伝説と呉太伯（大陸文化の渡来） 3.　聖徳太子と空海（遣唐使が見た中国） 4.　慈覚大師と浜松中納言（大陸文化からの自立） 5.　武家政権と科挙政治（中国化を免れた日本） 6.　「日本国王」と室町文化（日本文化の成立） 7.　「南蛮文化」の渡来と日中衝突（日本文化の拡大） 8.　近松門左衛門と荻生徂来（「聖人君子の国」とは？） 9.　黒船来航とアヘン戦争（高杉晋作の上海渡航） 10.　「文明開化」と「中体西用」（福沢諭吉と梁啓超） 11.　「合わせ鏡」としての日中関係（夏目漱石と魯迅） 12.　「同文同種」の分裂と衝突（横光利一と郭沫若） 13.　「激変中国」と「平和日本」（文化大革命と平和憲法） 14.　まとめ「日本文化」と「中国文明」

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に高校時代の世界史、日本史の教科書や参考書を授業の時系列に従い読み直す。 事後、授業中に配布した資料を精読し、書いた小レポートの内容を再吟味する。
テキスト	大沢昇著『クジラの文化、竜の文明　日中比較文化論』（集広舎、2015 年）
参考文献	授業中にプリントを配布し、紹介する
評価方法	授業ごとの小レポート 60%、最終授業の課題レポート 40%

13 年度以前	中国特殊研究（日中比較文化研究ｂ）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
「竜の文明」と「くじらの文化」 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けが付かないほど、顔立ちは似ているが暮らしの上では、大きな違いが散見される。日本では「衣食住」が日常の暮らしに欠かせないものと考えるが、中国では“衣食住行”と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものとする。また家族観や価値観、思考様式でも両文化は異なる点が多い。19 世紀、「西欧の衝撃」 を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」 から「文明開化」に進んでいったが、中国では“中体西用” と言って欧米文明の「先進性」をなかなか認めようとしなかった。こうした日中文化の違いを、具体的に幅広く見ることで、中国文化を客観的に観察し、日中間の文化交流・異文化理解の一助としたい。	1.　「顔」と「文化」――外見はそっくりだが 2.　（国の形）国号・国旗・国歌の考え方が異なる日中 3.　（食）「水の料理」と「火の料理」 4.　（政治）姓のない天皇、姓をもつ皇帝 5.　（住）「木の家屋」と「土の城壁」 6.　（思考方法）「恥の文化」と「誇り（驕）の文明」 7.　（衣）「柄の着物（和服）」と「色の衣服」 8.　（価値観）「縮み志向」と「巨大願望」 9.　（交通）「歩く文化」と「乗る文明」 10.　（死生観）日本の「幽霊」と中国の「妖怪」 11.　（言語表現）「以心伝心」と“討価還価” 12.　（芸術）派手な「浮世絵」と地味な「文人画」 13.　（家族）公儀に対する「忠」と父母に尽くす「孝」 14.　まとめ「クジラの文化」と「竜の文明」（環境に適応し変化した日本文化、四方の異民族の文明を組み合わせた中華文明）

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキスト『クジラの文化、竜の文明』をテーマに従い読む。 事後、授業中に配布した資料を精読し、書いた小レポートの内容を再吟味する。
テキスト	大沢昇著『クジラの文化、竜の文明　日中比較文化論』（集広舎、2015 年）
参考文献	授業中にプリントを配布し、紹介する
評価方法	授業ごとの小レポート 60%、最終授業の課題レポート 40%

13 年度以降	中国特殊研究（中国文学研究ａ）	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国の近現代文学について学びます。中国近代文学の祖とも称される「魯迅」から、ノーベル文学賞受賞作家の「莫言」まで、20 世紀から 21 世紀にかけての中国の代表的作家とその代表作を取り上げます。 中国近現代文学の文学史的展開をたどると同時に、その作家が誕生し、作品が創作された背景に垣間見る中国の歴史的・社会的状況も探っていきます。 毎回の授業では、前半に各回テーマに関する事項について教員が解説し、後半は受講生全員で作品内容について議論していきます。講義終了時にはリアクションペーパーに所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。 なお、授業内では必要に応じて映画やドキュメンタリーなどの映像資料も使用します。	1. ガイダンス――中国語圏の現代文学を学ぼう 2. 清末民初――梁啓超、李伯元 3. 清末民初――魯迅、蘇曼殊 4. 五・四時期――胡適、周氏兄弟 5. 五・四時期――謝冰心、凌叔華 6. 狂熱の30年代――茅盾、穆時英 7. 狂熱の30年代――巴金、蕭紅 8. 成熟と革新の40年代――張愛玲、梅娘 9. 成熟と革新の40年代――趙樹理、林語堂 10. 暗黒の毛沢東時代――老舎、張愛玲 11. 暗黒の毛沢東時代――鄭義、映画『無言歌』 12. 鄧小平時代とその後――高行健、莫言 13. 鄧小平時代とその後――余華、閻連科 14. まとめ ※受講生の関心や研究テーマに応じて、授業内容や進度を微調整する場合もあります。ガイダンスは必ず出席するようにして下さい。

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前には事前に配布される文学作品のコピーに目を通しておくことが不可欠です。 授業後は紹介する参考文献をよく読んでおくようにして下さい。
テキスト	藤井省三『中国語圏文学史』（東京大学出版会、2011 年）
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業参加度（事前学修への取り組み方を厳格に採点します）20%、中間レポート 30%、期末レポート 50%

13 年度以降	中国特殊研究（中国文学研究ｂ）	担当者	明田川　聡士

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、台湾文学について学びます。日本統治期の日本語文学から、現在の中国語文学まで、20世紀から21世紀にかけての台湾の代表的作家とその代表作を取り上げます。 台湾文学の文学史的展開をたどると同時に、その作家が誕生し、作品が創作された背景に垣間見る台湾と東アジアの歴史的・社会的状況も探っていきます。 毎回の授業では、前半に各回テーマに関する事項について教員が解説し、後半は受講生全員で作品内容について議論していきます。講義終了時にはリアクションペーパーに所感を記述し、次回授業の冒頭で教員からフィードバックを行います。 なお、授業内では必要に応じて映画やドキュメンタリーなどの映像資料も使用します。	1. ガイダンス――台湾文化のクレオール性 2. 清末～1920年代の台湾文学 3. 日本人作家の見た台湾原住民 4. 楊逵の生涯 5. 1940年代の台湾文学 6. 呂赫若とは誰か 7. 呉濁流と郷土文学 8. 白先勇と60年代モダニズム 9. 1980年代以後の台湾文学 10. 現代詩 11. 原住民文学 12. 馬華文学 13. セクシュアルマイノリティ文学 14. まとめ ※受講生の関心や研究テーマに応じて、授業内容や進度を微調整する場合もあります。ガイダンスは必ず出席するようにして下さい。

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前には事前に配布される文学作品のコピーに目を通しておくことが不可欠です。 授業後は紹介する参考文献をよく読んでおくようにして下さい。
テキスト	山口守編『講座 台湾文学』（国書刊行会、2003 年）
参考文献	授業中に適宜紹介します。
評価方法	授業参加度（事前学修への取り組み方を厳格に採点します）20%、中間レポート 30%、期末レポート 50%

13 年度以降	中国特殊研究（日中交流史）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが，２つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては，日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして，近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み，当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から，これを論ずる中国人学者の論文を読み，われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 <隔在中西之间的日本　－　现代汉语中的日语“外来语”问题　–>（王彬彬,《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。	1.　唐代と近代　双方向の交流 2.　現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 3.　日本の翻訳と中国の翻訳 4.　中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 5.　近代日本人学者の翻訳方法 6.　訳語の競合と定着 7.　梁啓超と日本新漢語流入の契機（亡命と翻訳誌） 8.　梁啓超と日本新漢語流入の契機（術語の移入） 9.　厳復の不満・反論 10.　欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 11.　厳復のスタンスと限界 12.　中国語にとって欧米の概念（日本語由来） 13.　中国語にとって欧米の概念（新概念） 14.　まとめ

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の中文の読解を試み，既習の中文を熟読玩味する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国特殊研究（専門講読）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
声に出して読むこと、を実践する授業である。 さまざまな種類の中国語の文章を読み、中国語の多様な文体と触れることで、実践的な読解力および表現力を身につけることを目的とする。 課題となるのは、教科書では読まないような「生」の文章である。現代中国のいろいろな断面を切り取った内容となっており、文章を通して中国の実情を理解してもらう。意味を推測しながら行間を読む訓練にもなる。 履修者は毎回、指示された文章を読んでくる必要がある。その際には辞書を使って単語を調べるなどの事前学習が必要である。授業の場では、履修者全員を順番で当て、該当箇所を訳してもらう。	1.　ガイダンス 2.　エッセイ：中国のロック歌手 3.　エッセイ：連続テレビドラマ 4.　エッセイ：クリスマスについて 5.　エッセイ：オーディション番組 6.　エッセイ：ハリーポッター 7.　詩文講読 8.　詩文分析 9.　絵本の文章：講読 10.　絵本の文章：分析 11.　紀行文：チベット旅行 12.　解説文：電子メディア 13.　解説文：バンザイ・サン＝シモン 14.　解説文：食文化

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回事前に教材を渡すので、次回学習する箇所の予習をすること。また授業で学習した部分について、繰り返し読んで練習すること。
テキスト	教材は教員が準備、配付する。
参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度、授業内ノルマ）［75%］、練習成果のテスト［25%］。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は平常点評価の対象としない。

13 年度以降	韓国研究概論	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的はこれから韓国について研究を進めるために必要な基本的な知識を身につけ、理解を深めることにある。 そのため、韓国の文化、言語、歴史、社会、政治などの諸トピックを網羅的に論評したテキストを用いて各々のテーマについてみていくことにする。 最初の2回は適宜プリントを配布して、講義を進めていくうえで前提となる内容を紹介する。3回目以降は、テキストを１週に１章ずつ進めていく。 人数にもよるが、基本的に講義と発表の形式で進めていく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス 2. 世界の中の韓国と、韓国の中の諸地域 3. いま，韓国をどう見るか 4. 韓国の文化 5. 韓国の言語と文学 6. 韓国の歴史 7. 韓国の社会 8. 韓国の政治 9. 韓国の経済 10. 韓国の外交・安全保障 11. 日韓関係 12. 世界に暮らすコリアン 13. これからの日本，韓国と東アジア 14. まとめ―韓国を考えるための視座

到達目標	韓国の様々な事情について基本的な知識を習得したうえで分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを精読しておくこと。事後学修：授業中に配布したプリントなどを整理すること。
テキスト	小倉紀蔵編『現代韓国を学ぶ』有斐閣, 2012 年
参考文献	特になし
評価方法	授業に対する積極的態度(20%)，小レポート(20%)，発表(10%)，期末レポート(50%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国社会論 I	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、韓国の教育問題について、その歴史的背景と現状を学び、教育問題に関する自分の見解を提示できるようになることである。受講生は、韓国社会に関する専門知識を得るとともに、それを社会学的に分析して考察する方法を修得する。授業は講義と発表で構成される。受講生は、予め決められたテーマの中から一つを選んで聞き取り調査を行い、調査結果をまとめて報告、ディスカッションを行う。前半の授業では、聞き取り調査の方法論、韓国の歴史と韓国の学校の歴史を概観し、韓国の教育問題を考えるために必要な基礎知識を得る。後半の授業では、韓国社会の教育問題を、校内暴力問題、学生人権問題、教育熱の三つのテーマに分けて講義と発表を行う。本講義では、受講生の調査とディスカッションを重視するので、受講生の積極的な参加が求められる。	1. 講義の概要 2. 社会について考えるための質的調査法：聞き取り調査 3. 韓国の歴史1：朝鮮時代末期から朝鮮戦争まで 4. 韓国の歴史2：朝鮮戦争から民主化まで 5. 韓国の学校の歴史1：宗教改革から第二次世界大戦まで 6. 韓国の学校の歴史2：解放から新自由主義時代まで 7. 韓国の校内暴力問題1：概説 8. 韓国の校内暴力問題2：調査報告とディスカッション 9. 韓国の学生人権問題1：概説 10. 韓国の学生人権問題2：調査報告とディスカッション 11. 韓国の教育熱1：概説 12. 韓国の教育熱2：調査報告とディスカッション 13. 韓国の代案教育：意義と現状 14. 学校の未来：MOOC時代の到来と展望

到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：配布するプリントを精読してください。担当するテーマの調査と発表を準備してください。 事後：毎回出される課題を解いて復習してください。
テキスト	プリントで配布する。
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 50%　発表 40%　授業での発言 10%

13 年度以降	韓国社会論 II	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、世界のコリアンをテーマに、韓国現代社会の伝統と変容を読み解いていく。特に韓国のなかの伝統文化が世界各国でどのように変容するのかに焦点をあてながら、韓国社会の特色を考えることが目的である。 そのため、世界で活躍するコリアンの生活や、彼ら同士の交流などに関する文献・資料を読みながら議論を行うことにする。 講義は各自の発表を中心に行う。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントを配布するようにする。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 世界のコリアン概説 2. 自己・他者理解としてのコリアン 3. コリアンの日本定住 4. 日本の中のコリアン 5. 近代日本とコリアン 6. 済州島文化と在日コリアン 7. 世界のなかのコリア語 8. 中国朝鮮族と国家 9. 北朝鮮と移住する人々 10. コリアンの食文化 11. コリアンと音楽 12. コリアンたちの出会い 13. コリアン・アメリカンのアイデンティティー 14. まとめ一現代韓国社会とコリアン文化

到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回与えられたテーマについて自分なりに調べて考えてくること。 事後学修：プリント・学習内容を整理し、与えられた参考文献を精読する。
テキスト	テキスト：授業で配布するレジュメ。
参考文献	勉誠出版編集部編『アジア遊学 92　世界のコリアン』勉誠出版社, 2006 年
評価方法	授業に対する積極的参加度(20%)，小レポート(30%)，期末課題(50%)をもとに評価を行う。

13 年度以降	韓国史	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
現在、日本と韓国の関係は緊密になっているにもかかわらず政治的には良くない状況となっている。その原因は近代の歴史に起因する問題である。インターネットサイトの中には様々な見解が溢れ、中には極端なものも多い。いま必要なのは、韓国（朝鮮半島）の歴史についてのバランスのとれた理解である。そこで本講義では韓国の通史を講義し、東アジアの中での韓国の位置および日韓関係について学ぶ。 講義は、事前の予習を前提とし、ポイントを記したプリントを配布し、それに基づいて話をする。 知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第1回：ガイダンス－韓国史を学ぶ意義と全体像 第2回：古代から統一新羅へ（1）先史時代から高句麗 第3回：古代から統一新羅へ（2）百済と新羅 第4回：高麗時代（1）10世紀から12世紀 第5回：高麗時代（2）13世紀から15世紀 第6回：朝鮮時代（1）16世紀から17世紀 第7回：朝鮮時代（2）18世紀から19世紀 第8回：朝鮮時代（3）19世紀から20世紀 第9回：まとめと中間テスト 第10回：植民地時代 第11回：現代（1）1945年から1960年 第12回：現代（2）1960年から1980年 第13回：現代（3）1980年から2000年 第14回：現代（4）2000年以後

到達目標	古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史を理解したうえで、各種の現代的課題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：小テストに備え、テキストとプリントを見直すこと。
テキスト	水野俊平著『韓国の歴史＜増補改訂版＞』（河出書房新社、2017 年）
参考文献	授業時に指示する
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、中間、期末試験（50%）。 ※ただし試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

13 年度以降	韓国経済論	担当者	奥田　聡

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では韓国の政治、経済動向等、最近の動きを紹介しながら同国に対する基本的理解を図る。 経済成熟期に特有な社会、経済的課題に直面する韓国の現状を概観し、今後の進路について考察してみたい。具体的には、各方面で強い影響を及ぼす国民感情、大国のはざまで翻弄される韓国の地政学的現状、依然として続く財閥主導の輸出主導的成長構造、技術不在・学歴偏重・過激な組合活動などの課題についてみていく。また、最近激化している日韓対立についても考える。 授業は講義形式を基本とする。	1．オリエンテーション 2．強すぎて脆い韓国大統領 3．弱い政府、最上位は「国民情緒法」 4．病める構造「財閥頼み」 5．深刻な韓国経済 6．路上デモでは終わらない・住みにくいソウル 7．第１～６回補遺、第１回小テスト 8．ポピュリズム人気 9．北朝鮮も政争のタネに 10．悲しき地政学的リスク 11．政治安定を取り戻す術 12．不安定経済に打つ手は 13．日韓関係リセットはあり得るのか 14．第８～14回補遺、第２回小テスト

到達目標	韓国経済の工業化の過程、および韓国の経済成長と開発戦略などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前には、テキストの該当部分をよく読みこんでくること（予習：約１時間）。授業後は授業で配布されたキーワードリストの記載内容をよく読み返し、不明の部分はネット等で調べる。（復習：約２時間）
テキスト	峯岸博著、『韓国の憂鬱』、２０１７年８月、日本経済新聞出版社。
参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	第１回小テスト 30%、第２回小テスト 40%、授業参加度 30%を基本とする。

13 年度以降	日韓比較教育論	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 90年代の韓国における教育改革について、日本と比較しながら検討する。比較を通じてどちらが良いかといった問題ではなく、両国を比較することでミ見えてくる東アジアの教育におけるグローバリゼーションの現れ方について検討することが目的である。 2. 講義概要 1つのテーマを、2コマかけて検討する。おおよそひとコマ目では韓国の教育改革の1トピックについて概要を解説する。2コマ目では、比較対象として日本の制度および改革について説明したあと、両国の違い、なぜこのような差が立ち現れるのかについてグループディスカッション等を通じて検討する。	１．　講義に関するガイダンス ２．　韓国の受験と教育熱 ３．　日本の受験と日韓の違い ４．　韓国の英才教育 ５．　日本の英才教育と日韓の違い ６．　韓国の多文化教育 ７．　日本の多文化教育と日韓の違い ８．　韓国の学校経営 ９．　日本の学校経営と日韓の違い １０．韓国のいじめ対策 １１．日本のいじめ対策 １２．韓国の児童養護 １３．日本の児童養護と日韓の違い １４．両国における90年代の意味

到達目標	日韓の教育政策や教育文化の相違点を理解し、これについて比較分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布した資料の読解、ディスカッションを踏まえたレスポンスカードの作成
テキスト	特に指定しない
参考文献	内容によって適宜紹介する
評価方法	グループディスカッションへの参加、発表（２０%）、レスポンスカード（２０%）、最終レポート（６０%）

13 年度以降	日韓比較文化論	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
多様なメディアを通じて韓国社会に関する情報に触れる機会が多くなっている。しかし、表層的な情報では「なぜ韓国の人々はこのように考えるのか？」という人々の考えの枠組みを内側から理解することは難しい。その一つの要因は、自分たちが無意識のうちに内面化しているものの見方を韓国に当てはめてしまうためである。本講義は、比較を通じて自分たちの常識を疑い、韓国に生きる人々の考えや行動を「文化」という側面から内在的に理解する方法の習得を目的とする。また最終的には各自で身近なテーマを決めて日韓文化比較の発表を行ってもらう。 注意：グループワーク形式を取るため、受講希望者は必ず１回目の授業から出席すること。	第1回：総合ガイダンス 第2回：どうして比較するのか？（比較の意義） 第3回：文化とは何か？（権力としての文化） 第4回：言語コミュニケーション文化 第5回：非言語コミュニケーション文化 第6回：調査方法ガイダンス（資料蒐集・仮説構築） 第7回：食文化（材料・料理） 第8回：食文化（食べ方） 第9回：軍隊文化（徴兵制） 第10回：軍隊文化（日常の中の軍隊文化） 第11回：政治文化（社会運動） 第12回：政治文化（政治参与） 第13回：学生最終プレゼン 第14回：まとめ及びフィードバック

到達目標	日韓の文化の相違点を理解し、これについて比較分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回配布する課題テキストを読了するとともに、講義中の質問及びアクションペーパー作成の準備してくること。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	呉智英『サルの正義』（双葉文庫、1996 年）
評価方法	授業に対する積極的参加度・毎回のリアクションペーパー(25%)，プレゼンテーション(25%)，期末レポート(50%)

13 年度以降	韓国研究情報収集法	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国研究を行っていくうえでの情報収集法を理解し、それを実践することを目的とする演習形式の授業である。 まず研究課題設定の方法から、タイピング、各種情報収集法(図書、インターネット、現地調査)、プレゼンテーションの方法まで総合的に学ぶ。そのうえで講義を通して得た知識をもとに、履修者によるグループ研究発表(3〜4名、テーマ各自設定)を行う。 履修者には、グループ研究発表への積極的な取り組み、そして質疑応答への積極的な参加を期待する。 ※本講義は、韓国語能力を必要とする。 ※毎回の授業で発表準備の進捗状況や他グループの発表に対する感想を記したコメントペーパーの提出が必要となる。	1. ガイダンス、グループ分けと日程決定 2. 研究課題設定の方法 3. ハングルのタイピング 4. インターネットからの情報収集法 5. 図書資料からの情報収集法 6. 現地調査による情報収集法 7. プレゼンテーションの方法 ① (研究成果の整理) 8. プレゼンテーションの方法 ② (スライド作成方法) 9. グループ研究発表 ① (グループA, B, C) 10. グループ研究発表 ② (グループD, E, F) 11. グループ研究発表 ③ (グループG, H, I) 12. グループ研究発表 ④ (グループJ, K, L) 13. グループ研究発表 ⑤ (グループM, N, O) 14. まとめ

到達目標	韓国研究に必要な情報を実際に収集・整理して、発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	研究課題を設定し、発表するまでのプロセスを考える。さらにレポートを通して、自らの研究発表を振り返り、今後より良い研究発表を行うための改善点を見つけ出す。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	特になし
評価方法	コメントペーパー30%、発表 30%、レポート 30%、授業に対する積極的態度(質疑応答への参加)10%

13 年度以降	日韓交流史	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では古代から現代までの日韓交流の歴史を概観することで、多様な日韓交流に関する知識・理解を深めるとともに、東アジア地域や世界の情勢に対する見方・考え方も身につけることを目的にしている。 そのため、東アジア地域や世界のなかで日韓交流の歴史を見ることにする。まず、1回の講義ごとにいくつかの重要なトピックについて検討していく。また、交流の社会背景や現代社会との関わりについても考えることで理解を深めることにする。 基本的には講義やグループでの議論・発表を中心に進めていく。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントなども配布していく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 日韓交流史概観 2. 先史時代の交流 3. 三国・伽耶と倭との交流 4. 隋唐帝国の成立・展開と東アジアの情勢 5. 10世紀〜12世紀の東アジアと日本・高麗の交渉 6. モンゴル帝国の成立と東北アジア 7. 明の成立と日本・朝鮮 8. 豊臣秀吉の世界構想と日朝関係 9. 通信使外交の成立と展開 10. 日韓の開港と東アジアの紛争 11. 帝国主義と独立運動 12. 日韓国交正常化以前の交流 13. 現代日韓交流の拡大・発展 14. まとめ―日韓交流の未来を展望する

到達目標	日韓の交流と歴史について相互に認識し、その相違点について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト、プリントを精読しておく。 事後学修：授業で配布するプリントを整理する。
テキスト	講義のなかで適宜指示する。
参考文献	歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史』明石書店、2007 年
評価方法	授業に対する積極的参加度(20%)， 小レポート(10%)， グループ発表(20%)， 期末レポート(50%)をもとに評価を行う。

13 年度以前	韓国特殊研究（韓国政治論）	担当者	呉　吉煥（オー・キルハン）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治や政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治と社会に対する理解を深めることが目的である。 韓国の政治社会を正確に理解するためには、政治の展開過程だけではなく韓国固有の政治文化（政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のこと。）の形成・展開過程をも合わせて把握していくことが重要である。講義では、朝鮮半島における政治社会が大きく変換し始める19世紀後半から現在に至るまでの期間を、時代順に概観しながら韓国政治の特徴を明らかにしていく。	1.　ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2.　朝鮮の政治システムについて 3.　開国と開化政策 4.　近代的政治への模索と挫折 5.　日本の植民地支配 6.　解放と南北分断体制の成立 7.　朝鮮戦争と分断体制の固着化 8.　学生革命と政治社会の変化 9.　クーデタと軍事政権の成立 10.　軍事独裁政権下の韓国社会 11.　韓国の民主化 12.　民主化以降の韓国政治①（1988～2002） 13.　民主化以降の韓国政治②（2003～2016） 14.　まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習として朝鮮史の概説書を１冊以上読んでおくこと。
テキスト	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。
参考文献	初回の授業時に紹介する。
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパの内容など）：５０％、期末試験：５０％

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の宗教）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くある。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっている。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とする。 講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第1回：ガイダンス 第2回：韓国宗教の構造 第3回：民間信仰 第4回：葬儀と墓地 第5回：仏教（1）仏教略史 第6回：仏教（2）韓国史の中での仏教 第7回：仏教（3）現代韓国の中の仏教 第8回：儒教（1）儒教略史 第9回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第10回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第11回：キリスト教（1）キリスト教略史 第12回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第13回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第14回：現代韓国と宗教

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：プリントを読んでくること。 事後学修：小テストに備え、プリントを見直すこと。
テキスト	プリントを使用
参考文献	授業中に指示する
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国前近代史）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は先史から朝鮮時代までの歴史を概観し、韓国の歴史に関する基礎的知識を習得し、現代社会の前近代史に対する捉え方を理解することにある。 講義では韓国史の手引書となる1冊を選び、先史から朝鮮時代までの歴史の歩みを、国家別・時代別にみていく。この際、国内政治とともに、東アジアや西洋との国際関係の中での歴史的展開を重視する。また、各回で扱う単元に関連する論点を取り上げ、現代社会の韓国前近代史に対するまなざしも考えるようにしたい。 基本的には講義形式だが、重要な論点についてはグループで議論・発表するようにする。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時プリントを配布し、小テストなども行う。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス 2. 韓国史の時代区分 3. 韓国の先史時代 4. 古朝鮮・楽浪と領域論 5. 高句麗史と帰属問題 6. 百済史の展開と古代日本 7. 新羅の成長 8. 加耶諸国と倭 9. 統一新羅とその虚構性 10. 渤海の領域と対外関係 11. 高麗社会の展開と外交 12. 朝鮮前期の政治構造と国際関係 13. 朝鮮後期の社会変動 14. まとめ－韓国前近代史と現代韓国社会

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んでおく。また授業中に配布したプリントは自分なりに整理しておくこと。
テキスト	田中俊明編『朝鮮の歴史 ： 先史から現代』昭和堂, 2008 年
参考文献	李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一 編『朝鮮史 1: 先史-朝鮮王朝（世界歴史大系)』山川出版社, 2017 年
評価方法	授業に対する積極的参加度(20%)、小レポート(30%)、試験(50%)をもとに評価を行う。

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の言語文化）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国の言語文化をより深く勉強していきます。 受講生は韓国語で書いてある資料の内容を理解し、翻訳とレジュメの提出と共に発表します。 毎回精読の上、翻訳したレジュメを必ずやって来てください。 授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	1. イントロダクション；韓国の言語 2. イントロダクション；韓国の現代文化 3. 韓国人の衣・食・住 4. 韓国の文化遺産 5. 韓国人の宗教生活 6. 1～5のまとめと発表 7. 韓国の民主化 8. 韓国の教育熱 9. 変化している韓国の家族 10. 7～9のまとめと発表 11. 韓国映画の現在と未来 12. 韓国人の余暇文化 13. スポーツと応援文化 14. 11～13のまとめと発表

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。
テキスト	毎回適切な資料を配布します
参考文献	梁他『外国人のための韓国文化 30 講』、パックイジョン
評価方法	翻訳 30%、レジュメの提出および発表 40%、書評 30%

13 年度以降	韓国特殊研究（専門講読）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では韓国の歴史や文化に関する韓国語の諸論考を多読することで、より専門的で実用的な韓国語の読解能力の向上と、それによる韓国の歴史・文化の理解を目指す。 そのため、現代社会と歴史・文化にかかわる論考を選んだ。様々なトピックに対して、前半はすこし易しめの論考を読み、後半はより専門的な論考を読むようにしていきたい。 講義は、論文の輪読と各自が事前に準備した論評をもとに進める。まず論考の読解を行って内容を確認し、次に論点について議論をしながらテーマに関する理解を深めていく。 最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス：韓国語の論考を読むにあたって 2. 現代史に関する論考①：南北分断の起源 3. 現代史に関する論考②：朝鮮戦争 4. 現代史に関する論考③：冷戦体制の確立 5. 歴史認識に関する論考①：東アジアにおける冷戦 6. 歴史認識に関する論考②：冷戦の生み出した歴史認識 7. 歴史認識に関する論考③：南北国時代論 8. 歴史認識に関する論考④：多様な歴史認識の登場 9. 東アジア社会に関する論考①：東アジア社会の変動 10. 東アジア社会に関する論考②：東アジア社会を見る眼 11. 東アジア社会に関する論考③：北朝鮮を見る視角 12. 東アジア社会に関する論考④：中国を見る視角 13. 東アジア社会に関する論考⑤：日本を見る視角 14. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	論文の多読・精読をするので必ず事前に準備をして講義に臨むこと。また授業後には議論した内容を整理しておくこと。
テキスト	授業の中で適宜紹介する。
参考文献	特になし
評価方法	授業に対する積極的参加度(20%)、発表(20%)、小レポート(20%)、期末レポート(40%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国メディア論）	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
韓国社会の変革を理解するにあたり、韓国の社会運動に対する理解は不可欠である。本講義は、韓国の様々な社会運動の姿を、新聞のみならず、映画・歌謡曲・写真・小説・日記・回顧録という様々なメディアを通じて多面的に理解することを目的とする。また、それらのメディアがどのようなパブリックメモリーを韓国社会の中で生み出し、人々の記憶と一体化しているのかについても学んでいく。 注意：本講義は討論形式で行うが、講読テキストには日本語及び韓国語の一次資料も用いるため、中級以上の韓国語能力が求められる。また、学生による発表スケジュールを初回時に決定するため、受講希望者は必ず１回目の授業から出席すること。	第1回：総合ガイダンス 第2回：メディアとは何か？（メディアと権力） 第3回：韓国の社会運動とメディア 第4回：新聞メディアと韓国の社会運動（1980年代以前） 第5回：新聞メディアと韓国の社会運動（1980－90年代） 第6回：映像メディアから見る韓国の社会運動 第7回：メディアが生み出す社会運動の記憶（写真・映像） 第8回：メディアが生み出す社会運動の記憶（回顧録） 第9回：メディアが生み出す社会運動の記憶（日記・小説） 第10回：カウンタームーブメントとしてのメディア 第11回：日本のメディアと社会運動 第12回：映像メディアから見る日本の社会運動 第13回：日韓の社会運動比較 第14回：まとめ及びフィードバック

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回配布する課題テキストを読了するとともに、講義中の質問及びアクションペーパー作成の準備してくること。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	岡崎利明『民主化の風』（創森出版、1992 年）
評価方法	授業に対する積極的参加度・毎回のリアクションペーパー(30%)，　期末レポート(70%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の芸術と文化 a）	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国における芸術(とくに造形)の変遷と展開を概観することで韓国の文化を理解することを目的とするとするものである。時代としては、前近代、つまり三国時代から朝鮮時代までを対象とし、各時代の造形を分野ごとに概観する。 基本的に講義形式の授業であるが、毎回の授業でコメントペーパー(授業終了時に提示する作品図版に関する短作文)の提出が必要となる。また現地調査課題(美術館博物館見学)にもとづくレポートを通して、実体験を伴った知識の習得を図る。 ※本講義は、韓国語能力を問わない。 ※秋学期の「韓国の芸術と文化b」は近現代を扱うが、それぞれ独立した講義であり、単独での履修でも内容の理解には差し支えない。	1. ガイダンス 2. 三国時代 ①（壁画） 3. 三国時代 ②（彫刻、瓦） 4. 統一新羅時代（彫刻、金属工芸、瓦） 5. 高麗時代 ①（螺鈿、金属工芸） 6. 高麗時代 ②（陶磁器） 7. 高麗時代 ③（彫刻、絵画） 8. 中間まとめ 9. 朝鮮時代 ①（彫刻、絵画） 10. 朝鮮時代 ②（絵画） 11. 朝鮮時代 ③（螺鈿、金属工芸、木工芸、服飾） 12. 朝鮮時代 ④（陶磁器） 13. 近現代の造形文化概観 14. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布するプリントを事前に読んでおく。また現地調査課題(美術館博物館見学)にもとづくレポートを通して、授業で学んだ内容を実体験とともに復習する。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	『世界美術大全集』東洋編 第 10 巻(高句麗・百済・新羅・高麗)・第 11 巻(朝鮮王朝), (小学館, 1998-99).
評価方法	コメントペーパー60%、レポート(現地調査課題)40%

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の芸術と文化 b）	担当者	田代　裕一朗

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国における芸術(とくに造形)の変遷と展開を概観することで韓国の文化を理解することを目的とするとするものである。時代としては、近現代を対象とし、社会的状況の変化と対応させながら時系列順にその変遷と展開を追う。 基本的に講義形式の授業であるが、毎回の授業でコメントペーパー(授業終了時に提示する作品図版に関する短作文)の提出が必要となる。また現地調査課題(美術館博物館見学)にもとづくレポートを通して、実体験を伴った知識の習得を図る。 ※本講義は、韓国語能力を問わない。 ※春学期の「韓国の芸術と文化a」は前近代を扱うが、それぞれ独立した講義であり、単独での履修でも内容の理解には差し支えない。	1. ガイダンス 2. 前近代の造形文化概観(三国時代～高麗時代) 3. 前近代の造形文化概観(朝鮮時代) 4. 日韓併合前後の東洋画、「西洋画家」の誕生 5. 朝鮮美術展覧会と「郷土色」 6. アカデミズムの形成と抽象画の受容 7. 日本人の韓国古美術愛好 8. 中間まとめ 9. 国展の創立と朝鮮戦争 10. 反国展とモダニズム 11. 軍事政権下の造形活動、民衆美術 12. 1990年代以降の動向 13. 北朝鮮の造形文化概観 14. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に配布するプリントを事前に読んでおく。また現地調査課題(美術館博物館見学)にもとづくレポートを通して、授業で学んだ内容を実体験とともに復習する。
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献	金英那(著), 神林恒道(訳), 『韓国近代美術の百年』, (三元社, 2011).
評価方法	コメントペーパー60%、レポート(現地調査課題)40%

13 年度以降	日本研究概論 I	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
人生儀礼 人の一生には節目ごとに様々な儀礼がおこなわれます。これを「人生儀礼」とか「通過儀礼」と呼び、属する集団での身分の変化や新しい役割の獲得が行われます。 本講義では、人が生まれて成長する過程で迎えるいくつかの儀礼（生誕、成人、婚姻、葬送など）を取り上げ、これを通史的に学習することで、日本文化における様々な伝統行事の成立や展開、そして人生儀礼の意義について理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―人生儀礼とは― 2　生活習俗―衣― 3　生活習俗―食・原始から奈良時代まで― 4　生活習俗―食・平安時代から江戸時代まで― 5　生活習俗―住― 6　人生儀礼―生誕・子授けから出産まで― 7　人生儀礼―生誕・食い初めから初誕生まで― 8　人生儀礼―成人・成年の条件― 9　人生儀礼―成人・成年式の歴史― 10　人生儀礼―婚姻・妻問婚の歴史― 11　人生儀礼―婚姻・嫁取婚の歴史― 12　人生儀礼―葬送・葬送の歴史― 13　人生儀礼―葬送・霊魂の行方― 14　まとめ

到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布されるプリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本研究概論 II	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
日本語や社会・文化について、日本研究の礎となる視点を提供し、日本について考える力を涵養するのがこの講義の目的である。 （1）日本語とはどんな言語だろうか。世界言語の中で日本語の特徴をとらえることを試みる。 （2）日本語の表現の特徴で、特に敬語を取り上げ、社会と言語の関係について考察する。 （3）文化という語もよく使われるが、その基本的定義をふりかえり文化に根ざす問題について考察する。 日本文化についても、文楽や文化論等から考察を行なう。 授業は講義形式で行う。	1. 講義の概要 2. 日本語論(1) 世界の中の日本語、日本語の文字と語彙 3. 日本語論(2) オノマトペ、役割語 4. 日本語論(3) 主語の省略、主題と主語 5. 日本語論(4) 有題文と無題文 6. 日本語論(5) 受動文 7. 日本語論(6) 時間の表現 8. ことばと社会(1) 日本社会と敬語 9. ことばと社会(2) ポライトネス 10. ことばと社会(3) 配慮表現 11. 文化をめぐって(1) 文化の定義、価値・倫理 12. 文化をめぐって(2) 文楽に見る忠義 13. 文化をめぐって(3)『武士道』を読む 14. 講義のまとめ

到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容で興味を持った点を自分で深めたり、調べたりすること
テキスト	授業時に資料を配布する
参考文献	特になし
評価方法	学期末に試験かレポート 100%

13 年度以降	日本文学論・古代 I	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①神話とは何かを説明できる。 ②世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。	1. 神話とは何か 2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3. 日本人遙かな旅 4. 同時発生説・伝播説 5. エリアーデの神話論 6. バルトの神話作用 7. ヤマタノオロチ退治神話の意味 8. 日本神話とももののけ姫 9. アシタカの神殺し 10. エボシのタタラ場の近代性 11. 前近代と近代の労働観 12. エボシの神殺しと近代合理主義 13. ギルガメシュ叙事詩とももののけ姫 14. ももののけ姫と環境思想

到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト	なし。プリントを配布する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

13 年度以降	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ①原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ②主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。	1. 原質神話とは何か 2. 根の国訪問神話 3. 主人公の特徴 4. 魔女の宅急便と原質神話 5. 在原業平の犯した二つの罪 6. 業平像の変容 7. 源氏物語第一部のあらすじ 8. 須磨・明石の巻と原質神話 9. 桐壺帝と父親との対決 10. 千尋の越境性・非対称性 11. 援助者としてのハク・カオナシ 12. カオナシと貨幣 13. カオナシと移行対象 14. ヒーローとヒロインの飛翔

到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る
テキスト	なし。プリントを配布する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

13 年度以降	日本文学論・中世Ⅰ	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
古今集の世界―中世和歌史と古今伝授― 我が国の勅撰和歌集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されていきます。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―勅撰和歌集とは― 2　『古今和歌集』仮名序の世界―「仮名序」を読む― 3　『古今和歌集』の注釈―『俊頼髄脳』― 4　『古今和歌集』の注釈―『奥義抄』― 5　『古今和歌集』の注釈―『古今集注』― 6　六条藤家の登場―柿本人麿影供― 7　御子左家の登場―藤原俊成・『古来風体抄』― 8　御子左家の登場―藤原定家・『顕注密勘』― 9　御子左家の分裂―二条家・『六巻抄』― 10　二条家の流れ―頓阿・『頓阿序注』― 11　反御子左家の誕生―為顕流・『古今和歌集聞書三流抄』 12　為顕流からの展開―謡曲への影響― 13　古今伝授の世界―御所伝授・地下伝授― 14　まとめ

到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート７０％、課題を含めた授業への参加度３０％。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本文学論・近現代 I	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その恐怖の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に恐怖がどのように描かれ、また現代人にとっての恐怖とは何かを探る。現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 春学期は、「恐怖」にスポットを当て、恐怖を扱った作品から日本人の恐怖の構造理解まで進む。	1. 恐怖の現代文学のアウトライン 2. 伝統的手法による恐怖の造形①、荒俣宏「帝都物語」 3. 伝統的手法による恐怖の造形②、京極夏彦「魍魎の匣」 4. ③坂東眞砂子「死国」 5. 超自然的事象からの造形、「二重螺旋の悪魔」 6. 鈴木光司「リング」 7. 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8. 心理学的な題材からの造形①サイコパス 9. ②、貴志祐介「黒い家」 10. ③、桐野夏生「OUT」 11. 社会派ミステリーの造形①、宮部みゆき「模倣犯」 12. ②、東野圭吾「容疑者Xの献身」 13. 原作を映像で見る① 14. まとめ（総集編）

到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前準備として、読書経験の中から恐怖を味わった作品を思い起こし、恐怖がどのような構造によるものかを事後に検証する。
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	授業時レポート 20%　定期試験レポート 80%

13 年度以降	日本文学論・近現代Ⅱ	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
人間の感情で最も大きなものは、恐怖と快感である。本講義では、その快感＝癒やし（やさしさ）の観念にスポットを当て、日本の伝統の中に癒やし（やさしさ）が、現代人にとって何かを探る現代日本文学におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるかを考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮までブックレビュー的に幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わう。 秋学期は、「癒やし」にスポットを当て、やさしさを扱った作品から日本人の恐怖の構造理解まで進む。	1. ガイダンス 2. 人間関係からの癒し①家族関係　重松清「ビタミンF」ほか 3. ②友人関係恩田陸「夜のピクニック」佐藤多佳子「一瞬の風になれ」ほか 4. 人間関係からの癒し③恋人関係　村上春樹「ノルウェイの森」 5. 時間からの救い①浅田次郎「地下鉄に乗って」②北村薫「スキップ」 6. 筒井康隆「時をかける少女」 7. 佐藤正午「Y」 8. 笑いの持つ癒やし①奥田英朗「インザプール」 9. ②佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 10. 美しい生き方から見る癒やし①藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11. ②有川浩「阪急電車」 12. ③天童荒太「悼む人」 13. 原作を映像で見る① 14. まとめ（総集編）

到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、癒やしの構造を整理して、まとめておく。
テキスト	その都度紹介する
参考文献	その都度紹介する
評価方法	授業時レポート 20%　定期試験レポート 80%

13 年度以降	民俗学	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
民俗学は柳田國男が体系化し、庶民が何を考え、どのような生活を送ってきたのかを「伝承」から問う学問として発展してきました。そのため民俗学は「伝承」とは何かをも問う学問でもあります。明治以降、生活様式や観念は大きく変化しました。この変化は現在にまで続いています。民俗学は決して「過去」を掘り起こすだけの学問ではありません。現在の学問です。 民俗学の研究対象は多岐にわたります。2018年に「来訪神」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。本講座では民俗学の概説的、「他界」「妖怪」「神」「祭り」など目に見える非日常の形と観念とその変化、「昔話」「伝説」など語られてきた物語の背景について考えていきたいと思います。「伝承」は変化すること、「伝統」の問題を念頭に置きつつ、「現在」の様相をも視野にいれ、「今」を考えていきたいと思います。	1、ガイダンス 2、民俗学とは何か 3、国学と民俗学 4、日本の信仰 5、国家神道 6、異界の存在―妖怪・幽霊とは何か― 7、異界の存在―『東海道四谷怪談』― 8、昔話とその背景―桃太郎はなぜ英雄か― 9、昔話とその背景―浦島太郎は何者か― 10、災害伝承と伝説 11、年中行事―正月とは何か― 12、年中行事―盆とは何か― 13、現代の年中行事 14、人の一生（人生儀礼）

到達目標	今日に至るまで民間伝承されてきた文化の発展模様について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験 100%、授業への参加度を加味する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度	日本史概論 I	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができます。こうした研究状況をふまえ、古代・中世に焦点をあて、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきます。 極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいてください。	1. 講義の導入―歴史学の特徴 2. 歴史学の目的・作法 3. 卑弥呼と邪馬台国 4. 倭の五王の時代 5. 継体天皇の登場 6. 大化改新 7. 天智天皇と天武天皇 8. 平城京の時代 9. 平安京の時代と院政 10. 源平の争乱と鎌倉幕府 11. 鎌倉幕府と蒙古襲来 12. 室町幕府の成立 13. 室町幕府の衰退と戦国大名 14. レポートの振り返り

到達目標	日本列島に展開した歴史を通史的に、各時代に応じた研究の方法と視点を用いて具体的な事象として捉え、かつ有機的・連続的に解説することができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

19 年度	日本史概論 II	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
日本史概論 I に続くこの講義では、近世から近現代を素材とします。その際、対外関係に重点をおいて考察しますが、その前提となる政治や社会経済についても触れることになります。この講義を通じて、近世社会を経て近・現代日本における国民国家形成の過程とその展開について考えていきます。	1. 講義の導入―歴史学とは何か 2. 織豊政権と江戸幕府の成立 3. 江戸時代初期の政治と外交 4. 幕藩社会とその構造 5. 幕政の安定と経済の発展 6. 幕政の改革 7. 幕府の衰退と近代化への道 8. 開国と幕末の動乱 9. 明治維新と富国強兵 10. 立憲国家の成立 11. 日清・日露戦争と国際関係 12. ワシントン体制と軍部の台頭 13. 第2次世界大戦 14. レポートの振り返り

到達目標	日本列島に展開した歴史を通史的に、各時代に応じた研究の方法と視点を用いて具体的な事象として捉え、かつ有機的・連続的に解説することができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 a）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の芸能 奈良時代に渡来した伎楽、雅楽、散楽の内、「舞」や「滑稽な物真似」、「対話」といったいくつかの要素が特徴的に発展、形成されて中世の能や狂言となりました。 本講義では、古代の芸能としての伎楽、雅楽、散楽から猿楽を経て、能や狂言が分化していく我が国の芸能史を様々な文献からたどり、さらには、演じられる物語のベースになる文献を解読し、理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―芸能とは― 2　伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・伎楽― 3　伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・雅楽と散楽― 4　伎楽・雅楽・散楽―伎楽の芸態― 5　伎楽・雅楽・散楽―雅楽の芸態― 6　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』の概説― 7　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』の講読― 8　大和・近江四座の成立とその展開 9　古典との融合―三輪― 10　古典との融合―井筒― 11　古典との融合―俊寛― 12　民衆と芸能―歌舞伎の歴史― 13　民衆と芸能―忠臣蔵― 14　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への参加度３０％。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 d）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
くずし字で読む「百人一首」 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授されたりしていましたが、近世期に入って、北村季吟や契沖、賀茂真淵など、様々な人々が注釈書を記しました。 江戸時代中期ごろから、特に女子の古典入門書として取り上げられ、古典教材の他に、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を、歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ぶことを目的とします。	1　ガイダンス―『百人一首』の成立― 2　天智天皇①―私の袖は露に濡れたよ― 3　天智天皇②―天智天皇のエピソード― 4　持統天皇①―香久山に夏が来た― 5　持統天皇②―持統天皇のエピソード― 6　柿本人麿①―長き夜を独りで寝るか― 7　柿本人麿②―柿本人麿のエピソード― 8　山部赤人―富士の高嶺に雪が降っている― 9　中納言家持―カササギの橋に霜が置くよ― 10　安部仲麿―三笠の山に月が― 11　喜撰法師―宇治山の庵に住む― 12　小野小町①―花の色は移ろうもの― 13　小野小町②―小野小町のエピソード― 14　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。
テキスト	『くずし字で読む「百人一首一夕話」』武蔵野書院，2018 年
参考文献	児玉幸多編『くずし字解読辞典』東京堂出版
評価方法	試験６０％、課題も含めた授業への参加度４０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 c）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさや雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。	1　ガイダンス―パワースポット「富士山」― 2　富士に抱く思い―『万葉集』『古今和歌集』 3　富士山の伝説―『富士山記』― 4　富士山の伝説―『更級日記』他― 5　富士山の伝説―『竹取物語』 6　伝説のクライマー―『日本霊異記』― 7　伝説のクライマー―『聖徳太子伝暦』― 8　富士山の神―『人穴草子』― 9　富士山の神―『富士山縁起』― 10　もう一つのかぐや姫伝説―『皇国地誌』― 11　富士信仰の歴史と伝承―古代から中世― 12　富士信仰の歴史と伝承―中世から近世― 13　富士信仰の歴史と伝承―近世― 14　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への取り組み３０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 e）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
本居宣長の世界 本居宣長は伊勢・松阪に生まれた江戸時代の国学者です。国学者とは、日本の古典を研究対象とし、日本固有の「道」を明らかにしようとした人々を指しています。宣長の残した古事記の注釈書である『古事記伝』や源氏物語の注釈書である『紫文要領』などは現代でも重要視されている文献です。 本講義では、宣長の師である賀茂真淵のものをはじめ、本居宣長が残した随筆や注釈書から宣長の言葉に表されている「思想」をいくつかのキーワードとして取り上げ、研究者として、また、教育者として活躍した「宣長の思想」を理解し、「生きるとは」「学ぶとは」といったことを考えることを講義の目的とします。	1　ガイダンス―本居宣長とは― 2　生きる力―『排蘆小船』をよむ・歌を詠もう－ 3　生きる力―『排蘆小船』をよむ・「歌の徳」とは－ 4　物学び―『玉勝間』をよむ・学問のはじまり― 5　物学び―『玉勝間』をよむ・「古」を考えること― 6　物学び―『玉勝間』をよむ・既成概念の打破― 7　物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・「古」の志向― 8　物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・和歌の意義― 9　「心」と「詞」―『石上私淑言』概説― 10　「心」と「詞」―『石上私淑言』もののあはれの論― 11　「心」と「事」と「詞」―『うひ山ふみ』概説― 12　「心」と「事」と「詞」―学問をはじめる人は― 13　「心」と「事」と「詞」―書の読み方― 14　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布されるプリントに提示された課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 b）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 ○講義概要:現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを実施し、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1.　オリエンテーション・導入 2.　概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3.　道標・講中碑を読む 4.　墓碑銘・供養碑、記念碑を読む 5.　日本漢文体の読解、梵字の読解 6.　フィールドワーク、千住宿 7.　フィールドワーク、梅島 8.　フィールドワーク、竹の塚 9.　フィールドワーク、谷塚 10.　フィールドワーク、草加 11.　学生諸君の報告と検討①道標 12.　学生諸君の報告と検討②講中碑 13.　学生諸君の報告と検討③墓碑・供養碑 14.　学生諸君の報告と検討④記念碑

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：身辺の石碑に注意を払っておくこと。 事後：調査報告書の内容の充実に努めること。
テキスト	特になし
参考文献	授業中に示す
評価方法	フィールドワーク参加 10%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 50%。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 a）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：民俗芸能・行事を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 ○講義概要:日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。 そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。 具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。	1.　オリエンテーション・導入 2.　日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3.　神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4.　神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5.　異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6.　異人の出現と芸能②…異類の代表、獅子 7.　異人の出現と芸能③…岩手県の鹿踊 8.　稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 9.　稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 10.　稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 11.　年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 12.　年齢階梯と芸能②…栃木県栗山町の若衆組 13.　年齢階梯と芸能③…福島県二本松市の成人儀礼 14.　まとめ…境界領域の時空

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。
テキスト	特になし
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 b）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
和本リテラシー―写本から版本へ― 我が国における文学研究は「訓む」「写す」「使う」「解く」のおよそ４つのキーワードによってその歴史を紡いできました。「和本リテラシー」とは、「和本」に特化した理解力を示しています。 本講義では、現存最古の歌集である『万葉集』をテーマに取り上げ、この作品を各時代の人々がどのように訓み、写し、使い、解いてきたかを文化史的に理解することを講義の目的とします。また、実際に和本に触れたり、これを作ってみたりもします。	1　ガイダンス―『万葉集』あれこれ― 2　訓む―梨壺の五人の奮闘― 3　訓む―道長も訓んだ『万葉集』― 4　写す―『万葉集』の写本あれこれ― 5　使う―藤原敦隆の試み― 6　使う―歌聖の創始・「人麿影供」― 7　使う―印刷の歴史 8　解く―仙覚律師の奮闘― 9　解く―北村季吟『万葉拾穂抄』― 10　解く―契沖『万葉代匠記』― 11　解く―賀茂真淵『万葉考』― 12　解く―本居宣長『万葉集玉の小琴』 13　和本を作る 14　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後の学習として、配布プリントに提示される課題に取り組んでください。
テキスト	城﨑陽子『万葉集を訓んだ人々―「万葉文化学」のこころみ―』2010 年、新典社
参考文献	参考文献は授業時間内に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への参加度３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 c）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では「地域文化」を学びます。方言や雑煮など「地域」ごとに生活文化に異なりが見られます。地域差と言われるものです。しかし、「地域文化」には、直接に生活構造で結びついたミクロ的「地域文化」と、類似文化の広がりから捉えられるマクロ的「地域文化」があり、また、他所から見た地域認識も「地域文化」を背景とするもので、必ずしも「地域文化」が担い手だけのものではないことがわかります。本講座では文化の差異だけではなく、「地名」や「祭り」を中心に地域文化のあり方とその変化を捉えていきたいと思います。とくに「変化」に関しては過疎地と都市部で旧来から行われてきた祭りの現状をふまえ、その方向性や背景を考えます。さらにボーダレスとなっている今日における「郷土」意識など、現代的な問題として考えていきたいと思います。地方創生が叫ばれている現在、地域文化を考えることは重要ではないでしょうか。	1、ガイダンス 2、文化としての「地名」 3、「地域文化」とは何か 4、広義の「地域」と狭義の「地域」における文化 5、結の実際（白川郷の屋根葺き） 6、地域認識と社会概念 7、地域文化としての祭り―祭りによる地域文化形成― 8、地域文化としての祭り―祭りと地域認識の問題― 9、地域文化の重層性 10、伝統的祭りの方向性―過疎地域― 11、伝統的祭りの方向性―都市部― 12、フォークロリズム 13、新興の祭りと地域文化 14、ボーダレス社会と地域文化

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読し、自分の住む「地域」の現在を学び、さらにこれからを考えつつ授業を受けてください。
テキスト	プリントを配布します
参考文献	授業中に紹介
評価方法	期試験 100%。授業への参加度を加味する。

13 年度以降	日本文学論・中世Ⅱ	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を考えることで現代日本文化の淵源を探る。 ○講義概要：鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言っても過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期は「浦島太郎」を講読し、考える。皆よく知っている昔話だが、実は元の形はかなり違っている部分もある。さらに古代から現代まで様々に変化して語り継がれてきた。それでも各時代に共通している世界観が存在している。 現代生活の中にも潜む「境界領域」観を明らかにしながら物語を楽しんでいく。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（日本の「お話」の歴史） 3. 概説②（「お伽草子」とは何か？） 4. 「浦島太郎」を読む…発端と展開 5. 「浦島太郎」を読む…異人の出現と異世界への旅立ち 6. 「浦島太郎」を読む…異世界の理想郷性 7. 「浦島太郎」を読む…異世界の時間と空間 8. 「浦島太郎」を読む…異世界と現実世界の時間と空間 9. 「浦島太郎」を読む…結末「玉手箱」の意味 10. 「浦島太郎」を読む…古代の「浦島太郎」日本書紀他 11. 「浦島太郎」を読む…古代の「浦島太郎」万葉集他 12. 「浦島太郎」を読む…現代の「浦島太郎」国定教科書 13. 「浦島太郎」を読む…現代の「浦島太郎」絵本 14. まとめ…「浦島太郎と」と境界領域

到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。 事後学修：講義の重点を確認しておくこと。
テキスト	授業時にプリントを配布する。
参考文献	授業中に一覧をプリントして配布する。
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績（100%）による。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 d）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的：日本文化全般に潜む「境界領域」の問題を、様々な視点から考える。 ○講義概要：概説では、耳慣れない概念であろう「境界領域」の存在を明らかにしていく。 第４回以降は「祭り」「物語」「歌謡」等の表現分野において「境界領域観」が、どのように発揮されているか、諸相を見ていく。そして、境界領域の認識が作り上げる世間（人間関係）観・世界観と周辺諸国の文化のそれとの違いを明確にしていく。 文化とは目に見える物の世界だけではなく、目に見えない価値観・世界観・振る舞いまで含むのである。人と人との関わりの中で、どこにどのように目に見えない「境界線」を引いて、どのように物事を考えているのか、ということまでも明らかにしていく。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①…境界領域とは何か？ 3. 概説②…国境・境界・境界領域 4. 祭りと境界領域①…八重山・竹富島のユーンカイ 5. 祭りと境界領域②…本土の様々な祭り 6. 祭りと境界領域③…境界領域の多重構造 7. 「異界」「異人」と境界領域①…異人の出現する場所 8. 「異界」「異人」と境界領域②…異人の出現する時空 9. 物語と境界領域…西欧の物語と日本の物語 10. 演劇と境界領域…西欧の芝居と日本の芝居 11. 歌謡と境界領域…西欧の歌謡と日本の歌謡 12. アニメーションと境界領域…西欧と日本の比較 13. 「世界」「世間」の構造と境界領域…人間関係の比較 14. まとめ…世界観としての境界領域の構造

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：参考文献の該当部分を読んでくること。 事後学修：身近に潜む「境界領域」を考えること。
テキスト	授業中に適宜示す
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	授業期間中数回課す予定の課題（50%）とレポートまたは試験の成果（50%）による。

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 a）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は、太平洋戦争と呼ばれアメリカの強大な軍事力で日本が大きな被害を受けながら敗北した戦争ととらえられがちだが、事実に照らして見直したい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続き、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高では原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるが、映像をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。今、中国や韓国と「対立」がつくられている。だからこそ、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 なお、秋学期と連動させており、できればあわせて受講して欲しい。	1　1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941年12月8日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　15年戦争の開始―満州事変から日中戦争へ 6　加害の問題①―731部隊とは何か 7　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 8　対米英戦争下の中国―「尽滅掃討」作戦 9　日本軍隊の特徴をみる 10　戦時下の社会―戦争への動員・女性と戦争他 11　日本の戦争と植民地朝鮮 12　敗戦をめぐって①―本土決戦体制の構築と沖縄 13　敗戦をめぐって②―ポツダム宣言とその受諾 14　「15年戦争」を振り返る

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に吉田裕『日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の現実』（中公新書）通読、事後はプリント見直しを
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	上記のほかは、講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 b）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後70年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。その背景には、占領そして講和や賠償問題等を通してアメリカの強い関わりがある。トランプ政権が誕生し日米関係見直しが必至となる今、この歩みを知ることは重要である。沖縄のことを日本の問題としてしっかり考えたい。 中国や韓国などでは、この2、30年間で民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、同時に日本とも民衆同士の交流が進んできた。戦後補償や戦争認識をめぐる問題は、やっとそれを民衆が論議できるようになったと捉えたい。きちんと論議できる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011年の3･11を経て、原発がどのように導入されどのような問題を持つかを学ぶこともあらためて欠かせないことになった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　「15年戦争」の終わり方と天皇制 2　民主化・日本国憲法・象徴天皇制 3　東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4　朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5　日本の国内での補償とアジアへの補償 6　日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 7　日中国交回復を考える 8　「戦後」の沖縄の歩み 9　ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 10　米軍基地問題と日本の安全保障を考える 11　原発をめぐって①―「ビキニ被曝」と原子力平和利用 12　原発をめぐって②―3.11から何を学ぶか 13　戦後50年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識 14　「戦後70年」を超えて

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ぜひ毎日、新聞に目を通すことを勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 c）	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、日本の古代社会を取り上げます。高校の教科書程度の知識をもとに、日本古代における家族と女性、都市、生産・流通、交通。歴史認識等を取り上げ，日本の古代社会を多面的に考察し，それらの因果関係や相関関係を考えます。	1. 講義の導入―日本古代史とは 2. 日本古代の史料(1)公的記録 3. 日本古代の史料(2)私的記録 4. 8世紀の社会と生活(1)律令制 5. 8世紀の社会と生活(2)民衆 6. 古代の家族と女性 7. 古代の都市と生活 8. 古代の生産と流通 9. 古代の「移動」 10. 氏族系譜と歴史認識 11. 古代の帰化人・渡来人 12. 古代の女帝 13. 神話・伝承と歴史認識 14. 古代日本人のライフサイクル

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に紹介する参考文献を読んでおくこと。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 d）	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、古代から近世の対外関係を取り上げます。高校の教科書程度の知識をもとに、前近代の対外関係史を軸として、諸外国と日本の関係性を多面的に考察します。 軸となる概論を行ったあと、当該時期の注目すべきテーマを各論として設定し、対外関係をマクロな視点とミクロな視点の両方から捉えることで、その具体像を考察します。	1. 講義の導入―対外関係史とは 2. 東アジア世界の成立_概論(1) 3. 東アジア世界論_各論(1) 4. 文字の伝来と渡来人_各論(2) 5. 律令国家と東アジア_概論(2) 6. 隋唐と日本_各論(3) 7. 古代の国際交易_各論(4) 8. 通交・通商圏の拡大_概論(3) 9. 東シナ海の宋海商_各論(5) 10. 海を渡った文物_各論(6) 11. 倭寇と「日本国王」_概論(4) 12. 蒙古襲来と異文化接触_各論(7) 13. 近世的世界の成立と成熟_概論(5) 14. 近世の対外関係とジェンダー_各論(8)

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に紹介する参考文献を読んでおくこと。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

（春） 13 年度以降	言語学概論	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。	第1回：話し言葉と書き言葉 ～言葉は約束事：言語学の研究対象、記号論，ローマ字表記…英文法の基礎となる言語産出モードの質的差異について学ぶ。 第2回：動物の言語と人間の言語 ～チンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション…英文法理解及び産出の基礎となる人間言語の特性を二重分節などのキーワードを用いて学ぶ。 第3回：言語と脳 ～失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学…英文法及び英語音声の産出能力に関わる失語症を中心とした研究に言及する。 第4回：子供の言葉の発達 ～どのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例とする第2言語習得の理論の背景を学ぶ。 第5回：外国語の上達 ～どのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例として学ぶ。 第6回：音と音声（1）～カテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論…英語音声を中心的な例として学ぶ。 第7回：音と音声（2）～音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学…英語音声を中心的な例として学ぶ。 第8回：統語論 ～「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法、その他の文法…英文法を中心的な例として学ぶ。 第9回：形と意味 ～発話に意味を込める：形態論、意味論、語用論…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。 第10回：会話の原則 ～言葉の適切な使い方：談話分析…広義の英文法を中心的な例として学ぶ。 第11回：言語と社会 ～言葉の多様性と普遍性：社会言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第12回：世界の言語とその系統 ～言語の系統と分類：歴史言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第13回：言語の進化 ～言語と人類の発達：言語考古学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ。 第14回：まとめ…英文法・英語音声・英語の歴史的発達などを含む言語学全般に関連する基礎知識を総括する。

到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析・心理言語学・社会言語学・動物の言語使用・数理言語学・応用言語学といった言語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	現代言語学 20 章（G. ユール著、今井邦彦・中島平三訳、大修館）
参考文献	The Cambridge Encyclopedia of Language (David Crysta 著、 Cambridge University Press) 言語学百科事典（D. クリスタル著、風間喜代三・長谷川欣佑訳、大修館） 言語学が好きになる本（町田健著、研究社出版）
評価方法	定期試験（100％）

（秋） 13 年度以降	英語学概論	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。上記各テーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う．テーマによっては視聴覚資料を補助的に用いる。	第１回：英語の文法理論（6 章） 第２回：音声学（1）：調音音声学（7 章） 第３回：音声学（2）：音響音声学・聴覚音声学（7 章） 第４回：音韻論（1）：分節音韻論（8 章） 第５回：音韻論（2）：超分節音韻論（8 章） 第６回：形態論・語形成（9 章）…語彙及び構成単位の文法規則 第７回：統語論（1）：構造主義の統語分析（10 章） 第８回：統語論（2）：生成文法の統語分析（10 章） 第９回：意味論・語用論（11 章）…意味及び語法の文法規則 第１０回：談話分析…談話の文法規則 第１１回：英語史（1）：古英語・中英語（4 章） 第１２回：英語史（2）：近代英語（5 章） 第１３回：英語史（3）：現代英語（5 章）・英語の多様性（12 章） 第１４回：英語の対照言語学的研究（15章）…特に日英及び英欧の音韻・文法比較

到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論・談話分析・英語史・英語の社会的変異・英語の権力構造といった英語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	英語学パースペクティブ（龍城正明編、南雲堂）
参考文献	The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. （David Crystal 著、Cambridge University Press） 他
評価方法	定期試験（８０％）、授業中の課題（２０％）

13 年度以降	日本語教育概論	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。この講義は日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。なお、日本語教員養成プログラムを履修する学生にとっては、日本語教授法Ⅰの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える	1.講義の概要、日本語教育の一例を紹介 2.日本語教育とは何か(1)　日本語教育と国語教育の違い 3.日本語教育とは何か(2)　日本語教育の歴史 4.日本語教育とは何か(3)　日本語教育の現状 5.日本語教育とは何か(4)　コミュニケーション教育 6.日本語のしくみと指導のポイント(1)　誤用例 7.日本語のしくみと指導のポイント(2)　誤用添削 8.外国語教授法の歴史 9.外国語教授法の紹介(1)　オーディオリンガルメソッド 10.外国語教授法の紹介(2)　その他の教授法 11.異文化接触と日本語教育 12.言語教育と言語学習観 13.教師の役割と教室活動 14.講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。

到達目標	日本語を学習対象言語として捉えたうえで、日本語教育の基本的な内容、および日本語教育の歴史と現状について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に出される課題について事前に調べておいてください。 配布した資料を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007）＊その他は授業中に適宜紹介
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	応用言語学 I	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学の領域の中でも主に第二言語・外国語習得諸理論およびそれらの理論が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。また、4 技能の領域においてどのような研究がされ、外国語教育に何を示唆しているか考える。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 回：概要：応用言語学とは 第 2 回：習得のメカニズム 第 3 回：モニターモデル 第 4 回：インタラクション仮説、アウトプット仮説 第 5 回：学習者言語：中間言語、習得順序 第 6 回：言語能力(BICS, CALP, DLS)、認知要求度と場面依存度 第 7 回：教室での言語習得 第 8 回：４技能の習得：リーディングと他技能との関係 第 9 回：４技能の習得：リスニングと他技能との関係 第 10 回：口頭発表 1:インプットと他技能との関係 第 11 回：４技能の習得：スピーキングと他技能との関係 第 12 回：４技能の習得：ライティングと他技能との関係 第 13 回：口頭発表 2：アウトプットと他技能との関係 第 14 回：バイリンガル教育

到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	配布資料・論文等有り。
参考文献	Understanding SLA (Ortega)、英語教育学体系第 5 巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめなど諸課題（30%）、口頭発表（30%）、定期試験（40%）

13 年度以降	応用言語学Ⅱ	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを理解し、諸理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。特に個人要因に焦点をあてる。また、テーマごとに論文を読み、研究方法、問題点、展望などについて議論する。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 回：概要：環境要因・個人要因 第 2 回：環境要因、社会的動機づけ理論 第 3 回：適性、MI 第 4 回：不安 第 5 回：動機づけの諸理論（自己決定理論等） 第 6 回：動機づけと言語習得 第 7 回：学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 第 8 回：意欲、WTC 第 9 回：グループワーク：言語習得過程モデル 第 10 回：口頭発表 第 11 回：年齢：臨界期仮説、早期英語教育 第 12 回：スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 第 13 回：グループワーク：初中等教育における英語教育 第 14 回：口頭発表

到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	配布資料・論文等有り。
参考文献	英語教育学体系第 5 巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめ（50%）、グループワーク→口頭発表→まとめレポート（50%）

（春） 13 年度以降	英語圏の文学 I	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学作品を読みながら英語表現や文化を積極的に学ぶ。 英語で書かれた代表的な文学（主に小説、アメリカ文学）を通して、その作品における様々な英語表現が理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品、トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	第１回：イントロダクション　文学とは何か?/ アメリカ文学への招待 第２回：マーク・トウェインとその時代（南北戦争とミシシッピ） 第３回：マーク・トウェインの作品（*Adventures of Huckleberry Finn*）を読む 第４回：マーク・トウェインの英語表現 / 晩年のトウェイン 第５回：フィッツジェラルドとその時代（１９２０年代とアメリカンドリーム） 第６回：フィッツジェラルドの作品（*The Great Gatsby*）を読む 第７回：フィッツジェラルドの英語表現 / 短編小説と映画 第８回：トウェインとフィッツジェラルドの比較（伝記的事実とその影響） 第９回：ヘミングウェイとその時代（アメリカンドリーム以後のアメリカ） 第１０回：ヘミングウェイの作品（短編小説）を読む 第１１回：ヘミングウェイの英語表現とフィッツジェラルドの影響 第１２回：サリンジャーとその時代（第二次大戦以後のアメリカ） 第１３回：サリンジャーの作品（The Catcher in the Rye）を読む 第１４回：サリンジャーの英語表現 / 翻訳と村上春樹 / トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーの系譜（まとめ）

到達目標	英語で書かれた代表的な文学（主に小説）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになる。また、その国や地域の文化についても理解を深める。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	*The Great Gatsby*（F・スコット・フィッツジェラルド著），*Adventures of Huckleberry Finn*（マーク・トウィン著）など
評価方法	授業内課題（６０%）、レポートないしプレゼンテーション（４０%）

（秋） 13 年度以降	英語圏の文学Ⅱ	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学作品を読みながら英語表現や文化を積極的に学ぶ。 英語で書かれた代表的な文学（英米の小説、詩、演劇など）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的な文学作品、シェイクスピアやカズオ・イシグロなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	第１回：イントロダクション　文学とは何か？ 第２回：イギリスの小説（時代と文化、英語表現） 第３回：イギリスの詩（時代と文化、英語表現） 第４回：イギリスの演劇、映画（時代と文化、英語表現） 第５回：アメリカの小説（時代と文化、英語表現） 第６回：アメリカの詩（時代と文化、英語表現） 第７回：アメリカの演劇、映画（時代と文化、英語表現） 第８回：英米文学の特徴（まとめと中間報告） 第９回：カズオ・イシグロの世界（The Remains of the Day） 第１０回：カズオ・イシグロの世界（The Remains of the Day）と英語表現 第１１回：英米文学と日本（受容の歴史） 第１２回：英語で読まれる日本文学（翻訳と表現） 第１３回：英語で発信する日本文学（翻訳と英語表現） 第１４回：世界文学、英米以外の英語圏文学の作品と英語表現 / イギリス、アメリカ、日本、そして世界文学（まとめ）

到達目標	英語で書かれた代表的な文学（小説、詩、演劇など）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになる。また、その国や地域の文化についても理解を深める。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	*The Remains of the Day*（カズオ・イシグロ著），*Romeo & Juliet*（シェイクスピア著）など
評価方法	授業内課題（６０％）、レポートないしプレゼンテーション（４０％）

13 年度以降	英語圏の文学・文化・批評 I	担当者	末松　良道

講義目的、講義概要	授業計画
「英語圏の文学・文化・批評」の I と II では、イングランドにおける中世から第2次世界大戦後までの文学を、歴史的背景と共に概観する。アイルランドやウェールズ、スコットランドとの関係も念頭に置きながら、イングランドがどう移り変わっていったかを代表的な文学作品を通して考える。従って、出来れば通年での履修を奨めたい。 「英語圏の文学・文化・批評 I」では、イングランドという国の成立と中世英文学、そしてシェイクスピアやジョン・ミルトンなど、ルネサンスの文学までを扱う。授業は基本的に講義形式で進めるが、プリントを配布して、作品の抜粋や英詩などを英文で読んだり、演劇作品などは一部をビデオで鑑賞したりする。受講者は授業で紹介する作品を中心に、幾つかの作品を翻訳か、出来るならば原文で読んで、レポート執筆の準備も兼ねて、気づいたこと、感じたことなどをノートに取ることが求められる。	1. イントロダクション、古代のブリテン島 2. アーサー王伝説の始まり、アングロ・サクソン時代 3. 『ベーオウルフ』 4. バイキング来襲、アングロ・サクソン時代の文学 5. ノルマン人のイギリス征服、中世後半の歴史・社会 6. ジェフリー・チョーサーの経歴と主要作品の紹介 7. チョーサー『カンタベリー物語』(作品の解説) 8. この授業のためのレポートの書き方解説 9. 15世紀の歴史と社会、マロリー『アーサー王の死』 10. 16世紀の社会：宗教改革と英語訳聖書 11. 16世紀の社会：エリザベス女王、ルネサンスの劇場 12. シェイクスピアの経歴と作品 13. スチュアート朝、清教徒革命と共和制 14. 王政復古と名誉革命、ジョン・ミルトン『失楽園』

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳、または原文で、講義で言及する作品を出来るだけ多く読んで欲しい。
テキスト	必要な資料はプリントで配布する。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学史入門』(研究社、1986)、指昭博『図説イギリスの歴史』(河出書房新社、2002)
評価方法	定期試験 40%、レポート 40%、ホームワーク 20%（ホームワークの回数により配分を 5%程度変更することがあります。）

13 年度以降	英語圏の文学・文化・批評 II	担当者	末松　良道

講義目的、講義概要	授業計画
「英語圏の文学・文化・批評 II」では、イングランドにおける18世紀から第2次世界大戦後までの文学を、歴史的背景と共に概観する。大英帝国の安定、産業革命、2つの世界大戦などを経つつ、イングランドがどう移り変わっていったかを、それぞれの時代の代表的な文学作品を通して考える。授業は基本的に講義形式で進めるが、プリントを配布して、英詩などを原文で読む。また、小説や演劇の場合は映画化されたものを一部鑑賞する。受講者は授業で紹介する作品を中心に、幾つかの作品を翻訳か、出来るならば原文で読んで、レポート執筆の準備も兼ねて、気づいたこと、感じたことなどをノートに取ることが求められる。 秋学期だけの履修者も歓迎するが、イングランドの文学史を全体的に理解するために、通年での履修を奨めたい。	1. 18世紀の歴史と社会 2. 18世紀の文学（ポープ、デフォー、スウィフトなど） 3. 19世紀の歴史と社会、特に産業革命について 4. 19世紀の小説（ジェイン・オースティン） 5. 19世紀の小説（チャールズ・ディケンズ） 6. 19世紀の小説（ブロンテ姉妹） 7. 19世紀の小説（トマス・ハーディー） 8. この授業のためのレポートの書き方解説 9. ロマン派以降の詩（ワーズワース、テニスン他） 10. 第１次世界大戦前後の社会、福祉国家への歩み 11. 20世紀初期の文学（ロレンス、T. S. エリオット） 12. イギリス演劇の展開（バーナード・ショー） 13. 第2次世界大戦後の社会と文学（オーウェル） 14. 第2次世界大戦以降の小説（シリトー、オズボーン他）

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳、または原文で、講義で言及する作品を出来るだけ多く読んで欲しい。
テキスト	必要な資料はプリントで配布する。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学史入門』(研究社、1986)、指昭博『図説イギリスの歴史』(河出書房新社、2002)
評価方法	定期試験 40%、レポート 40%、ホームワーク 20%（ホームワークの回数により配分を 5%程度変更することがあります。）

13〜18 年度	国際語としての英語	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、多様な英語の存在を(再)認識し、「国際共通語としての英語（English as a Lingua Franca, ELF)」のあり方を考えることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。	第1回：概論：「英語」の神話・学習者ビリーフ 第2回：英語のディアスポラと３つの同心円（Kachru） 第3回：標準英語（Standard English)とは? 第4回：マスメディアにおける多様な英語 第5回：「内部圏」の英語の多様性 1（英、豪、アイルランド等） 第6回：「内部圏」の英語の多様性 2（米、カナダ等） 第7回：「外部圏」の英語の多様性（インド、フィリピン等） 第8回：「拡張圏」の英語の多様性（ヨーロッパ、北アジア諸国等） 第9回：日本英語コーパス　分析 第10回：日本英語コーパス　分析結果　ポスター発表 第11回：ネイティブ信仰 第12回：Jenkin's Lingua Franca Core、Seidlhofer's ELF 第13回：ELFのあり方　ディスカッション 第14回：ELFのあり方　ポスター発表（グループ）

到達目標	英語の多様性や英語帝国主義概念などを理解したうえで、日本がどのような英語を教授し、使用していけばいいのかなどといった問題を客観的かつ理論的に分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を読み、テーマごとに設定する課題をこなすこと。
テキスト	論文他の配布資料
参考文献	English in Japan in the Era of Globalization (Seargent), Teaching the Pronunciation of ELF (Walker)
評価方法	日本語英語コーパス(20%), ポスター発表およびまとめレポート(50%), その他課題(30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本語教授法Ⅰa	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 　日本語教育能力検定試験の出題範囲を概観し、これまでに学んだ各論の知識を整理します。また、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。授業は、講義とディスカッション、発表の形態で進めます。 【注意事項】 授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。	1.　オリエンテーション 2.　言語使用と社会 3.　言語習得 4.　異文化理解と心理 5.　外国語教授法 6.　音声学と音韻論 7.　学習者の発音 8.　日本語教育における音声指導 9.　日本語の文字・表記 10.　日本語の語彙、語彙形成、意味 11.　文字・語彙の指導 12.　文法 ー語、文 13.　文法・文型の指導 14.　コースデザインと評価

到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①課題の取り組み　３０％ ②期末試験　５０％ ③参加態度・貢献度　２０％

13 年度以降	日本語教授法Ⅰb	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　第二言語としての日本語を教えるために必要な、基礎的な知識と態度を身につけること。 【講義概要】 　この授業では、コースデザインの基礎や文法の指導、聞く・読む・話す・書くの技能別の指導について理解を深め、具体的な教室活動を考えることができるようになることを目指します。さらに、文化を教えることや学習者の自律性を育てること、学習をどのように評価するかについても学びます。 ※グループワークを多用し、積極的な発言を強く求めます。また、出された課題に事前に取り組んだうえで授業に臨んでください。	1. オリエンテーション、ビリーフ 2. コースデザイン 3. 文法の指導（初級） 4. 文法の指導（中級） 5. 聞くための指導 6. 話すための指導 7. 読むための指導 8. 書くための指導 9. 活動案作成 10. 活動案発表 11. 文化を教える 12. 学習の評価 13. 学習者の自律性を育てる 14. 振りかえり、まとめ

到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：次回までの課題に取り組み、わからない点を調べておく。 事後学修：授業で学んだことを整理し、自分の考えをまとめる。
テキスト	授業中にプリントを配布する
参考文献	坂本正・川崎直子・石澤徹『日本語教育への道しるべ　第３巻　ことばの教え方を知る』凡人社
評価方法	リフレクション 20%、通常課題・発表 30%、最終課題 50%

13 年度以降	日本語教授法Ⅱ	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 外国語として日本語を教える具体的な方法を学びます。この授業は、日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心で進めます。 【講義概要】 毎回、学生による模擬授業を行います。模擬授業担当者は期日までに教案を提出し、当日は自分の授業の様子をビデオに録画し、授業後半の振り返りに使用します。一方、教師役以外は全員学習者役となり、学習者の立場から、また、授業を俯瞰的、客観的にみる観察者として授業観察記録をつけます。 履修者の人数により、1回の模擬授業の人数を決定しますが、少なくとも一人2回は授業（教師役）を担当します。 学期末には、観察記録（他者からの評価）と振り返り（自己評価）をまとめ、自己分析レポートとして提出します。	1. オリエンテーション，初級で教える項目の確認 2. 初級の授業の流れと教案の作成 3. 模擬授業① 4. 模擬授業② 5. 模擬授業③ 6. 模擬授業④ 7. 模擬授業⑤ 8. 模擬授業⑥ 9. 模擬授業⑦ 10. 中級以上の指導内容と授業の流れ 11. 模擬授業⑧ 12. 模擬授業⑨ 13. 模擬授業⑩ 14. 模擬授業⑪、まとめ

到達目標	「日本語教授法Ⅰ」の学習成果のうえに、実際に作成した教案に基づき模擬授業を行い、また、他者の模擬授業を客観的に評価し、建設的な意見を述べることができるようにする。
事前・事後学修の内容	教案作成等の事前課題がある。事後としては模擬授業についての内省レポートを提出。
テキスト	模擬授業に使用するテキスト:『みんなの日本語初級Ⅰ,Ⅱ』、『げんきⅠ,Ⅱ』等の一般的な初級の教科書
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①授業の準備　２０％　②模擬授業　３０％　③期末レポート（自己分析レポート）３０％ ④参加態度・貢献度　２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本語コミュニケーション論	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 日常のコミュニケーションに見られる日本語的特徴について考え、それらを説明するための代表的な理論を理解することを目的とします。自身のコミュニケーションを振り返り、見直すきっかけにしてほしいと思います。 【講義概要】 普段あまり意識することのない日本語によるコミュニケーションについて、人が互いに「何をしているのか」を学問的に捉え、その行為の持つ意味を検討します。さらに、行為が相手に与える印象についても一緒に考えます。 なお、授業は主に講義形式で進めますが、テーマにより、小グループでの討論、発表も予定しています。	1. コミュニケーション力とは 2. あいさつ 3. 言語メッセージと非言語メッセージ 4. 対人関係の言葉 5. 依頼・勧誘と応諾・断り 6. 感謝・謝罪・褒め 7. 対人関係のマネジメント 8. 敬語 9. スピーチのコミュニケーション 10. 比喩とコミュニケーション 11. レトリック表現とオノマトペ 12. 公共圏のコミュニケーション 13. 異文化間のコミュニケーション 14. 印象形成との関係

到達目標	外国人の日本語学習者に日本語を教えるうえで必要な知識とコミュニケーション力を養成し、異文化の日本語教育現場においてこれを活用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	滝浦真人・大橋理枝著『日本語とコミュニケーション』（放送大学教材、2015 年）、適宜プリントを配布。
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	①課題の取り組み　３０％　②参加態度・貢献度　２０％　③期末試験　５０％

13 年度以降	日本語文法論 I	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち形態論をとりあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程である。講義では，日本語における語及び形態素の認定にはじまり，融合的な活用と派生，および自律的な結合である複合をあつかい，さらに動詞，形容詞，名詞についてそれぞれ特有の諸問題をあつかう。 [講義概要] 授業は，反転式に準ずる方法をとる。履修者は，ポータルサイトを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし，授業内においてグループでその問題を議論する。授業後やはりポータルサイトを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め，小課題に小レポートを提出するとともに，不明な点への質問を提出する。	1. 形態論概説 2. 単語 3. 品詞 4. 形態素 5. 語構成 6. 複合 7. 活用 8. 語の形態のまとめ 9. 二次語幹 10. テ形からの拡大 11. 自動詞と他動詞 12. 形容詞の形態 13. 名詞の文法カテゴリ 14. 格助詞相当語

到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトで配布される問題への解答を用意し，テキストを読了するとともに，質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3〜4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストをポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	高橋太郎(2005)『日本語の文法』ひつじ書房
評価方法	試験(40%)，授業後小レポート(30%)，授業活動の積極性(30%)

13 年度以降	日本語文法論 II	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち統語論と談話論をとりあげる。統語論とは語から文をくみたてるときの，語順に関する構造を決定する過程のことであり，談話論は発話された複数の文間の関係によって決定される過程のことである。春学期の文法論 I もふくめて，日本語教育により適合する意味論的な文法を中心とする。 [講義概要] 授業は，反転式に準ずる方法をとる。履修者は，ポータルサイトを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし，授業内においてグループでその問題を議論する。授業後やはりポータルサイトを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め，小課題に小レポートを提出するとともに，不明な点への質問を提出する。	1. 統語論・談話論概説 2. 単文の構造 3. 命題のパターン 4. 付加詞と修飾 5. VAT 6. モダリティ 7. 否定と疑問 8. 統語論のまとめ 9. 複文〜従属節 10. 複文〜連体節と補足節 11. 指示 12. 主題 13. 動詞の範疇と談話 14. 談話の構造

到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトで配布される問題への解答を用意し，テキストを読了するとともに，質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3〜4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストをポータルサイトを通じて配布する。
参考文献	Th.R.Hofmann(1986)『10 日間意味旅行』くろしお出版
評価方法	試験(40%)，授業後小レポート(30%)，授業活動の積極性(30%)

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 a）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門購読 a）」では英語教育に関する専門書（洋書）、特に skill-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成するのと同時に、それらの内容についての議論、発表をしながら、理解をより深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially skill-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 (how to be a good teacher) 3 Reading the text with exercises 2 (tips for a good teacher) 4 Reading the text with exercises 3 (how to teach reading) 5 Reading the text with exercises 4 (discussion for reading) 6 Reading the text with exercises 5 (how to teach writing) 7 Reading the text with exercises 6 (discussion for writing) 8 Reading the text with exercises 7 (how to teach listening) 9 Reading the text with exercises 8 (discussion for listening) 10 Reading the text with exercises 9 (how to teach speaking) 11 Reading the text with exercises 10 (discussion for speaking) 12 Reading the text with exercises 11 (make a lesson plan) 13 Reading the text with exercises 12 (demo lesson) 14 Reading the text with exercises 13 (review & evaluation)

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読）、事後（文献に基づいた実践）
テキスト	To be announced at the first lesson
参考文献	授業内で随時指示します
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 b）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門購読 b）」では英語教育に関する専門書（洋書）、特に contents-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成するのと同時に、それらの内容について議論、発表をしながら、理解を深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially contents-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 (teaching literature) 3 Reading the text with exercises 2 (literature for materials) 4 Reading the text with exercises 3 (before lesson) 5 Reading the text with exercises 4 (preparation for lesson) 6 Reading the text with exercises 5 (tips for lesson) 7 Reading the text with exercises 6 (using short stories) 8 Reading the text with exercises 7 (practical samples) 9 Reading the text with exercises 8 (discussion for stories) 10 Reading the text with exercises 9 (using drama) 11 Reading the text with exercises 10 (practical samples) 12 Reading the text with exercises 11 (discussion for drama) 13 Reading the text with exercises 12 (demo lesson) 14 Reading the text with exercises 13 (review & evaluation)

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読）、事後（文献に基づいた実践）
テキスト	To be announced at the first lesson
参考文献	授業内で随時指示します
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13～18 年度	英語教育特殊研究（授業分析と実践 b）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
「英語科教科教育法Ⅰ～Ⅲ」の学習成果を踏まえ、英語の指導に必要な指導項目を総合的に活用し、学習者のニーズ（レベルや動機づけ）にあった領域統合型の授業計画、実践できるようにする。 英語を教える授業と英語で教える授業の授業分析を通し、言語運用や授業内インタラクションの違いを可視化することによって、内容言語統語型学習(CLIL)の可能性を検討するとともに、その長所を活かす授業展開に必要な教室談話能力(classroom interaction competence)や足場かけを検討した上で、授業計画・実践し、省察する。又、集大成として提携校において模擬授業を実施する。	第１回：概論 第２回：教室談話能力 第３回：「英語を教える」授業分析 第４回：「英語で教える」授業分析 第５回：フォーカス・オン・フォーム 第６回：内容言語統合型学習 第７回：学習者のニーズ、計画 第８回：マルチモダリティ、インタラクション 第９回：教科リタラシー、評価 第１０回：協働と省察、コンテキストと文化 第１１回：模擬授業および授業分析　1：グループ 1 第１２回：模擬授業および授業分析　2：グループ 2 第１３回：模擬授業および授業分析　3：グループ 3 第１４回：提携校における模擬授業の準備

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を読み、テーマごとに指定された文献を読むこと。
テキスト	高等学校英語検定済教科書、配布資料
参考文献	フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語教育(和泉), 英語で教科内容や専門を学ぶ（早稲田大学総研）
評価方法	授業分析課題(30%), 模擬授業および授業分析レポート（40%）、その他の課題(30%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13～18 年度	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	担当者	澁井　とし子

講義目的、講義概要	授業計画
小学校外国語の基礎知識と小学校での指導方法を理解し、小・中連携を意識した、外国語の指導方法を講義する。子どもたちが楽しく、将来的に英語を操れるようになるためにはどのようなことを行っていったらよいのか、小学校英語教育に関する指針をもとに、教育現場での実践例を紹介する。児童の立場での授業体験や教師の立場での模擬授業を行い、小学校英語教材とその活用方法について考察し、外国語の指導力向上を目指す。初等教科教育法（英語）の内容である。	1 講義の概要 2 学習指導要領の目標と内容、主教材の趣旨・構成・特徴、授業体験 3 小・中・高等学校の連携と小学校の役割、授業観察 4 様々な指導環境に対するため、児童や学校の多様性への対応 5 言語習得、音声インプットの内容を類推し、理解するプロセス 6 児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方 7 コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動 8 受信から発信、音声から文字へと進むプロセス 9 国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づき 10 発話につながる効果的な語りかけ、発話の引き出し方と児童とのやり取りの進め方 11 文字言語との出合わせ方、読む活動、書く活動への導き方 12 題材の選定、教材研究、学習到達目標、指導計画の理解と学習指導案の立案 13 ALT等とのティームティーチング、ICTの効果的な活用、評価 14 模擬授業と振り返り、授業改善

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習として毎回テキストの範囲を読んでおくこと。 復習として学んだことを整理し、それらをどのように授業に生かしたいのかまとめておくこと。
テキスト	小川隆夫・東仁美著『小学校はじめる教科書　外国語・外国語活動指導者養成のために－コアカリキュラムに沿って』
参考文献	『小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編』最新版　開隆堂出版、 *Let's Try!　We Can!* 東京図書
評価方法	定期試験 50%、レポート・指導案 30%、模擬授業 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語教育特殊研究（英西語学演習）	担当者	臼井　芳子／P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
英語とスペイン語を比較したことがあるだろうか。両言語の類似点や相違点を理解することで語彙力の向上や言語習得の伸長が期待できる。 本講義では、講義と実践をまじえ、今まで学習してきた英語とスペイン語を語源、意味範囲、語用（言語使用）や統語（文法）などの側面から比較・分析し、両言語の類似点および相違点を認識・理解し、言語習得・使用に応用できるようにすることを目的とする。	第1回　概論 第2回　スペイン語と英語の語源：理論 第3回　スペイン語と英語の語源：実践 第4回　偽同族語：理論 第5回　偽同族語：実践 第6回　単語の意味範囲（意味論） 第7回　言語使用と表現（語用論） 第8回　スペイン語と英語の文法（統語論） 第9回　スペイン語と英語の慣用句とその背景 第10回　翻訳１：スペイン語から英語 第11回　翻訳２：英語からスペイン語 第12回　スパングリッシュ（Spanglish） 第13回　口頭発表1：グループ1 第14回　口頭発表2：グループ2

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	前回の講義内容を復習し、次回の講義テーマについて考える。
テキスト	配布資料
参考文献	スペイン語とともに考える英語のラテン語系の世界（山中和樹、2013、開拓社）
評価方法	授業内課題　25%　課題　25%　レポート・口頭発表　50%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成プログラムは、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成プログラムは、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育教材論）	担当者	倉田　芳弥

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この授業では、多様化する学習者のニーズに対応した教材の選定や作成ができるようになることを目的とします。 【講義概要】 　授業では、教材分析及び教材作成について学び、また技能別に実際に教材を作成します。作成した教材は、実際に使用して意見交換を行います。 　授業中、グループワークやペアワークが多いので、授業には積極的に参加してください。また、毎回課題を出します。課題を基づいて次の授業を行うので、指示された課題には必ず取り組むようにしてください。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡をし、次回の課題を確認してください。	１．オリエンテーション・教材分析の概要 ２．初級教材の分析 ３．初級教材の発表・主教材と補助教材 ４．中上級教材の分析 ５．会話教材の分析、作成 ６．会話教材の発表 ７．聴解教材の分析 ８．聴解教材の作成、修正 ９．聴解教材の発表 １０．読解教材の分析 １１．読解教材の作成 １２．インターネットを活用した教材の分析 １３．最終課題作成 １４．最終課題発表

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業内容に関する事前・事後の課題があります。
テキスト	特に指定しない。プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、必要に応じて紹介する。
評価方法	課題 40%、期末レポート 30%、授業への参加度・貢献度 30%

13 年度以前	日本語教育特殊研究（年少者日本語教育）	担当者	宇津木　奈美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、日本語を母語としない子どもを対象とした日本語教育に焦点をあて、子どもの現状とそこから浮かびあがる問題を考察していきます。 　まず、子どもの言語能力を第 1 言語と第 2 言語の関係性から捉えていきます。その上で、学校現場や地域・家庭における日本語教育の取り組みや事例を検討し、そこから見えてくる課題を明らかにしていきます。 　子どもが母国で培ってきた母語や母文化などの資源を生かしつつ、子どもの継続的な認知発達を支える学習支援のあり方について検討していきます。 　授業はグループワークやペアワークが多いので、積極的な参加姿勢が求められます。	1.　講義の概要 2.　日本語を母語としない子どもの状況と問題点 3.　日本語を母語としない子どもに対する日本語指導 4.　日本語を母語としない子どもの言語能力 5.　第一言語と第二言語の関係 6.　日本語を母語としない子どもの書く力の獲得と発達 7.　学校における日本語指導 8.　言語と家庭・地域社会の関係 9.　日本語を母語としない子どもの成長を支える日本語教育 10.　日本語学習と教科学習 11.　母語保障 12.　子どもの母語を活用した教科学習 13.　ボランティア学習支援 14.　講義のまとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示された参考文献を読んでおいて下さい。また、授業後は授業で得た知見を整理してください。
テキスト	適宜プリント配布
参考文献	中島和子（2016）『完全改訂版バイリンガル教育の方法』アルク
評価方法	期末レポート 70%、授業への参加度 30%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（専門購読）	担当者	谷内　美智子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　第二言語習得研究から得られた知見と自分自身の外国語学習経験を結びつけることを通して、効果的な日本語学習、日本語指導について考えることを目的とします。 【講義概要】 　第二言語習得研究とは、母語以外の言語を学習するときのメカニズムを明らかにしようとする研究分野です。本講義では第二言語習得研究がどのように行われてきたか、第二言語習得研究から何が明らかになったか、第二言語習得研究がどのように日本語教育に貢献するかを学んでいきます。 　なお、授業では課題提出やグループワーク等があります。積極的に参加し、指示された課題等には必ず取り組んでください。	1. 日本語教育における第二言語習得研究の位置づけ 2. 第二言語習得研究とは何か 3. 中間言語 4. 学習者の母語の影響 5. 習得順序 6. インプットとアウトプット 7. 言語習得と年齢の関係 8. 動機づけと第二言語習得 9. 言語習得に関係する認知能力 10. 言語習得と学習スタイル 11. 学習スタイルに合わせた指導、学習 12. 第二言語習得における文法学習 13. 第二言語習得における語彙学習 14. 第二言語習熟度の測定、評価

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された課題を行う。 事後学修：授業で学習した内容を整理し、指示された課題を行う。
テキスト	大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	期末レポート（40%）、課題の取り組み（30%）、授業への参加度（30%）

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語教育のための社会言語学）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　以下の３点を通して、日本語教師に必要な社会言語学の素養を身につけることを目的とします。 １．自身の言語運用を社会との関わりから振り返る。 ２．多文化社会のなかでの日本語とその運用を知る。 ３．多言語・多文化社会で求められる日本語・日本語教育を考える。 【講義概要】 　この授業では、多言語・多文化社会との関係から「日本語」を再考します。多様な背景を持つ学生がともに考え、自らの、そしてお互いの言語運用について理解を深めることで、相互理解のための日本語・日本語教育とはどのようなものかを考えていきます。	1.　オリエンテーション 2.　言語のバリエーション 3.　言語運用のルール 4.　言語・非言語行動 5.　丁寧表現、敬語における普遍性と多様性 6.　言語運用に対する評価 7.　接触場面の日本語 －理論 8.　接触場面の日本語 －データ分析 9.　正しい日本語 10.　役割語 11.　うれしい日本語・不快な日本語 －データ分析 12.　うれしい日本語・不快な日本語 －発表 13.　やさしい日本語 －背景と現状 14.　やさしい日本語 －実践

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。
参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	①課題の取り組み　３０％　②参加態度・貢献度　３０％　③期末レポート　４０％

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語教育研究法）	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 日本語教育研究を行うために必要となる基礎的な知識と技術を身につけること。 【講義概要】 質問紙調査、インタビュー、観察を実際に体験しながら、それぞれの調査方法の基本的な特徴と方法、注意点を理解することを目指します。 ※授業内外での課題への取り組み、グループワークやディスカッションへの積極的参加が強く求められる点を理解したうえで履修してください。出席しているだけで単位は出ません。	1. オリエンテーション、日本語教育研究とは 2. 質問紙調査（概要） 3. 質問紙調査（質問紙作成） 4. 質問紙調査（調査実施） 5. インタビュー（概要） 6. インタビュー（インタビューガイド作成） 7. インタビュー（調査実施） 8. 観察（概要） 9. 観察（観察実施） 10. 観察（分析） 11. ミニ・リサーチ（調査準備） 12. ミニ・リサーチ（調査実施） 13. ミニ・リサーチ（分析） 14. 発表、まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前事後とも、出された課題を行うこと。授業で学んだ調査法を用いた文献を読んでみること。
テキスト	授業中にプリントを配布する。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	通常課題 30%、ミニ・リサーチ成果物 50%、授業への積極的参加・貢献度 20%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語学の諸問題）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語を対象に，生成文法分析を行う。授業の目的は，生成文法の考え方を理解するとともに，それによる言語分析について基本的な方法を獲得すること，および日本語の構造について一定の知見をえることである。 [講義概要] 授業前に教科書の相当箇所を読了し，教員から提示される問題への解答を準備してくることが求められる。 授業自体は，その問題への議論を中心に行われる。よってできるかぎり，日本語文法論ⅠおよびⅡを既習しているか，それに相応する言語学の初歩を終了していることが望まれる。	1. 日本語学概論 2. 日本語の基本構造 3. 文 4. 句構造 5. 語彙範疇と機能範疇 6. 自他の対応と非対格 7. 主語主題と移動 8. VPからIPのまとめ 9. 機能範疇と補文構造 10. VP補文と格交替 11. 受動文と使役文 12. 複合述語と結果句 13. 結果構文の統語構造 14. CPからVPシェルのまとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の毎回の指定箇所を読了するとともに，配布課題への解答を準備してくること。 毎回 3〜4 時間の学習が必要となる。
テキスト	長谷川信子(1999)『生成日本語学入門』大修館書店
参考文献	S.ピンカー(1995)『言語を生み出す本能』NHK ブックス
評価方法	試験(60%)　授業活動への積極性(40%)

13 年度以降	異文化間コミュニケーションⅠ	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？と問われたらどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究とその歴史的背景をふまえたうえで、現代社会の異文化関係について様々な角度から学ぶことがねらいである。とくに、異なる文化の人々が共に社会を築きあげる際に起こりうる問題にはどういったことがあるか、またそれはどういった経緯で起こるのかについて深く考えてもらいたい。授業でとりあげる資料や事例は、慎重に扱わねばならない難しいものもあるが、本講義をとおして、自分なりに異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	１．オリエンテーション ２．異-文化と自-文化を意識する ３．異文化間コミュニケーション研究の歴史 ４．コミュニケーションの構造 ５．異文化へのまなざし：「未開」社会 ６．異文化へのまなざし：文化相対主義 ７．異文化へのまなざし：リベラリズム ８．異文化からのまなざし：日本の伝統文化 ９．異文化からのまなざし：日本のポピュラー文化 １０．内なる異文化：世代 １１．内なる異文化：ジェンダー １２．内なる異文化：身体 １３．マルチカルチュラリズムの理念について １４．マルチカルチュラリズムが抱える問題

到達目標	自文化と異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	あなたにとっての「異文化」とはなにか、考えておく。
テキスト	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社
参考文献	授業内で指定する
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

（秋） 13 年度以降	異文化間コミュニケーションⅡ	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法のことであり、グローバル化時代では必須要件である。しかし、それは「言うは易く行うは難し」である。本講義ではその事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出遭いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただアメリカは黒人種の受入れでは大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したのである。この大罪に、アメリカはいまだに苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となって社会不安を煽りつづけている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し、歴史をさかのぼって奴隷からの解放、そして真の「解放」への闘争を紹介する。	第1回：ガイダンス 第2回：モザイク国家アメリカ 第3回：最近の黒人暴動にみる「共生」の現実 第4回：奴隷制とは 第5回：奴隷解放？現実は？ 第6回：自由と平等への戦いのはじまり 第7回：バスボイコット事件 第8回：公民権運動の共生理念 第9回：非暴力不服従：ガンジーとキング 第１０回：迷える北部の黒人たち 第１１回：急進派ブラック・パワーとは 第１２回：ベトナム反戦と黒人運動 第１３回：モハメッド・アリの生涯 第１４回：近年の異人種関係

到達目標	異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	使用しない
参考文献	アメリカ黒人の歴史（本田創造著、岩波新書） キング牧師とマルコムＸ（上坂昇著、講談社現代新書）
評価方法	定期試験（８０％）、小レポート（２０％）

13 年度以降	多文化共生研究 I	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつづけたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究（多数派英国人側に視点を置いた英国史研究）の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。 春学期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行う。	1. 中世英国のユダヤ人社会 2. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係 3. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 英国人地主貴族社会への同化 6. 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム 7. 英国ファシスト勢力との対決 8. 現代英国ユダヤ人社会 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史 12. 黒人の反ユダヤ主義 13. 海を越えた子供たち、キンダー・トランスポート 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色

到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。 また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	特になし
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可。出席はとらない。評価は定期試験のみによって決定。

13 年度以降	多文化共生研究Ⅱ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。 公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ・イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。 後半は、在米ユダヤ系の「下積み時代」における苦難の足跡を歴史的に学ぶ。	1. アメリカ政治とユダヤ人 2. 移民・マイノリティの政党、民主党との同盟成立 3. 在米イスラム教徒の政治力 4. 共和党支持の中核、キリスト教福音派 5. ヒスパニック社会に対する福音派の宣教活動 6. キリスト教シオニストの圧力団体 7. 新パレスチナに傾く主流派教会 8. ２０１６年大統領選とエスニック・マイノリティ 9. 欧州極右とユダヤ・ロビーの急接近 10. 大都市都民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 蘇る儀式殺人告発、２０世紀アメリカで復活 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色

到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。 また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書）　740 円 『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（電子書籍版：ダイヤモンド社）、　1280 円
参考文献	特になし
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。

13 年度以降	大衆文化論	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
明治以降の大衆文化の変容を通して、日本における近代とはいかなる時代であったのかを社会学的な視点から再考する。高校までの一般的な「近代史」のなかで扱われるような事例も取り上げるが、それ以上に忘れられがちな大衆文化に注目することで、より多角的に近代日本の動態を捉えていくことを目指す。また現代の日本社会にも共通する点などを随時取り上げ、近代と現代の連続性についても考えていく。各回に考察の時間をもうけているので、学生の積極的な参加を期待したい。必ずしも日本の近代史に対する知識がない学生の参加も歓迎したい。基本的な議論の枠組みは社会学である。取り上げる大衆文化のなかでも、特に戦前・戦中期から戦後期のボクシングにはそれなりの時間を割く。当時のボクシングは代表的な大衆文化の一つであるためだ。そのためボクシングが戦中から戦後へと形を変えていく様は、大衆文化から近代史を捉えようとする本講義において、格好の事例となる。	1 イントロ 2 文化のグローバル化／ローカル化と日本の近代化 3 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 1（日清戦争、日露戦争、近代文化等々） 4 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 2（社交ダンス、武士道野球、乃木希典の死等々） 5 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 3（大正デモクラシー、都市文化、エログロナンセンス、関東大震災、格差社会等々） 6 大衆文化と日本の近代化〜明治・大正・昭和 4（昭和維新、「皇軍」の価値観、「軍神」、国防競技等々） 7 大衆文化と日本の近代化〜戦中の文化（翼賛映像作品鑑賞） 8 大衆文化としてのボクシング〜明治、大正から昭和にかけて（メリケンから柔拳、興行の一般化等々） 9 大衆文化としてのボクシング〜昭和 1（自律化以降〜戦中の「武士道としてのボクシング」等々） 10 戦後という時代 1（右翼の自死、人間宣言、ヤミ市、カストリ雑誌、三島由紀夫等々） 11 大衆文化としてのボクシング〜昭和 2（「科学的ボクシング」等々） 12 戦後という時代 2（「悪所」としての「基地の街」、ポピュラー音楽文化、ドラッグ文化、消費される「基地の街」等々） 13 明治・大正・昭和の大衆文化 14 テストとまとめ

到達目標	大衆文化のグローバル化／ローカル化、大衆文化と産業の関係性といった、大衆文化にまつわる各種の事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の中で随時指示する。なるべく下記の参考文献に目を通しておいてほしい。
テキスト	特になし
参考文献	木本玲一、2018『拳の近代: 明治・大正・昭和のボクシング』現代書館
評価方法	試験（100%）

13 年度以降	NGO 論	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	1. NGO 論オリエンテーション 2. 紛争の蓋然性を高める世界情勢を概観する 3. 「対テロ戦争」と市民社会Ⅰ／アフガニスタンの現状と NGO の活動 4. 「対テロ戦争」と市民社会Ⅱ／イラク戦争と人道支援 5. イラクの現状と NGO による平和構築の取り組み 6. パレスチナ問題と NGO の取り組み 7. NGO の安全対策（講義と演習） 8. 東アジアの平和と市民交流 9. 「貧困対策」と持続的開発目標（SDG s）。ラオスにおける森林保全から考える。 10. アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み 11. NGO の組織運営と人材、資金について 12. 非人道兵器の禁止と市民社会Ⅰ・対人地雷の全面禁止を実現した市民社会　〜地雷廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶ NGO のﾈｯﾄﾜｰｸ〜 13. 非人道兵器の禁止と市民社会Ⅱ・クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 14. 非人道兵器の製造と社会的責任投資　ESG投資を促すNGOの取り組み

到達目標	非政府組織（NGO）に関する基本的、体系的知識のうえに、国際社会における NGO の役割や意義、課題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。
テキスト	特になし。
参考文献	日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年・清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

13 年度以前	ローカル・メディア論	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locallyというフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティFMなどである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	１．イントロダクション ２．グローバル化とローカル・コミュニティ ３．地域・地方文化の復権とメディア ４．各地の地域メディア（谷根千） ５．各地の地域メディア（渡良瀬通信） ６．各地の地域メディア（シティライフ） ７．メディアによる地域文化の創造 ８．メディアによる地域文化の継承 ９．災害と地域メディア（FM わぃわぃ） １０．災害と地域メディア（石巻日日新聞） １１．多文化共生と地域メディア １２．多言語地域メディア １３．受講者による発表（前半グループ） １４．受講者による発表（後半グループ）

到達目標	各種・各地域のローカル・メディアが多文化共生社会において果たす役割等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。
テキスト	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房
参考文献	授業の中で指定する
評価方法	授業時間内での発表・質問など（50%）、期末試験（50%）

13 年度以降	比較文化論	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を「比較する」ということはどういうことなのかについて考えを深め、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」をめぐる諸問題について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、そして異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳（不）可能性をテーマに、具体的な事例について資料映像・記事などを用いてディスカッションする。	第１回：オリエンテーション 第２回：グローバル化するローカル文化 第３回：ローカル化するグローバル文化 第４回：異文化を比較する（１）時間・空間 第５回：異文化を比較する（２）漫画・アニメ 第６回：異文化を比較する（３）食文化 第７回：異文化を比較する（４）美意識 第８回：文化帝国主義と「英語」使用 第９回：オリエンタリズムとポストコロニアリズム 第１０回：異文化の翻訳不可能性について 第１１回：異文化の翻訳不可能性を超えて 第１２回：文化的境界線のダイナミクス 第１３回：文化的境界線とアイデンティティ 第１４回：まとめ

到達目標	グローバル社会のなかのローカル文化が置かれた状況を理解しながら、異文化比較の方法や視点を養い、そこに存在する問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	情報化社会と文化産業、文化のオリジナリティについて資料を収集しておく。
テキスト	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社
参考文献	授業の中で指定する
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）

13 年度以降	英語圏の文化	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. 反戦に揺れる 60 年代 10. カウンターカルチャー 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義

到達目標	英語圏の各種文化が形成されるに至った過程や要因、およびその特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする
テキスト	特になし
参考文献	『アメリカの反知性主義』みすず書房、2016 年
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

13 年度以降	英語圏事情	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリカをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。 ① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなんなのか、検証する。 ② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか。	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン／イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力

到達目標	英語圏における実際問題を政治、経済、文化、社会といった様々な視点から捉えて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする
テキスト	『米兵犯罪と日米密約』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

13 年度以降	国際関係論	担当者	大串　敦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、ソ連時代から現代にいたるまでのロシアとロシア以外の旧ソ連諸国の内政を扱う。ソ連の政治体制が独特な体制であったことは言うまでもない。その成立から解体、新体制の成立と現状を比較政治学的に分析・理解する。比較政治学の主要理論（革命論、体制変動論、政治体制論、政党政治、議会政治、連邦制、官僚制など）と地域に関する事実関係を理解することができればおおむね講義の目的は達成される。	1. 目的と方法、スラヴ・ユーラシア地域の基礎条件 2. 革命の理論とロシア革命 3. 全体主義体制とスターリン体制 4. 民主主義と共産主義体制 5. ナショナリズム理論と帝国としてのソ連 6. 近代化論、社会経済発展と共産主義体制 7. 体制転換の理論とソ連解体1：近代化、移行 8. 体制転換の理論とソ連解体2：制度論 9. 連邦制の理論とロシアの連邦制 10. 憲法体制の理論と旧ソ連諸国の憲法体制 11. 政治体制転換と経済体制転換 12. 政党政治の理論と旧ソ連諸国の政党政治 13. 新家産制国家論とロシア官僚制 14. 競争的権威主義体制論と旧ソ連諸国の政治体制

到達目標	国際関係に関する基本的知識のうえに、国際社会の成り立ち、国際関係の歴史的展開、国際関係における政治と経済の関わりを正確に分析し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献リストを配布しますので、できるだけ目を通してください。
テキスト	特になし。
参考文献	文献リストを配布します。
評価方法	期末試験（100%）による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	国際協力論	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ(平和維持活動)やＯＤＡ(政府開発援助)を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	1. 平和協力(1)：国連と平和維持活動(PKO) 2. (2)：国連PKOの原則と歴史的変遷 3. (3)：日本のPKO協力と論点 4. (4)：事例研究：アフリカ・モザンビーク 5. 開発協力(1)：政府開発援助(ODA)の理念と枠組み 6. (2)：開発援助の歴史的変遷 7. (3)：貧困と「人間の安全保障」 8. (4)：事例研究：中米・エルサルバドル 9. 選挙支援(1)：民主主義支援と選挙監視活動 10. (2)：選挙監視活動の原則と歴史的変遷 11. (3)：事例研究：欧州・ウクライナ 12. 新しい課題(1)：平和協力と開発協力の融合 13. (2)：平和構築と「保護する責任」 14. (3)：国際協力の意義・問題点・課題

到達目標	国際協力に関する基本的知識のうえに、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 100%(ただし公正な評価のためにその他の事項を加味する場合がある)。

13 年度以降	南北問題	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約13%に当たる約9億人は、国際貧困ライン（1日1.9ドル）以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策(教育・保健・福祉)を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。今日の新興国の成長は、国際関係の構図をいかに変えつつあるのか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	1. 地球環境(1)：地球環境問題と南北対立 2. (2)：貧困と環境破壊 3. (3)：持続可能な開発の模索 4. (4)：地球温暖化問題と南北関係 5. 南の開発(1)：第三世界の独立と開発援助戦略 6. (2)：ナショナリズムと格差の拡大 7. (3)：貧困と「人間開発」 8. (4)：国連の新しい開発戦略 9. 資源問題(1)：世界の食糧問題 10. (2)：水問題と砂漠化問題 11. (3)：人口増加とエネルギー問題 12. 新しい争点(1)：自然災害と防災 13. (2)：核拡散と原子力利用 14. (3)：グローバル化と金融問題

到達目標	南北関係に関する基本的、体系的知識のうえに、南北問題、および途上国の抱える諸問題やその解決策について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 100%(ただし公正な評価のためにその他の事項を加味する場合がある)。

13 年度以降	国際政治論 I	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治学は、他の社会科学および自然科学の知見を取り入れながら、戦争の原因および平和の条件をその中心的課題として、発展してきた学問である。この講義は、複雑化する今日の国際政治事象を体系的に考え、一見アト・ランダムな寄せ集めに見える国際的事件の中に一定のパターンを見出し、分析する力を養うことを目的として、国際政治学の基礎概念や代表的理論を紹介する。	1．　国際政治学とは何か 2．　国際政治の先駆思想 3．　国際政治の歴史 4．　国際政治学の基礎概念（1）集合行為の論理 5．　国際政治学の基礎概念（2）分析のレベル 6．　国際政治学の基礎概念（3）国家とは 7．　国際政治学の基礎概念（4）国際政治の構造と安定性 8．　リアリズムの世界（1）古典的リアリズム 9．　リアリズムの世界（2）構造主義とネオリアリズム 10．リベラリズムの世界（1）相互依存論 11．リベラリズムの世界（2）民主的平和論 12．リベラリズムの世界（3）国際制度論 13．コンストラクティヴィズム、その他の理論 14．まとめ：理論と政策

到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに載せるアウトラインに沿って予習しておく。 授業で扱った内容についてのレポート提出が求められることがある。
テキスト	なし
参考文献	村田他『国際政治学をつかむ』有斐閣、藤原他『平和政策』有斐閣
評価方法	小テスト・レポート：40%；宿題：10%；期末テスト：50%

13 年度以降	国際政治論 II	担当者	山下　光

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際政治を深く理解するためにポイントとなる知識や知的道具を提供する。前半では国際政治に主要な概念および重要なイシューについて紹介し、後半では国際政治の主要理論を導入する。なお、適宜時事問題についても取り上げる機会とする。	1．　講義概要、インダクション 2．　国際政治の概念と趨勢（1）：国家と主権 3．　国際政治の概念と趨勢（2）：民族と国民国家 4．　国際政治の概念と趨勢（3）：グローバリゼーション、グローバル・ガバナンス 5．　国際政治の概念と趨勢（4）：人道主義と人権 6．　国際政治の概念と趨勢（5）：9.11と国際テロ 7．　国際政治の概念と趨勢（6）：安全保障と戦争 8．　国際政治の概念と趨勢（7）：紛争と紛争管理 9．　国際政治を考える視点（1）：リベラリズム 10．国際政治を考える視点（2）：リアリズム 11．国際政治を考える視点（3）：ネオリベラリズム 12．国際政治を考える視点（4）：ネオリアリズム 13．国際政治を考える視点（5）：英国学派 14．講義の総括・討議

到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	レジュメおよび参考文献の読解
テキスト	なし。レジュメに基づき進める。レジュメは Porta を通じ配布する。
参考文献	テーマに応じ適宜授業の中で紹介する。参考文献リストは Porta を通じ配布する。
評価方法	レポート（100%）による。長さ、期限など詳細は授業中に指示する。 なお、期限を過ぎての提出は認めないため、指示をしっかり確認して準備すること。

13 年度以降	国際経済論 I	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済の諸問題を理解するのに最低限必要と思われる基本的な事柄を講義します。その中心は、「貿易理論」、「国際貿易の一般均衡」、「貿易と経済厚生」、そして「貿易政策」などです。講義で扱う内容は、よりすすんだ事柄を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生はミクロ経済学を理解していること。予習と復習を求めます。私語厳禁。	1. 国際貿易理論概観　－消費・生産・貿易－ 2. リカード的貿易論　－比較生産費説の数字例－ 3. リカード的貿易論　－固定係数型生産関数による展開－ 4. ヘクシャー・オリーン的世界　－貿易理論、要素価格均等化－ 5. ヘクシャー・オリーン的世界 －リプチンスキー定理とストルパー・サミュエルソン定理－ 6. 国際貿易の一般均衡　－交易条件の決定－ 7. 国際貿易の一般均衡　－経済成長と交易条件－ 8. 国際貿易と経済厚生　－自由貿易－ 9. 国際資本移動 10. 外国人労働者　－移民－ 11. 自由貿易・関税・輸入数量制限　－部分均衡分析－ 12. 輸出補助金と輸出自主規制 13. 幼稚産業保護論 14. 産業内貿易　－独占的競争と製品差別化－

到達目標	貿易理論・政策、国際収支調整といった国際経済の仕組や、これらに関する諸問題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。
テキスト	大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店
参考文献	特になし。
評価方法	試験のみ（100%）で評価

13 年度以降	国際経済論 II	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学んだ、「貿易理論」とともに国際経済学の中心テーマである、「国際収支調整メカニズム」を学ぶ。具体的には、開放経済下の所得決定です。それと金融政策、財政政策の対外的な影響、外国為替制度などが中心になります。受講生はマクロ経済学を理解していること。予習と復習を求めます。私語厳禁。	1. 国民総生産と国内総生産　－経常収支と資本収支－ 2. 開放経済下の所得決定　－固定為替制度－ 3. 開放経済下の所得　－固定為替制度と国際間の所得関連－ 4. 開放経済下の所得　－変動為替制度－ 5. 国際通貨金と金本位制度 6. 外国為替市場　－固定為替制度－ 7. 変動為替制度 8. 先物為替市場 9. 国際資本移動　－長期資本移動と短期資本移動－ 10. トランスファー問題　－政府援助と賠償－ 11. 国際通貨 12. 国際収支と国際収支表 13. 国際収支の不均衡 14. まとめ　－ベルサイユ条約の経済学側面と30年代大不況－

到達目標	貿易理論・政策、国際収支調整といった国際経済の仕組や、これらに関する諸問題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。
テキスト	未定
参考文献	特になし。
評価方法	試験のみ（100%）で評価

13 年度以降	日本政治外交史 I	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。本講義では、第２次世界大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方をたどる。 春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力ー政府・諸政党などがどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法を頂点とする占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを考えてみる。 国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	1. はじめにー国際社会のなかの日本ー 2. 日米戦争と戦後日本 3. 敗戦に至る過程ーヤルタからポツダムへー 4. 敗戦と占領の開始 5. 戦後政治の胎動 6. 日本国憲法の誕生 7. 戦後政党政治の再出発 8. 中道政権の形成と展開 9. 占領政策の転換（１）ー民主化から経済復興へー 10. 占領政策の転換（２）ードッジ・ライン 11. 講和への胎動 12. 朝鮮戦争と講和 13. 講和をめぐる国内政治 14. おわりに

到達目標	歴史を「考える」意識をもって、日本の政治外交における歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。
テキスト	福永文夫『日本占領史 1945〜1952』中公新書。そのほか、講義中にプリントを配布する。
参考文献	参考文献については、適宜講義中に指示する。
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降	日本政治外交史Ⅱ	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。未来図は、過去の経験と現在の選択においてしか描かれることはない。 秋学期は、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約の形成過程を追い、講和・独立から「５５年体制」の成立を経て、1960 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、日本の諸政治勢力ーとくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。 国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	1. はじめにー戦後日本の再生ー 2. 講和をめぐる日米関係 3. 講和をめぐる国際関係 4. サンフランシスコ講和会議 5. 講和・独立後の政党政治ー日本の《自立》をめぐって 6. 「55年体制」の形成（１） 7. 「55年体制」の形成（２）ー保守合同と社会党統一 8. 「55年体制」の展開（１）ー日ソ交渉 9. 「55年体制」の展開（２）ー岸信介政権 10. 60年安保騒動と政党政治 11. 高度成長期の政治と外交ー池田政権 12. 高度成長期の政治と外交ー佐藤政権 13. 高度成長後の政治 14. おわりに

到達目標	歴史を「考える」意識をもって、日本の政治外交における歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。
テキスト	福永文夫『日本占領史 1945〜1952』中公新書。そのほか、講義中にプリントを配布する。
参考文献	参考文献については、適宜講義中に指示する。
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降	地域研究論	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
学問の世界には、特定の事象を分析するうえで有用な、地理学、歴史学、政治学、経済学、文化人類学といった個別のディシプリン(専門分野と方法論)がある。しかし、ある特定の地域の本質を理解しようとする場合、これらの個別的な研究手法に依拠するだけでは必ずしも十分でない。自然環境、歴史、宗教、思想、政治、経済、言語、芸術、文化など、広範な学問領域を横断して、総合的に対象に迫ることがきわめて重要になってくる。 本講義では、事例としてはラテンアメリカを取り上げ、地域を総合的に理解することの意味を考えたい。「地域研究」であるから、この地域への理解を深めることは本講義の目的の一つである。ただ、それを超えて狙いとしているのは、受講生の履修言語や関心地域に関わらず、「地域」への総合的なアプローチを体感し、地域理解のために必要な基本的な視座と応用力を身につけてもらうことである。	1. 地域研究とは何か（個別の学問と学際研究） 2. 自然環境と生活（アマゾン地域の自然・生業・食） 3. （アンデス地域の自然・生業・食） 4. 歴史と社会（植民地社会の形成） 5. （ラテンアメリカ諸国の独立と近代化） 6. 人と文化（ラテンアメリカの人種と民族） 7. （ラテンアメリカの宗教・家族・価値規範） 8. 近代化と政治（ナショナリズムとポピュリズム政権） 9. （軍事政権と国家発展の追求） 10. 現代社会の形成（民主化運動と人権） 11. （市場経済化と地域統合） 12. 現代社会の諸問題（貧困・格差と教育問題） 13. （組織犯罪と麻薬問題） 14. 地域を総合的に捉えることの意義を考える

到達目標	各地域独自の社会文化が成立した過程や要因、および各地域の特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 100%(ただし公正な評価のためにその他の事項を加味する場合がある)。

13 年度以降	国際機構と法Ⅱ	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する講義を提供することを目的とします。 〔講義概要〕今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義は、国際法を履修していなくても履修できます(主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します)。また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1. はじめに 2. 国際組織の概念と歴史 3. 国際法の基礎知識 4. 国際組織の設立と解散 5. 国際組織の国際法上の地位 6. 国際組織の国内法上の地位 7. 国際組織と加盟国 8. 国際組織間の連携・協力 9. 国際組織とNGO（民間団体） 10. 国際公務員 11. 国際組織の意思決定 12. 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13. 国際組織に関する事例研究 14. まとめ

到達目標	国際機構、および国際組織法の基本的な考え方、および、国際組織法に関する重要な判例、学説を正確に理解し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	①事前学習：あらかじめ指定されたテキストの箇所を熟読。②講義中：教員から提示される今日のポイントを授業レポートとして提出。③事後学習：教員の添削・コメントを読んで復習。
テキスト	浦部・望月編『国際機構論[総合編]』（国際書院、2015 年）
参考文献	特になし
評価方法	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。	1.　ガイダンス 2.　夢のハワイへ 3.　ポリネシアハワイの生活 4.　アメリカ西海岸への移動 5.　敵意のはじまり 6.　差別のメカニズム 7.　日本人の完全排除 8.　日米戦争と強制収容 9.　収容キャンプの生活 10.　アメリカへの忠誠と従軍 11.　二世部隊 12.　帰米二世 13.　中南米へ渡った日本人 14.　戦後の人権獲得と汚名返上

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	『ハワイの日本人移民』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究）	担当者	石川　朝子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることが目的とする。 特に、外国にルーツを持つ子どもの教育やかれらの教育達成について、いくつかの事例などをもとに検討を加える。また、地域との関係について現状を知り、多文化共生のあり方を考える。さらに、民族学校における教育や国際結婚で生まれた子どもの教育についての学びを深めていく。 これらの学びを通して、多様な文化や背景を持つ人々との「共生」はいかにあるべきか、「多文化共生」の可能性を模索する	1. オリエンテーション 2. 「滞日外国人」とは？ 3. これまでの「滞日外国人」研究 4. 日本の移民政策の変遷 5. 日本に暮らす難民 6. オールドカマーとは？ 7. 日本の外国人学校 8. ニューカマーとは？ 9. 外国につながる子どもの教育 10. 外国につながる子どもの高校進学 11. 外国につながる子どものキャリア 12. 外国人住民と地域の関係 13. 「滞日外国人」研究を通して見えてくるもの 14. 総括とディスカッション

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次週学習内容を理解するために、事前に資料を配布することがある。講義前に資料に目を通し、理解の上、参加することを期待する。
テキスト	テキストは特にない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	宮島喬『外国人の子どもの教育』東京大学出版会（2014 年）、荒牧重人ら編『外国人の子ども白書』明石書店（2017 年）
評価方法	各回提出のリフレクションシート（40%）、記述試験（60%）で評価する。

13 年度以前	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　東南アジアの開発／発展がもたらした社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。東南アジアの人々について、よその地域の他人ごとの話ではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。 講義概要 　東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展／開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、１、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、２、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第１回：地域研究的な思考方法について 第２回：東南アジアの地域的特徴 第３回：東南アジア地域研究の課題 第４回：東南アジア社会の多様性 第５回：東南アジアにおける都市−農村間の格差 第６回：東南アジアと私たちの関わり 第７回：東南アジアにおける開発政策の展開 第８回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第９回：タイにおける開発／発展と宗教 第 10 回：タイにおける開発／発展と環境 第 11 回：タイにおける開発／発展と労働力 第 12 回：タイにおける開発／発展と家族・子ども 第 13 回：タイにおける開発／発展と女性 第 14 回：タイにおける社会保障／福祉

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。
テキスト	プリントを配布する
参考文献	『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1　（2005 年 6 月発行）　『老いてゆくアジア』（中公新書）大泉啓一郎著
評価方法	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。

13〜18 年度	グローバル社会特殊研究 （アメリカ合衆国のラティーノ社会）	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生やラティーノの「人種」化などを歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域であるラテンアメリカとの人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。 　トランプ大統領の移民政策、米墨国境の壁建設問題などとともに、ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。 　授業内での活発な議論を期待する。	１）（導入）米墨国境の「壁」について ラティーノとは誰か ２）国勢調査のラティーノ定義　出身地域と分布の概要 ３）ヒスパニック調査はなぜ始まったのか ４）スペイン語メディアとスパングリッシュ ５）「ヒスパニック」から「ラティーノ」へ ラティーノを巡る二つの見方 ６）テレビシリーズ「アグリーベティ」のラティーノ表象 ７）アンサルドゥーア・スタバンス・ハンチントンを読む 人の移動の歴史と理論 ８）なぜ人は移民するのか　サッセンを読む ９）メキシコ系 10）プエルトリコ系とキューバ系 米国多文化主義とラティーノ 11）チカノ運動 12）トランスナショナル・シティズンの誕生 13）近年の移民排斥運動 14）まとめ　ラティーノは米国を変えるのか

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に次の授業までにすべき課題を示します。
テキスト	U.S. Bureau of Census, “The Hispanic population: 2010,”など、適宜、授業中に配布・指示する
参考文献	田原徳容『ルポ不法移民とトランプの戦い』光文社文庫、田中研之輔『ルポ不法移民』岩波新書など
評価方法	授業内での発言など参加度 50%　小テストおよび期末レポート 50%

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 a）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀程しか経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国経済を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合b）も履修してください。第1回の講義に必ず出席してください。	1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済発展の軌跡 3. 東南アジア経済の特色 4. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 5. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 6. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 7. シンガポール(2)：産業高度化戦略 8. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 9. マレーシア：脱工業化の模索 10. 人材育成戦略についての全員ディスカッション 11. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 12. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 13. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 14. ミャンマー：経済再建の胎動＆講義の纏め

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。
テキスト	教員が作成した資料を配布する。
参考文献	石川幸一他編著（2015）『現代 ASEAN 経済論』文眞堂
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。詳細は第 1 回の講義で説明。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合 b）	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は3つあります。第1は、1967年に発足したASEANがいかなる経緯で地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。第2は、ASEANにおける経済発展の担い手である華橋・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。第3は、わが国がASEANのさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合a）も履修してください。第 1 回の講義に必ず出席してください。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 第2次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN市場に挑む日本企業（NHKスペシャル） 4. 地域経済共同体としてのASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としてのASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としてのASEAN(3)：将来構想 7. 大メコン圏開発とインフラ整備 8. ASEANの対域外自由貿易協定（FTA）戦略 9. わが国自動車メーカーの東南アジアでの事業展開 10. 邦銀の東南アジアでの事業展開 11. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEANの視点 13. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 14. 東南アジアに関する学生スピーチ＆講義の纏め

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。
テキスト	教員が作成した資料を配布する。
参考文献	石川幸一他編著（2015）『現代 ASEAN 経済論』文眞堂
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。詳細は第 1 回の講義で説明。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 a）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 本講義は、元来、法学部専門科目として３年生以上に開講される科目である。国際教養学部では、「グローバル社会特殊研究（地球環境と法a）」として２年生以上に開講されるが、２年生が受講を希望する場合は、履修が容易ではないので、開講時に教員に相談すること。	1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全 7 国際環境法の諸原則 8 環境責任論の進展 9 国際環境保全規範と事前防止 10 事前防止の手続的規則―通報・協議 11 事前防止の手続的規則―環境影響評価 12 司法手続き・履行確保 13 非国家主体・非拘束文書の役割 14 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	開講時に指示する。
参考文献	『国際条約集』有斐閣 2019 年。
評価方法	期末試験の成績により評価し（70%）、課題レポート・小テストなどの成果および授業への参加度も評価対象にする（30%）。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（地球環境と法 b）	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 本講義は、元来、法学部専門科目として３年生以上に開講される科目である。国際教養学部では、「グローバル社会特殊研究（地球環境と法b）」として２年生以上に開講されるが、２年生が受講を希望する場合は、履修が容易ではないので、開講時に教員に相談すること。	1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏･気候変動問題―オゾン層 4 地球大気圏･気候変動問題―気候変動枠組条約 5 地球大気圏･気候変動問題―パリ協定 6 海洋環境の保全―総論 7 海洋環境の保全―船舶起因 8 海洋環境の保全―海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射性物質 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	開講時に指示する。
参考文献	『国際条約集』有斐閣 2019 年。
評価方法	期末試験の成績により評価し（70%）、課題レポート・小テストなどの成果および授業への参加度も評価対象にする（30%）。

19 年度 13～18 年度	教職論 教育学概論 I (教職論)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分と服務、職務の内容、職責や職務遂行に必要とされる資質などについて主体的な理解を深めていく。教員が直面している現代的諸課題の対応についても取り組む。	第１回：教員の職種・職名とチーム学校 第２回：期待される教師像と目指す教師像 第３回：児童・生徒の成長と教員の役割 第４回：教員の資質と能力 第５回：教員養成と教員免許 第６回：教員の任用と教育委員会 第７回：教員の身分と服務 第８回：教員の職務(1)学校と教員の一日 第９回：教員の職務(2)学校運営と校務分掌 第１０回：教員の職務(3)学習指導と生徒指導 第１１回：教員の研修(1)法定研修と教員のキャリア 第１２回：教員の研修(2)自主的研修の活用 第１３回：進路選択の問題を考える(1)教職の特質 第１４回：進路選択の問題を考える(2)教育ボランティアの体験

到達目標	教職の意義、教員の資質能力、職務内容などの教職に関する概括的知識を習得し、教職への意欲向上と心構えの在り方を理解する。
事前・事後学修の内容	事前学修は次時のテーマを確認し、テキスト・参考資料等を読んで課題意識をもって参加すること。 事後学修は授業で指示された課題に取り組み、次時に提出すること。
テキスト	講義毎に配布する資料
参考文献	『中学校学習指導要領解説　総則編』(最新版　文部科学省)
評価方法	課題レポート（３０%)、グループ討議（２０%)、定期試験（５０%）により総合的に評価

19 年度 13～18 年度	教職論 教育学概論 I (教職論)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度 13～18 年度	教育原論 教育学概論Ⅱ(教育の原理)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は秋学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後 学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度 13～18 年度	教育原論 教育学概論Ⅱ(教育の原理)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現代の子どもと学校をめぐる諸問題について分析することを通して教育の基本的概念を理解するとともに、近代学校教育の歴史と教育思想についての考察を通して現代の教育課題について検討する。	第１回：教育の基本的概念（1）子どもの「荒れ」とは何か 第２回：教育の基本的概念（2）発達障害とは何か 第３回：教育の基本的概念（3）近代教育の本質とは何か 第４回：教育の基本的概念（4）教育基本法から考える日本の教育 第５回：教育の基本的概念（5）教育の内的事項と外的事項 第６回：教育の基本的概念（6）学校の役割とは何か 第７回：近代教育制度の成立と展開 第８回：戦後教育の歴史（1）戦争からの解放から高度経済成長期まで 第９回：戦後教育の歴史（2）1970年代から1980年代まで 第１０回：戦後教育の歴史（3）1990年代から現在まで 第１１回：子どもの権利から考える教育思想（1）ルソー以来の教育思想と子ども論 第１２回：子どもの権利から考える教育思想（2）学習権 第１３回：子どもの権利から考える教育思想（3）教育の目的 第１４回：発達と教育を考える

到達目標	教育の歴史や目的、内容、方法、制度について理解し、自身の学校観や現在までの教育改革について理論的に分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	特に事後には授業内容の整理と復習を行うこと。
テキスト	『ポケット版子どもの権利ノート』（子どもの権利・教育・文化 全国センター）
参考文献	授業中に適宜指示、紹介する。
評価方法	授業中に適宜課す小レポート（４０%）、最終レポート（６０%）

13 年度以降	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2 割から3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目的にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。	1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」休息休養保養とレクリエーション 6 自由時間「三つの意味」スコレーと自己開発 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 幸福とは何か 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するためにぜひご協力をお願いします。

到達目標	スポーツ・レクリエーションに関する概論的知識のうえに、余暇を有効に活用し、健康・体力の保持・増進、他者との交流を図ることができるようにする。
事前・事後学修の内容	身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。
テキスト	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。
参考文献	ミヒャエル・エンデ， モモ， 岩波書店.
評価方法	授業への取り組み姿勢と授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

13 年度以降	心理学概論Ⅱ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。 **※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。**	1．　心理検査とは？ 2．　心理検査の種類と理論 3．　Ｙ－Ｇ性格検査（理論的背景と検査の実施） 4．　Ｙ－Ｇ性格検査（検査結果の分析・解釈） 5．　ストレス・コーピング 6．　職業への興味 7．　知能検査 8．　EQS 9．　性格５因子 10.　TEG 11.　グループ・ワークによる自己理解（非言語的理解） 12.　グループ・ワークによる自己理解（言語的理解） 13.　グループ・ワークによる自己理解（他者と自己） 14.　テスト・バッテリーに基づく自己理解

到達目標	心理学に関する概論的知識のうえに、社会の諸問題や人間の行動を「人の心」という観点から科学的に検証し、あるいはその検証成果を様々な場面において応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあっては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。
テキスト	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。
参考文献	各回で参考文献は異なるので、各回の授業にて紹介する
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

13 年度以降	教育の歴史 I	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、前近代の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（Ⅱでは近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（手習塾や藩校、子育て習俗等）および教育思想（貝原益軒等）を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった枠組みで教育的営為が行なわれていました。そのため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義したいと考えています。	1　ガイダンス 2　日本の前近代（江戸という時代とその民衆） 3　子育ての習俗 4　江戸時代の二つの知 5　江戸時代の教育諸機関とその研究（手習い塾） 6　同上（私塾・藩校） 7　同上（郷学など） 8　キリスト教伝来と日本人の対応 9　朱子学の理解 10　日本の儒学 11　江戸時代の思想の流れ 12　貝原益軒の儒学と教育思想 13　民衆の儒学と民衆の教育 14　「学制」による知の統合

到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で紹介された文献を読む。
テキスト	指定せず。ポータルサイトからの配布プリントによる。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業貢献度と中間レポートによって 70%、最終レポートによって 30%。

13 年度以降	教育の歴史Ⅱ	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、近代以降の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。 本講義では日本の近代の教育史を担当しますが（ I は前近代）、具体的には幕末以降、1950年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱います。 できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義しようと考えています。	1　開講の辞／講義の進め方の説明 2　近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3　「学制」とその影響 4　「学制」後の明治期の教育 5　独逸学教会学校と高等教育 6　教育勅語とその扱い 7　大正自由主義教育（学校教育の実践） 8　同上（思想的基盤） 9　学校慣行の登場 10 中等教育の歴史 11 生活綴方教育 12 教師への道 13 戦時下の教育 14 戦争と教育（ビデオ観賞）

到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で紹介された文献を読む。
テキスト	指定せず。ポータルサイトからの配布プリントによる。
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業貢献度と中間レポートによって 70%、最終レポートによって 30%。

13 年度以降	比較教育制度論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、教育に関する社会的事項、教育に関する制度的事項、学校と地域の連携、学校安全への対応を含むものである。 現代の公教育制度の意義や原理・構造について法的・制度的な知識を身につけるとともに、現在進められている改革の背景にある学校や子どもの生活の変化などの課題を理解し、制度をめぐる諸課題と結びつけて考えることができる講義とする。 具体的には授業前半は知識のための講義とし、後半は改革を検討し討論・発表の時間とする。またリアクションペーパーを使用し質問や討論を経ての意見などを集め、次週にレビューをする。	第１回：オリエンテーション 第２回：教育を受ける権利と権利保障 第３回：学校教育制度の変遷 第４回：公教育と私教育 第５回：教育行政システム（国・地方）と教育委員会 第６回：　教育行財政 第７回：教育課程行政 第８回：諸外国の教育制度と学校 第９回：家庭教育の現在と教育行政 第１０回：社会教育行政 第１１回：学校の危機管理と安全 第１２回：教育改革（１）学校評価・人事評価 第１３回：教育改革（２）学校選択制・小中一貫教育 第１４回：教育改革（３）開かれた学校づくりと学校評議員・学校運営委員会

到達目標	日本と他国の教育制度を比較し、それぞれの特徴、および制度上の問題点などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：事前に配布される資料をもとに、法制度の概略を確認する。 事後学修：講義内容の確認と、実態を調べ、制度と実態について合わせて考察する。
テキスト	『改訂新版　教育行政学』（藤本典裕・勝野正章編、学文社）
参考文献	教育小六法
評価方法	定期試験６０％、リアクションペーパーを３０％、講義内の討論・発言等を１０％として評価する。

13 年度以降	比較教育制度論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、ＶＴＲ教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。	第１回：教育課程と学力問題 第２回：教育課程とは何か 第３回：日本の教育課程(1)小・中・高の教育課程 第４回：日本の教育課程(2)教育課程に関する法規 第５回：教育課程編成の理論と方法(1)教育課程の分類 第６回：教育課程編成の理論と方法(2)経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム 第７回：学習指導要領と教育課程(1)昭和20年代 第８回：学習指導要領と教育課程(2)昭和30-40年代 第９回：学習指導要領と教育課程(3)昭和50-60年代 第１０回：学習指導要領と教育課程(4)平成1-10年代 第１１回：学習指導要領と教育課程(5)現行学習指導要領 第１２回：次期学習指導要領の検討(1)改訂の要点 第１３回：次期学習指導要領の検討(2)カリキュラム・マネジメント 第１４回：教育課程と評価

到達目標	教育課程と学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ、教育課程の全体構造や具体的編成に関する基礎的理論を用いて、よりよい教育課程の在り方を分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと。
参考文献	『中学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）『中学校学習指導要領解説　総則編』（最新版　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）『高等学校学習指導要領解説　総則編』（最新版　文部科学省）その他は、講義の中で紹介する。
評価方法	平常点（５０%、授業内課題を含む)、試験またはレポート（５０%)、総合点６０点以上合格。

03 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度	特別支援教育論	担当者	福田　亜矢子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では教員が学校において、配慮が必要な子どもに対して適切な配慮・指導・支援が行えるよう、障害について理解し支援方法や配慮方法、連携の重要性について学び理解を深める。	第１回：学校において特別な支援を必要とする児童・生徒とは 第２回：通級による指導・特別支援学級による指導とは 第３回：発達障害について１－様々な発達障害の特徴－ 第４回：発達障害について２－特徴から見える配慮する点－ 第５回：発達障害について３－個別指導計画と教育支援計画－ 第６回：発達障害について４－支援方法（情緒に問題のある児童・生徒）－ 第７回：発達障害について５－支援方法（読み書きに問題を持つ児童・生徒）－ 第８回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒の理解と対応の必要性について 第９回：保護者理解について 第１０回：保護者と学校内、関係機関との連携の必要性と支援体制の構築 第１１回：特別支援につなぐ必要性 第１２回：知的障害・病弱・ことばの発達等様々な障害がある児童・生徒の理解 第１３回：配慮が必要な児童・生徒の心の問題 第１４回：不登校にならないためには

到達目標	特別の支援を必要とする児童・生徒への理解を深め適切な配慮、指導、連携をできるようにする。
事前・事後学修の内容	予習復習を行うこと。
テキスト	未定。
参考文献	講義内で適宜紹介する。
評価方法	定期試験（８０%）、授業内で実施提出する小レポート（２０%）

19 年度以降	特別支援教育論	担当者	福田亜矢子

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育心理学	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
教育心理学は「教育評価」、「学習の過程」、「発達」、「人格・適応」という４領域に大別される。そこで、これら４領域を中心に講義をおこなっていく。 ※なお、夏季集中授業としても開講されます。履修登録は春学期に行ってください。修得した場合には、春学期科目として認定されます。日程は以下の通りです。 時間割コード：22538 開始学年：1学年 担当：利根川明子 教室：A-306 日時：8月5日（月）2～5時限 6日（火）2～5時限 7日（水）2～5時限 8日（木）2～3時限	第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：評価の観点と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習への動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：成熟と学習（発達の規定因） 第１１回：発達段階と発達理論 第１２回：発達課題と人格的発達 第１３回：軽度発達障害の理解と支援 第１４回：学校適応と心理アセスメント

到達目標	子どもの発達や学習、学校適応に関わる心理学の基礎的知識を理解し、学校現場において生じる諸問題に対して心理学的視点で検討のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示された各回の内容を参考文献をもとに事前に学修する。事後にあっては授業内容について参考文献 を参照し各自でまとめる。また、授業にて事前・事後学修として個別に指示した課題も含まれる。
テキスト	テキストは使用しない。必要な資料は配付する。
参考文献	授業のなかで関連文献を紹介する。
評価方法	試験（８０%）および課題レポート（２０%）の成績をもとに評価をおこなう。

13 年度以降	教育心理学	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13～18 年度	カウンセリング論	担当者	白砂　佐和子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、カウンセリングの基礎理論となる臨床心理学の視点から、心理療法の基本について考えていく。つまり、心理療法／カウンセリングとは何か、なぜ人が「治る」のか、「治る（変わる）」とはどういうことか、健康／病気とは何を意味するのか、人が人を理解するとはどういうことなのかといったことを、受講者自身のこころを通して体験的に考えることを目指す。受講者の意識や無意識と向き合っていくことになるので、授業への主体的な参加が求められる。	１．　授業の概要 ２．　カウンセリング・心理療法の序論 ３．　カウンセリング・心理療法とは ４．　カウンセリング・心理療法　Ｑ＆Ａ ５．　無意識と精神分析 ６．　無意識と精神分析・その展開 ７．　人のこころのなりたち（乳幼児） ８．　人のこころのなりたち（幼年期） ９．　人のこころのなりたち（児童期以降） １０．こころの傷と心理療法 １１．こころの傷と心理療法（事例） １２．事例（１）子ども １３．事例（２）思春期以降 １４．まとめ

到達目標	カウンセリングに関する諸理論を習得し、実際のカウンセリングに応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分自身と向き合うことになるので、自身の関心のありどころをよく確認すること
テキスト	授業のなかで適宜紹介する
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
評価方法	授業の出席状況とレポート（５割）・期末試験（５割）

13～18 年度	パーソナリティ理論	担当者	白砂　佐和子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、臨床心理学の視点からの、人格の理解について講義する。なぜ人のこころは複雑なのか、そして、人が人を理解するということはどういうことなのか、人はなぜ理解されることを必要としているのか、ということを、一人一人が、自分自身を通して考えていくことを目的とする。そのなかで、家族・親子関係、無意識、対人緊張、自己愛、コンプレックスなどのテーマに触れることになる。	１．　授業の概要 ２．　パーソナリティの考え方 ３．　パーソナリティの考え方・応用編 ４．　心理検査の実際（１）質問紙 ５．　心理検査の実際（２）描画法 ６．　無意識とパーソナリティ ７．　分析心理学とパーソナリティ ８．　自己愛とパーソナリティ ９．　コンプレックスとパーソナリティ １０．青年期とパーソナリティの特徴 １１．青年期とパーソナリティの課題 １２．事例（１）家族の課題 １３．事例（２）青年期の課題 １４．まとめ

到達目標	ヒトの人格や性格、気質を研究対象とするとパーソナリティ研究の理論、形成、発達等について理解し、実際の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分自身と向き合うことになるので、自身の関心のありどころをよく確認すること
テキスト	授業のなかで適宜紹介する
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
評価方法	授業の出席状況とレポート（５割）・期末試験（５割）

13 年度以降	学校カウンセリング	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
教員が学校で生徒と接する際に必要とされる教育相談の基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について実際に考える機会を設ける。	第１回：教育相談とは何か 第２回：教師が行う教育相談の特徴 第３回：カウンセリングの理論① －来談者中心療法とカウンセリングマインド 第４回：カウンセリングの理論② －その他の理論 第５回：カウンセリングの理論③ －カウンセリングの体験 第６回：予防的カウンセリング① －構成的グループエンカウンター 第７回：予防的カウンセリング② －ソーシャルスキルトレーニング 第８回：思春期の心の発達と危機 第９回：教育相談の実際①：いじめ 第１０回：教育相談の実際②：不登校・ひきこもり 第１１回：教育相談の実際③：非行 第１２回：教育相談の実際④：発達障害の理解と支援 第１３回：教育相談の実際⑤：精神障害の理解と支援 第１４回：教育相談の実際⑥：保護者との協調

到達目標	学校カウンセリングの基礎的知識と技法を習得し、教育現場において適切な指導や支援ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示された各回の内容を参考文献をもとに事前に学修する。事後にあっては授業内容について参考文献を踏まえて再度まとめる。また、各教員が授業にて事前・事後学修として個別に指示した課題も含まれる。
テキスト	特に定めない。毎回授業内容に関連するプリントを配付する。
参考文献	授業中に適宜資料を配付する。
評価方法	定期試験（７０%）、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー（３０%）

18 年度以前	学校カウンセリング	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（教師と語る）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
1．目的 : 教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2．概要 : 教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会に必ず参加して下さい（参加費は9000円程度）。研究会に終日参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3．教室での講義は8 回程度とします。初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。メールアドレスは、 hkawamur@dokkyo.ac.jp です。 4．教職課程に登録している必要はありません。 5．履修登録の上限を30 名とします。	1　講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2　実践記録を読む（小学校低学年） 3　同上（小学校中学年） 4　同上（小学校高学年） 5　同上（中学校） 6　同上（進路指導） 7　同上（文化祭指導） 8　研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12月7日・8日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	紹介された文献を読む。
テキスト	高橋陽一他編『新しい生活指導論と進路指導』（武蔵野美術大学出版局）
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	最終レポート（100%）によります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
認知科学は，人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり，その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは，とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また，授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい，その結果をまとめて，授業にてレポート発表してもらう予定である。 授業内容は，まず，人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに，動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに，近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める	1．認知科学とは（授業概要） 2．認知科学の歴史 3．視知覚の特性①（概説） 4．視知覚の特性②（実験演習１） 5．視知覚の特性③（レポート発表） 6．音の知覚 7．言語と脳（脳の機能局在） 8．言語と脳（言語野） 9．認知工学と脳 10．記憶のしくみ①（記憶の過程） 11．記憶のしくみ②（実験演習２） 12．記憶のしくみ③（レポート発表） 13．記憶のしくみ④（記憶の処理水準） 14．記憶のしくみ⑤（実験演習３と課題レポート）

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示した各テーマについて事前に学習するとともに、各テーマについてデータ収集等の課題をおこなってもらう。事後には講義内容を踏まえて調査レポートなどを作成してもらう。
テキスト	授業にて必要な資料は配付する。テキストは使用しない。
参考文献	各回の授業内容により参考文献は異なるため適宜紹介する
評価方法	授業内レポートを 50%、課題レポートを 50%として総合評価する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容と同一である。上記を参照してください。	

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト	春学期と同じ
参考文献	春学期と同じ
評価方法	春学期と同じ

13～18 年度	人間発達科学特殊研究（社会心理学 a）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a、bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1. イントロダクション　:「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知（1）: 人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知（2）: ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1) : 個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2) : 差別は集団からうまれる 7. 自己（1）: 自分はどんな人間か 8. 自己（2）: 自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容 : 好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響（1）: 集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響（2）: 規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響（3）:「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響（4）: そして集団全体が動き出す 14. 社会的影響（5）: 人間の力

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）他
評価方法	中間レポート 30%，授業内テスト 70%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13～18 年度	人間発達科学特殊研究（社会心理学 b）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a、bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1. イントロダクション :「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1) : 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2) : コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3) : コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1) : ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2) : つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3) : つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1) : 互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2) : 表情と感情 11. 社会的感情(3) : 生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1) : 健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2) : 感染予防ための挑戦 14. 社会心理学の未来

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）他
評価方法	中間レポート 30%，授業内テスト 70%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目的とします。授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動（室内） 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動（屋外） 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 イベント企画作成の手順 8 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 9 イベント企画案の作成開始、調査 10 イベント企画案決定とプレゼンテーション準備 11 イベント企画プレゼンテーション 12 イベントの実施 13 イベントの評価とまとめ 14 授業のまとめ

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（60%）、小レポート・期末レポート（30%）、企画コンテスト（10%）を評価します。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] スポーツコーチ学のなかで特に普及の為のスポーツ指導について、実践・実習をすることを目的とする。 [概要] 第3週より第13週まで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1. 受講ガイダンス 2. スポーツ指導の概念と受講カード作成 3. ゴール型スポーツの研究 4. フットサル 5. バスケットボール 6. ハンドボール 7. ネット型スポーツの研究 8. バドミントン 9. バレーボール 10. 卓球 11. タグラグビーの紹介 12. アルティメットの紹介 13. インラインホッケーの紹介 14. スポーツ指導の評価

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツマネージメント）	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及過程を理解して“今何が求められているのか?”という問いの答えを模索する。そこで、体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における諸問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。具体的には、アメリカ４大プロスポーツの中でも最も成功していると言われている NFL を中心にプロスポーツのマネジメントを日本のプロスポーツと比較しながら理解する。また、NCAA やヨーロッパサッカーなどの巨大組織のみならず、アダプテッド・スポーツ、2020 年の東京オリンピックなども取り扱う。 さらには、マネジメントの観点から、自身の健康維持・増進、現代社会において問題視されているメンタル・マネジメントについても論を広げていく。以上のような内容を学びながら、PDCA・サイクルなどの問題解決法の習得を狙い、スポーツ関連のみならず、様々な状況に対して準備を怠らない考えを享受し、最適なライフ・マネジメントを構築できるようにする。	１．　オリエンテーション ２．　スポーツマネジメントの概要 ３．　我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 ４．　体育とスポーツ教育学 ５．　健康マネジメント ６．　メディア＆コマーシャリズム ７．　スポーツビジネスのマネジメント ８．　オリンピックのマネジメント ９．　スポーツ・マーケティング １０．北米における学生スポーツの発展 １１．プロスポーツとアマチュアスポーツ １２．我が国における学生スポーツのマネジメント １３．アダプテッド・スポーツ １４．高度競技スポーツにおけるマネジメント

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。
テキスト	適宜講義内で配布する。
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加度・貢献度 50%　レポート 30%　小テスト 10% 授業での発言 10%

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（ボランティア論）	担当者	中條　共子

講義目的、講義概要	授業計画
友人の困り果てた様子を見て、人ごとは思いつつ、つい「仕方ない、助けてやるか」と手を貸したことはないだろうか。結果、あまりにも大変な事態に遭遇し、それでも手を引くことができなくて、つらい思いをしたことはないだろうか。 私たちはときに、困難を示す他者の声や顔に突き動かされて、困難の渦中に身を投じる。そして他者を知り、仲間を得、それまで生きてきた平穏な世界への異なるまなざしを手に入れる。本講義が扱う「ボランティア」とは、そういう経験である。 本授業では、多様なボランティア実践を紹介し、この営みがどのような過程を通して生み出され、どのような意味を担ってきたのかを多角的に考察する。そして、受講生がボランティアの価値を見出す契機となることを目指す。	1.「ボランティア」のプロフィール 2. 人はなぜボランティアするのか 3. 子ども支援 4. 有償ボランティア 5. ボランティア・システム 6. 社会変革のビジョン 7. ボランティアと非営利組織 8. アメリカのボランティア 9. イギリスのボランティア 10. アジアのボランティア 11. 貧困とボランティア 12. 国際協力の非営利組織 13. 非営利組織の運営 14. 社会的企業

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーにより講義内容の理解を確認する。
テキスト	テキストは指定せず、毎回レジュメと資料を配布する。
参考文献	初回授業において示す。
評価方法	リアクションペーパーの提出・内容（50%）、まとめのレポートの提出・内容（50%）により評価する

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツパフォーマンス分析）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、またスポーツ動作の解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへのかかわり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際のスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので室内および屋外用スポーツシューズと運動に相応しい服装を用意すること	1. ガイダンス 2. 運動強度測定（屋内スポーツ：グループワーク） 3. 運動強度測定（屋外スポーツ：グループワーク） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践－屋内（グループワーク） 9. 動作分析の実践－屋外（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 成果発表（グループ①、②） 13. 成果発表（グループ③、④） 14. 成果発表（グループ⑤、⑥）

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）
参考文献	『コーチング学への招待』『運動生理学の基礎と発展』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度 13～18 年度	社会学概論 I 社会学 I	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。	1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）──A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）──E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）──M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）──コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）─ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）──第一次集団 9. Identity形成と社会（1）──鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）──重要な他者 11. Identity形成と社会（3）──マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）──未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. まとめ

到達目標	「社会学」という学問が成立した経緯をふまえて、社会学的な分析の仕方、社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズム等を理解し、多文化社会における自己と他者について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に私が私であることを証明するものはなにか、考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

19 年度 13～18 年度	社会学概論Ⅱ 社会学Ⅱ	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」──E.フロム 3. 同調様式の 3 類型──D.リースマン 4. 都市化と移民──W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説──E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題──R.パーク 7. 予言の自己成就──R.K.マートン 8. 誇示的消費──T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論──L.フェスティンガー 10. 文化的再生産──P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ──A.ギデンズ 12. 現代社会を社会学的にみる（1）情報技術とメディア 13. 現代社会を社会学的にみる（2）グローバル化 14. まとめ

到達目標	社会学の学説をふまえて、近代社会が抱える問題や、多文化の共生を視野に入れながら、現代の日本社会が直面する課題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

13 年度以降	文化人類学 I	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学への入門授業である。学問としての成り立ちや、主要な関心に触れながら、文化人類学の基本概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求めるまた授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。小課題は原則小レポートであるが、一部調査課題を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 未開とは何か 3. 文化と文明 4. 言語と文字 5. 日常と非日常 6. 通過儀礼 7. 年齢と分類 8. タブー 9. 宗教と人類学 10. ジェンダーと人類学 11. 家族・親族 12. 贈与と交換 13. 伝統の創造 14. まとめ

到達目標	文化人類学の誕生の歴史を理解し、「文化」の概念を「自然」の概念から明確に切り離して分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』(有斐閣)。その他のものは授業内で指示する。
参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）[30%]、小課題［70%］を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	文化人類学Ⅱ	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した文化人類学の基本概念をふまえて、応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を学ぶ。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらう。特に秋学期は主体的に課題をこなすことが重要となる。また授業中、あるいは期限を設定して小課題を課すことがある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。 この授業は原則として文化人類学 I を履修していることを前提とする。そのため早い段階で文化人類学についての基礎知識をチェックするテストを行う（これも小課題の一つとして評価に含める)。	1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 基礎知識のチェック 5. 自然とは何か 6. 可視化・単純化 7. 可視化：再説 8. 調査実習：可視化に関わる課題 9. 可視化と地域知 10. 調査実習：文化に関わる課題 11. 地域知と実践知 12. 調査実習：地域知に関わる課題 13. 地域の中の多様なアクター 14. まとめ

到達目標	文化人類学の「実地調査」について理解し、さまざまな社会の慣習について、どの点が「文化」であるかを指摘したうえで分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教材は原則として教員が用意・配付する。
参考文献	『文化人類学キーワード』は参考資料とする。その他のものは適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）[30%]、小課題［70%］を評価対象とする。授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

19 年度 13～18 年度	倫理学概論 I 倫理学 I	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は倫理論理の諸説を考察し、倫理学の基礎を探求する。功利主義、義務論、徳倫理学、私的と公的、正義と平等、共生倫理学を取り上げ、実生活の諸問題に向けて分析する。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。	1. イントロダクション 2. 倫理学の定義と方法論 3. 功利主義 I ：快楽と苦痛 4. 功利主義 II ：J. S. ミル 5. 義務論 I ：義理と義務 6. 義務論 II ：カント 7. 徳倫理学 I ：古代ギリシャからマッキンタイアまで 8. 徳倫理学 II ：マッキンタイア以降 9. 私的と公的 I ：滅私奉公から滅公奉私へ 10. 私的と公的 II ：活私開公から公共哲学へ 11. 正義と平等 I ：古代ギリシャからロールズまで 12. 正義と平等 II ：ロールズ以降 13. 共生倫理学 I ：エゴイズムから共生へ 14. 共生倫理学 II ：シンバイーシスとコンヴィヴィアリティイントロダクション

到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代の倫理的諸問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

19 年度 13～18 年度	倫理学概論 II 倫理学 II	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。科学技術、環境、医療、情報、そしてビジネス倫理学を取り上げ、実社会の諸問題にどう向き合うかと考えていく。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。	1. イントロダクション 2. 応用倫理学の定義：論理と応用 3. 応用倫理学の方法論：観念と事例 4. 科学技術倫理学 I ：定義と起源 5. 科学技術倫理学 II ：安全と安心 6. 環境倫理学 I ：定義と方法 7. 環境倫理学 II ：自由と義務 8. 医療倫理学 I ：定義と原則 9. 医療倫理学 II ：自律と他律 10. 情報倫理学 I ：定義と課題 11. 情報倫理学 II ：私益と公益 12. ビジネス倫理学 I ：定義と背景 13. ビジネス倫理学 II ：商業と道徳 14. ビジネス倫理学 III ：企業と責任

到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代における犯罪あるいは生命倫理的問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

19 年度	外国史概論Ⅱ	担当者	久慈　栄志

講義目的、講義概要	授業計画
西欧における「近代化」過程の歴史を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察し、その特質と功罪について検証する。また、「和魂洋才」の語が示す通り、明治維新以後、わが国が西欧から受容し、「血や肉」とした文物は計り知れない。今日の日本社会においても大きな影響を与えている西欧の「伝統」とは何なのか？このことを宗教・政治・経済の諸革命を通して考察する。また、現代における歴史学の果たす役割についても論じてみたい。 ・　小川　哲／上垣　豊／山田史郎／杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史（近現代）』（ミネルヴァ書房） ・　中井義明／佐藤専次／渋谷　聡／加藤克夫／小澤卓也編『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房） ・　遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会） ・　永原陽子／南塚信吾他編『「世界史」の世界史』（ミネルヴァ書房）	1．オリエンテーション 2．古典古代に見る歴史叙述の特徴 3．中世世界における歴史観とは何か 4．啓蒙期における人間中心史観とは何か 5．近代後期、経済発展にともなう価値観の変化 6．「近代」の概念について 7．宗教改革前夜のカトリック教会の状況 8．宗教改革に見る革新性と、インパクトについて 9．英仏市民革命、原因・経過の共通性をさぐる 10．英仏両革命に見る理念・国民性の差異を考える 11．産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾 12．社会主義の理念とその限界 13．「近代化」とは何だったのか～その変質を考える 14．帝国主義と世界再分割～経済的矛盾の「武力による打開」と「差別意識」について

到達目標	中等教育諸学校において、社会および歴史の授業を行う際に必要とされる西洋史の通史的展開、外国史の学習を通じた世界史教育の意義、異文化理解の複雑性などについて、主体的に解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に高校レベルの基礎知識は各自補っておくこと。また、各テーマの目的を理解した上で授業に臨み、不明な箇所な質問してほしい。
テキスト	授業中に配布する。
参考文献	上記参考文献中、２冊程度は目を通してほしい。また、高校世界史教科書・図録なども有用である。
評価方法	定期試験（記述形式。ノート持ち込み不可）85%、授業への参加態度 15%により評価

19 年度	外国史概論 I	担当者	兼田　信一郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，はじめに現代中国の地理的特徴や近年の中国事情を概観した後，新石器時代から唐宋変革期までの歴史展開を，①政治史，②郷里社会の展開，③周辺諸族との関係，を軸に概観していきます。つまり，単に政権の変遷を概観するだけでなく，それぞれの時代の基層社会の展開を見ることで，伝統中国社会の特質の一端にふれてみたいと思います。さらに，中国を中心とする地域的世界がどのように成立し、独自の歴史展開をしていったかも併せて考えてみたいと思います。 なお，付論として、宋代以降の中国社会の歴史的展開にも触れてみたいと思います。また，中・高校の教育職を目指す場合，新たに導入される「暦総合」を含めどのような歴史教育が必要となっているかということも考えてみたいと思います。	1.　オリエンテーション 2.　現代中国概況（地誌・現代中国社会の諸問題） 3.　中華文明の形成（新石器時代～殷周時代） 4.　最初の社会変動と小農民の登場（春秋戦国時代） 5.　皇帝支配の成立・周辺諸族との関係（秦漢時代１） 6.　皇帝支配と郷里社会（秦漢時代２） 7.　統一政権の崩壊と社会変動（後漢～西晋時代） 8.　周辺諸族の侵入と長期分裂（東晋十六国南北朝時代） 9.　中国社会の再統一と東アジア世界の展開（隋時代） 10.　唐帝国の盛衰１（律令制支配の特質） 11.　唐帝国の盛衰２（律令制の崩壊と基層社会の変化） 12.　宋代以降の展開 13.　歴史研究と歴史教育のあいだ（東アジア史の授業） 14.　中国社会の特質（まとめ）

到達目標	中等教育諸学校において、社会および歴史の授業を行う際に必要とされる東洋史の通史的展開、外国史の学習を通じた世界史教育の意義、異文化理解の複雑性などについて、主体的に解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に参考文献の指定部分を読むこと、事後に各回のレジュメに掲げた論述問題の解答を各自作成する。
テキスト	授業中配布のレジュメ。
参考文献	岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年 9 月
評価方法	授業参加評価（30%）と筆記試験（70%）で評価する。

13 年度以降	文化史入門	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらを包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例に取り上げ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもあるので積極的に参加して下さい。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　動力とエネルギー源（奴隷労働の意義） ３．　水の供給と浴場（テルマエ・ロマエ） ４．　船と海上輸送（三段櫂船と商船） ５．　陸上輸送（一般道と高速道） ６．　造形芸術：建築と彫刻（アルカイック・スマイル） ７．　文学の世界：叙事詩と演劇（ギリシア悲劇の普遍性） ８．　宗教と祭祀：神々と人間（ギリシア神話とは何か？） ９．　同性愛と稚児愛 １０．結婚と家の継承 １１．競技（アゴン）的人間類型：理想的人間とは？ １２．民主政の中のデマゴーグの存在 １３．ポピュリズムと政治 １４．春学期のまとめ

到達目標	広義の文化史と狭義の文化史について理解し、個々の文化事象とそれらを生み出した社会との関係を関連付けて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。毎回出される課題に答えて授業後、あるいは次回に提出して下さい。宿題にすることもあります。
テキスト	テキストは使わず、プリントを配布します。
参考文献	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題提出２０％、授業の参加度２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	東洋思想史 I	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的に今学期は、日本にも大きな影響を及ぼした仏教と儒教が、それぞれインドと中国でどのように誕生しその後発展していったかを中心的に扱う。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　（インド）古代インドの思想 3.　（インド）原始仏教１：釈迦 4.　（インド）原始仏教２：五蘊・縁起 5.　（インド）大乗仏教１：大乗経典 6.　（インド）大乗仏教２：中観派・唯識派 7.　（チベット）チベット仏教 8.　（中国）諸子百家の登場 9.　（中国）孔子・儒教 10.　（中国）孟子・荀子 11.　（中国）朱子・王陽明 12.　（中国）墨子 13.　（中国）老子 14.　（中国）荘子

到達目標	インド古代思想および中国古代思想の代表例を理解し、古代東洋思想が現代の日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

13 年度以降	東洋思想史Ⅱ	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、東洋という大きな文化圏の古代からの思想史を学ぶことによって、現代の日本における私たちの考え方や社会の特性への理解を高めることである。具体的に今学期は、インドと中国で誕生した仏教・儒教等がどのように日本に影響を与えてきたか、古代から現代までの日本思想史を通して見ていく。 私たち自身の考え方や私たちが生きる社会の特性を自覚することは、国際社会において活躍する際に強みとなる。各文化の芸術作品が美というものを多様な形で表しているように、多様性があるからこそ互いを補い世界を豊かなものにできるという意識をこの講義を通して養ってほしい。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　古代日本の宗教観・人間観 3.　仏教の受容、平安時代の仏教 4.　鎌倉時代の仏教 5.　江戸時代の儒教 6.　江戸時代の民衆の思想 7.　国学・神道・洋学・幕末の思想 8.　啓蒙思想、キリスト教、国粋主義 9.　人間解放の思想 10.　近代的自我：ロマン主義・理想主義の文学 11.　京都学派１：西田幾多郎 12.　京都学派２：和辻哲郎 13.　民衆の伝承と自然環境の保存 14.　戦後の日本の思想

到達目標	中世・近世中国思想、近世現代日本思想の代表例を理解し、中世・近世・現代の東洋思想が現代の日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小課題 50%、期末レポート 50%

13 年度以降	文明史研究Ⅰ	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　講義全体をとおして、文明とは何かを考えていくことを目的とします。多彩な文明を作り出してきた人類の歴史について、はば広く学んでいきます。それにより多角的な視野を獲得し、現代社会を生きていく上で求められる国際的な教養や自らの価値観、世界観を築き上げていくことを目指します。 【講義概要】 　ヨーロッパに焦点を当て、その歴史や文明を学んでいきます。講義のみならず、映像資料も使用します。 　また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	１．　ケルト ２．　古代ギリシア ３．　古代ローマ ４．　キリスト教の誕生 ５．　中世（前期） ６．　中世（後期） ７．　大航海時代 ８．　ルネサンス ９．　オランダの繁栄 １０．ヨーロッパ諸国の海外進出と奴隷制 １１．革命の時代 １２．第一次世界大戦 １３．第二次世界大戦 １４．戦後の世界

到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ギリシア・ローマ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	文明史研究Ⅱ	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　同上。 【講義概要】 　前半は、文明や人間というものについて、自ら考えるためのヒントとなる様々な課題やテーマを取り上げていきます。映像資料も使用する予定です。 　後半は、海外の人たちに日本について語ることができるようになることを目指して、日本に的を絞ります。古墳時代にいたるまでの社会の変遷を講義していきます。 　また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	１．　イントロダクション ２．　人類の誕生 ３．　創造力と芸術の誕生 ４．　農業の誕生と発展 ５．　国家と支配 ６．　お金の誕生と発展 ７．　旧石器時代（１）氷河期の日本列島 ８．　旧石器時代（２）社会と生活 ９．　縄文時代（１）土器の発明 １０．縄文時代（２）定住と社会 １１．弥生時代（１）稲作と社会の発展 １２．弥生時代（２）金属器の発展と戦争 １３．古墳時代（１）巨大墳墓と支配の確立 １４．古墳時代（２）一般人の生活

到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ヨーロッパ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	科学史 I	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 春学期は、古代から１７世紀の科学革命を経て、「科学者(scientist)」という言葉が登場した１９世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、科学とはなにか 2. タームペーパーの書き方について 3. 科学的な考え方の始まり（古代） 4. 地中海世界からアラビア世界へ 5. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 6. 宇宙観の転換―天動説から地動説へ 7. 魔術と科学 8. 機械論的自然観の登場 9. ニュートンと科学革命 10. 科学アカデミーの誕生と展開 11. 科学史における女性 12. 産業革命と科学 13. フランス革命と科学 14. 「科学者（Scientist)」の誕生

到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

13 年度以降	科学史 II	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist)」という言葉が登場した１９世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得してく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、“Scientist”とは誰か 2. タームペーパーの書き方について 3. 蒸気機関と熱力学の誕生 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開

到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

13 年度以降	科学技術基礎論 I	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、専門分化が極度に進行しているため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。だが、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働することの意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。	1. イントロダクション、生命とは何か 2. タームペーパーの書き方について 3. いつから生命か 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. ゲノム編集時代の到来 8. 優生学について 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何か―オゾンホール問題を例に 14. 科学技術と倫理

到達目標	各種の科学技術を一般的に理解し、そうした技術の応用が人間の生活、文化、社会がどのような影響、変化を及ぼすかについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	数学 I	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。 なお、2016年度以前の数学Ⅱと同じ内容になります。制度上数学 I の既修者は履修できませんが、聴講することは可能です。また、2016年度以前の数学Ⅱ履修者は履修することができません。	1. はじめに／場合の数と集合 2. 場合の数と集合／順列・組合せ 3. 順列・組合せ／標本空間と事象 4. 標本空間と事象／確率 5. 確率／余事象の確率、独立試行の確率 6. 余事象の確率、独立試行の確率／条件付確率と事象の独立 7. 条件付確率と事象の独立／確率変数と確率分布 8. 確率変数と確率分布／確率密度関数 9. 確率密度関数／確率変数の期待値 10. 確率変数の期待値／確率変数の分散 11. 確率変数の分散／二項分布 12. 二項分布／正規分布 13. 正規分布／まとめ 14. 問題演習

到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。
テキスト	授業最初にプリント配布
参考文献	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価します。

13 年度以降	数学Ⅱ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において存在するまとまった数値や符号の集合体の性質を解析する「統計学」の基本的な考え方を学び、大学での学習や社会に出てからの仕事で必要となる統計処理の初歩を身につけることを目的とします。 最初に、集合体の性質を決める情報がすべて得られる場合の「記述統計」、次に、情報がすべて得られない場合の「推測統計」を扱います。推測統計では確率の考え方が応用されますので、まず、そこで使われるいくつかの確率分布について解説し、その後、それらを基にした推定や検定といった解析手法を紹介し、同時に課題演習も行います。 計算はコンピュータで行いますが、統計処理された数値の意味を把握するため、統計解析ソフトは使いません。 なお、2016年度以前の数学Ⅱ既修者は制度上履修できませんが、聴講することは可能です。	1. はじめに／１変量データーデータの整理 2. １変量データーデータの整理 3. １変量データーデータの特徴 4. ２変量データ 5. 母集団と標本／確率分布－連続型確率分布 6. 確率分布－χ^2分布 7. 確率分布－t分布、F分布 8. 不偏推定量 9. 母平均の区間推定 10. 母分散の区間推定 11. 母平均の検定 12. 母平均の差の検定 13. 等分散性の検定 14. 問題演習

到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題の解答をポータルサイトと「授業レポートシステム」で確認、復習しておいてください。
テキスト	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
参考文献	なし
評価方法	授業最後の課題 20%、学期最後の問題演習 80%により評価します。

13 年度以降	物理学 I	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。	1.　はじめに／力と運動１－物体の運動 2.　力と運動１－物体の運動 3.　力と運動２－物体に働く力 4.　力と運動２－物体に働く力／力と運動３－運動の法則 5.　力と運動３－運動の法則 6.　力と運動４－万有引力 7.　熱１－温度と熱 8.　熱２－熱と分子運動 9.　波動１－媒質の振動と波 10.　波動２－音波と光波 11.　電磁気１－電気と磁気 12.　電磁気２－電流と磁場 13.　電磁気３－電磁誘導 14.　電磁気４－電磁波

到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

13 年度以降	物理学Ⅱ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ｉ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	1.　はじめに／時間と空間１－相対運動と電磁場 2.　時間と空間２－電磁気学と相対性原理 3.　時間と空間３－ローレンツ変換 4.　時間と空間４－４次元不変量 5.　時間と空間５－等価原理 6.　時間と空間６－時空の歪み 7.　時間と空間７－ブラックホール 8.　物質の究極像１－元素と原子 9.　物質の究極像２－原子の構造 10.　物質の究極像３－前期量子論 11.　物質の究極像４－量子力学 12.　物質の究極像５－観測の問題 13.　物質の究極像６－素粒子論 14.　物質の究極像７－統一理論

到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

13 年度以前	天文学 I	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、恒星や太陽、惑星の見かけの運動のような肉眼で観察できる現象から話を始め、ケプラーの法則、太陽系の様々な天体、太陽系・惑星の形成と話を進める。 身近な天文現象をとおして宇宙に興味を持ってもらうこと、広大な宇宙の中で太陽系とはどのような天体なのかを理解することが講義の目標である。	1　講義内容の紹介、天文学の紹介 2　宇宙観の変遷と現代の太陽系像 3　天球と日周運動 4　太陽の年周運動 5　惑星の見かけの運動 6　会合周期と惑星の公転周期 7　ケプラーの法則の概要とケプラーの第一法則 8　ケプラーの第２法則と第３法則 9　ニュートンの万有引力の法則 10　太陽系の天体１　太陽 11　太陽系の天体２　惑星とその衛星 12　太陽系の天体３　小惑星と彗星、太陽系の外縁 13　太陽系の形成 14　太陽系外惑星について、まとめ

到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	指定しない。資料を配布する。
参考文献	『新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』』　小森長生著　東海大出版会
評価方法	試験 90%，授業への貢献 10%

13 年度以前	天文学Ⅱ	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目標は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することと、我々と恒星の関係を理解することである。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点のひとつは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1　講義内容の紹介 2　星の見かけの明るさ 3　星までの距離 4　星の光度と絶対等級 5　星のスペクトルと表面温度 6　ヘルツシュプルンク・ラッセル図と色等級図 7　星の半径と質量 8　星のエネルギー源 9　星の誕生 10　主系列星の性質 11　主系列星以後の変化 12　惑星状星雲と白色矮星 13　中性子星とブラックホール 14　超新星の話、まとめ

到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	指定しない。資料を配布する。
参考文献	『天文学入門 星とは何か』　中嶋浩一著　丸善
評価方法	試験 90%，授業への貢献 10%

13 年度以降	生理学 I	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。私たちのからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 本講義では身体の仕組みや機能について概説する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎 - ホメオスタシスって - 3. 血液・体液 - 体の中に海？ - 4. 呼吸・循環 - 息して生きてる・高血圧低血圧 - 5. 消化・吸収 - 食べ物の行方 - 6. 代謝・体温 - からだを温めると健康によい？ - 7. 内分泌 - ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経 - 「運動神経」がない人はいない！ - 9. 感覚 - 第６感？ - 10. 筋・骨 - からだの屋台骨 - 11. 免疫 - からだの防衛隊 - 12. 睡眠 - どうして眠るの？ - 13. 「からだ」の情報交換会（グループ発表①②③） 14. 「からだ」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥）

到達目標	生命現象や生体機能の仕組、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ２生理学』『イラストでまなぶ生理学』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

13 年度以降	生理学Ⅱ	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学 I で学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期の生理学Ⅱでは私たちの身体の中枢である脳とその機能に焦点をあてて講義する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄） 4. 末梢神経系 5. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 6. 体性感覚・嗅覚 7. 味覚・視覚 8. 聴覚・平衡感覚 9. 脳と睡眠 - なぜ眠る？ - 10. 学習と記憶 11. 脳・脊髄による運動制御 12. 情動 - 好き嫌い - 13. 「脳機能」の情報交換会（グループ発表①②③） 14. 「脳機能」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥）

到達目標	生命現象や生体機能の仕組、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『神経科学テキスト 脳と行動』『神経科学－脳の探求－』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

13 年度以降	地球環境論 I	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　我々の暮らしと自然環境 3　地球の成り立ちと地形 4　地球の周りの気団と気候 5　地球の植生と土壌 6　地球に暮らす様々な生き物 7　熱帯地域の人々の暮らと文化 8　焼畑農業と熱帯の稲作 9　熱帯開発と環境問題　拡大する焼畑 10　熱帯開発と環境問題　進む違法伐採 11　乾燥帯地域の人々の暮らしと文化 12　一神教と自然環境 13　資源ナショナリズムの台頭 14　中東問題の遠因と現状

到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的や見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には学習内容を復習する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	和辻哲郎『風土　人間学的考察』岩波書店
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	地球環境論 II	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　温帯地域の特徴と人々の暮らし 3　地中海性気候の人々の暮らしと文化 4　大陸西岸気候の人々の暮らしと文化 5　モンスーン気候の人々暮らしと文化 6　北米温帯地域の人々の暮らしと文化 7　ネイティブアメリカンの暮らしと文化 8　北方狩猟民族の暮らしと文化 9　寒帯地域の人々の暮らしと文化 10　山地地域の暮らしと文化 11　人口問題と食料 12　越境する大気汚染 13　グローバリゼーションの功罪 14　ファストファッションの光と影

到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的や見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には学習内容を復習する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	和辻哲郎『風土　人間学的考察』岩波書店
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	コンピュータと言語	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報のデジタル化 2. オペレーティングシステムとは 3. データ構造入門 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラミング言語入門 6. コンピュータ・ハードウェア 7. 言葉と言語処理の仕組み 8. 言語処理ための構文解析と言語資源 9. 言葉の意味解析と知識表現 10. 情報検索における言語処理 11. 質問応答システムと対話システム 12. 機械翻訳の原理 13. 講義のまとめ（前半部分の復習） 14. 講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出）

到達目標	人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関係、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組などを理解し、ンピュータ言語を処理できるようにする。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	情報科学各論 I	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
パソコンの基本操作やMicrosoft Office等の基本的なアプリケーションの利用法、電子メールや情報検索等、インターネットの基本的な利用方法を実習する。 今後の学生生活で必要なパソコンのスキルを習得し、安全にインターネットを利用するための知識を学ぶ。	1. 授業の内容の紹介、Windowsの基本操作 2. パソコン基本操作、日本語入力の確認 3. 電子メールとメールのマナーラウザの使い方 4. インターネットの利用とセキュリティ 5. エディタとワープロ、Wordの基本操作 6. Wordによる文書の作成 7. 電子文書とPDF形式、画像ファイル 8. 表計算ソフトとは、Excelの基本操作 9. 簡単な数式、相対参照、絶対参照 10. 基本的な関数 11. Excelを用いたグラフの作成 12. Excelのデータベース 13. PowerPoint：基本操作、スライドの作成 14. PowerPoint：プレゼンテーションの実施

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題を出題する。
テキスト	文科系学生のための情報活用　情報教育研究会編　共立出版
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題 90%、授業への取り組み 10%

13 年度以降	情報科学各論Ⅱ	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
情報科学各論 I で履修する程度のパソコンの知識とスキルを前提として、現実のデータをインターネットから収集し、Excelを用いて分析し、結果を可視化し、Wordでレポートをまとめ、プレゼンテーションのためのスライドを作成するという一連の作業を実習する。 材料として、公表されている国勢調査の人口データを使う。前半では過去のデータを分析し、後半では将来の人口変化をシミュレーションする。シミュレーションといっても、プログラミングをするわけではない。情報科学各論 I で扱うExcelの範囲で十分意味のあるシミュレーションが可能である。	1. 授業の紹介、Excelの基本操作の復習 2. Excelを使った過去の人口の分析 3. 人口分析の続き、結果の可視化 4. 人口ピラミッドの作成 5. 表やグラフを含むレポートの作成 6. 表やグラフを含むプレゼン資料の作成 7. シミュレーションとは、人口シミュレーションの説明 8. 人口シミュレーションのためのワークシートの作成 9. 人口シミュレーションの実行 10. 人口シミュレーションの続き 11. 様々なシナリオによるシミュレーション 12. シミュレーションの結果の可視化 13. レポートの作成 14. シミュレーション結果のプレゼン資料の作成

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料を読んでくる。課題を出題する。
テキスト	資料を配布する。教科書は指定しない。
参考文献	文科系学生のための情報活用　情報教育研究会編　共立出版
評価方法	課題 90%、授業への取り組み 10%

13 年度以降	データ構造とアルゴリズム論	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが，実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである．情報爆発といわれる現代社会において，いかにデータを構造化し，必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である．本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする． 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する．講義内容は，文系の学生でも理解できるように，ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 講義の概要、基礎知識、目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. 代表ソート法１：選択ソート 9. 代表ソート法２：シェールソート 10. 二分探索 11. 平衡木 12. グラフ 13. 動的計画法 14. 授業のまとめ

到達目標	データ構造とアルゴリズムについて理解し、アルゴリズムを駆使したプログラミングができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどを完成して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	参考サイト：http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

13 年度以降	統計と調査法	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 　基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． 授業概要 ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 　私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする．授業期間の後半は，自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し，前半で学んだ理論の応用を試みる．	1.　アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明，統計量の種類（量的変量・質的変量） 2.　度数分布，相対度数，度数分布表，グラフ表現，記述統計と推測統計 3.　代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 4.　クイズ問題解答集計（単純統計，複数回答処理） 5.　対応がない場合の t 検定，分散分析，仮説（帰無仮説，対立仮説） 6.　対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 7.　分割表分析 8.　クイズ問題解答集計（分散分析の応用） 9.　クイズ問題解答集計（分割表分析の応用） 10. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 11. クイズ問題解答集計（ロジスティック回帰分析の応用） 12. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 13. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 14. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析

到達目標	統計学の基礎的概念を理解し、的確な手法を選択して、実際に統計調査ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする．また，課題は必ず提出しなければならない．
テキスト	授業において資料を配付する
参考文献	内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連, 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）．

13 年度以降	データベース論	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義は，Microsoft Office Access を利用して，データベースの概念，設計，構築手法について学習する． 【概要】データベースの歴史から始め，データベースの概念や，設計方法や，構築手法などを解説しながら，Microsoft Office Access というソフトウェイアを利用して，実際の操作を行う．さらに，実習問題を通して，データベースの概念及び設計に対する理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 基本操作（1）：概要 5. Microsoft Office Access 基本操作（2）：検索 6. Microsoft Office Access 基本操作（3）：フィルタ 7. テーブルの構築 8. テーブルの操作 9. クエリウィザード 10. クエリデザイン 11. リレーションシップの構築 12. レポートの印刷 13. 総合演習 14. 授業のまとめ

到達目標	データベースの概念と設計方法について理解し、アプリケーションソフトを用いて、実際にデータベースの操作と構築ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどを解答して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	三好 康之『データベーススペシャリスト 2018 年版』
評価方法	授業の参加態度（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	社会調査法	担当者	田端　章明

講義目的、講義概要	授業計画
「社会調査法」とは、社会学における調査手法の総称です。この講義では社会調査の代表的な手法を紹介し、実習をまじえながら理解を深めていきます。 この講義の目的は2つあります。1つは、現代社会に氾濫するデータとの接し方を理解し、データに振り回されないようになることです。もう1つは、レポートや卒論を書く際に、間違ったデータを引用したり、いいかげんな調査をしたりしないようになることです。 なお、調査法の実習では、自分（たち）でテーマを考え、調査を進めることになります。だからこの講義では、積極的かつ柔軟に疑問に取り組み続けられる人を歓迎します。 ※履修者数などの条件により、授業計画を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。	1. 講義の概要 2. 調査計画（1）調査テーマを提起する 3. 調査計画（2）先行研究を調べる 4. 調査計画（3）仮説を立てる 5. データの収集（1）質問文を作る 6. データの収集（2）回答形式を考える 7. データの収集（3）質問紙を作る 8. データの収集（4）プレテスト、そして実査へ 9. データの分析（1）データ入力とクリーニング 10. データの分析（2）自由回答のコーディング 11. データの分析（3）単純集計とクロス集計 12. データの分析（4）データから知見を引き出す 13. データの分析（5）調査報告書の作成 14. 講義のまとめ

到達目標	統計的、あるいは記述的な調査手法について理解し、実際に社会調査ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業時間外で調査計画の作成、文献調査、データの収集・入力・分析などの作業をしてもらいます。
テキスト	テキストは使用しません。
参考文献	参考文献は授業の中で紹介します。
評価方法	調査報告書 40%、その他の提出物 40%、授業への参加度 20% 。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

19 年度 13～18 年度	世界の宗教と文化－一神教と多神教－ 総合科学特殊研究（世界の宗教と文化－一神教と多神教）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかをさぐることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 講義は、概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。この授業では、細かな年代や事項を知識として知ってもらおうというよりは、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それらについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見が出ることが期待されています。その意味でも、自由な発言ができる雰囲気で進めます。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　メソポタミアの可死の人間と不死の神 ３．　エジプトの来世信仰とピラミッド ４．　一神教革命とツタンカーメンの死 ５．　カナンの宗教 ６．　イスラエルの民とユダヤ教 ７．　ギリシアのオリンポスの神々 ８．　密儀宗教（エレウシスの密儀など） ９．　ヘレニズムの宗教とコスモポリタニズム １０．諸神の習合（シンクレティズム） １１．ローマ帝国とキリスト教の成立 １２．グノーシス主義（正統と異端） １３．多神教から一神教への道筋 １４．秋学期まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。また、毎回出される課題に答えて、授業後あるいは次回に提出して下さい。
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布します。
参考文献	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題２０％、授業の参加度２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（思想と文化）	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は文化、また日本文化とは何かを思想的に考察する。文化の定義、方法論、基礎、構造、さらに現代における多文化世界への意義という五つの課題を取り上げ、近代日本思想家の文化論より、文化そのもの、そして日本文化を再考する。 授業の進行としては、各課題の文献に沿って概説する一方、発表を通して議論する。各自の思索により、新たな文化論を作り出す。	1. イントロダクション 2. 文化の定義 3. 文化の哲学的方法論 4. 文化の基礎Ⅰ：西田幾多郎の文化基礎論 5. 文化の基礎Ⅱ：西田幾多郎の日本文化基礎論 6. 文化の構造Ⅰ：和辻哲郎の風土論 7. 文化の構造Ⅱ：和辻哲郎の日本季節文化論 8. 文化の構造Ⅲ：九鬼周造の民族文化論 9. 文化の構造Ⅳ：九鬼周造の意味体験日本文化論 10. 文化の構造Ⅴ：鶴見俊輔の鎖国文化論 11. 文化の構造Ⅵ：鶴見俊輔の戦後日本文化論 12. 文化多様性の意義Ⅰ：加藤周一の近代文化論 13. 文化多様性の意義Ⅱ：加藤周一の多元文化論 14. 文化多様性の意義Ⅲ：加藤周一の雑種的日本文化論

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

19 年度 13～18 年度	地中海世界の宗教と文化 I 総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 a）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 地中海周辺地域は古代より多彩な文化や世界的な宗教を生み出し、世界史上重要な役割を担ってきました。この地域について学ぶことにより、幅広い世界観を養い、国際的な視野や教養を身につけることを目指します。 【講義概要】 古代ギリシアに焦点を当て、その歴史や宗教、文化について講義していきます。	１．　イントロダクション ２．　ミノア文化 ３．　ミケーネ文化 ４．　初期鉄器時代 ５．　ホメロスと神話 ６．　前古典期 ７．　古典期の歴史と文化 ８．　古典期の宗教とその儀式 ９．　ヘレニズム時代 １０．神殿とその建築 １１．彫刻と神々の像 １２．各聖域とその特性（１）オリンピア １３．各聖域とその特性（２）エピダウロス １４．各聖域とその特性（３）デルフォイ

到達目標	世界史上重要な役割を担ってきた地中海世界の宗教を文化の諸相を学ぶことにより、幅広い世界観を養い、国際的な視野や教養を身に付け、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習すると同時に、興味を持った箇所をさらに掘り下げるべく、参考文献を精読してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を使用します。参考文献は適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

19 年度 13～18 年度	地中海世界の宗教と文化Ⅱ 総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 b）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 同上。 【講義概要】 地中海周辺地域の宗教や文化を幅広く講義していきます。現代にいたるまで多大な影響を与えている地中海周辺地域の多様な歴史や宗教、文化を扱います。	１．　イントロダクション ２．　エトルリアの宗教と文化 ３．　ローマ帝国の宗教と歴史（１）共和政前期 ４．　ローマ帝国の宗教と歴史（２）共和政後期 ５．　ローマ帝国の宗教と歴史（３）帝政 ６．　ユダヤ人の歴史と宗教（１）旧約聖書と歴史 ７．　ユダヤ人の歴史と宗教（２）ローマ帝国の支配 ８．　キリスト教（１）誕生 ９．　キリスト教（２）迫害 １０．キリスト教（３）発展 １１．ビザンツ帝国（１）歴史的概要 １２．ビザンツ帝国（２）ギリシア正教 １３．ノルマン・シチリア王国（１）歴史的概要 １４．ノルマン・シチリア王国（２）宗教的融合

到達目標	世界史上重要な役割を担ってきた地中海世界の宗教を文化の諸相を学ぶことにより、幅広い世界観を養い、国際的な視野や教養を身に付け、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習すると同時に、興味を持った箇所をさらに掘り下げるべく、参考文献を精読してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を使用します。参考文献は適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 a）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
アラブ文化はイスラームを基調としますが、メディアで取り上げられるイスラームに関するニュースの多くは、好いイメージの結びつくものはありません。しかし、メディアで伝えられるイメージと現実の世界実体の間には大きなギャップがあります。現在、グローバル化が進む中、アラブ文化を理解することが、将来、有益であるに違いありません。 本講義では、可能な限り動画資料を取り入れ、イスラームの基礎的な知識はもちろん、アラブ文学・芸術・アラブ人の生き方など、様々な文化的要素を取り上げながら、この地域の全体像をつかめてもらえるようにしたいと考えています。	1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. イスラームとは何か？①（基礎知識） 3. イスラームとは何か？②（現代世界とイスラーム） 4. ムスリムにとってクルアーンとは？ 5. アラブ人の生活と文化①（アラブ人の生き方） 6. アラブ人の生活と文化②（アラブ人の心） 7. アラブ人の生活と文化③（社会・女性） 8. 「アラブの春」は何だったとのか？ 9. アラブ音楽入門 10. アラブ文学（詩と言葉） 11. パレスチナ問題①（文学・芸術を通して見る） 12. パレスチナ問題②ドキュメンタリー 「五つのカメラを壊された」鑑賞・ディスカッション 13. パレスチナ問題③小説　ガッサーン・カナファーニ中編「太陽の男たち」「ハイファ―に戻って」・ディスカッション 14. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ガッサーン・カナファーニの課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ガッサーン・カナファーニ著　「太陽の男たち」「ハイファ―に戻って」読後レポート提出・ディスカッションが評価の大きなポイントになります。
参考文献	講義中に各テーマに適した参考書を紹介します。
評価方法	レポート（70%）、積極的な授業参加とレポート提出後ディスカッション（30%）

13 年度以降	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 b）	担当者	W．イブラヒム

講義目的、講義概要	授業計画
現在流通している中東についての情報は、テロ、石油といった政治・経済面に偏っています。「アラブ文化・芸術 a」に引き続き、本講義では、アラブ文化に関わる基本的なスタンスを取ることを目的とします。それゆえ、授業の前半では、アラブというアイデンティティについて解説、イスラームの金融・政治・異文化に対する考え方を概観します。そして、後半では、様々な面から文化と芸術に触れつつ、日本社会との接点やこれからの関係性について考察を深め、複眼的な観察力を身につけていきます。	1. イントロダクション：概要と目的 2. 世界三大宗教：イスラームと異文化 3. アラブというアイデンティティ 4. イスラームにおける金融と政治 5. イスラーム世界の代表的な歴史家・思想家 （Ibn Khaldun やAl-Qalqashandi） 6. アラブ文学：代表的な作家・知識人 （Taha Hussain, Al-hakim, N. Mahfuz） 7. アラブ世界のポップカルチャー 8. アラブのメディア 9. ノーベル賞作家N.マフフーズの小説「バイナルカスライン」を理解するためのエジプト近代史 10. イスラーム神秘主義（スーフィズム）：イブヌ・アターイッラー師の箴言集 11. イスラーム美術 12. 声の文化・アラブの歌謡曲 13. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル「張り出し窓の町」）読後レポート提出・ディスカッション 14. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの課題図書をできるだけ早く図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ナギーブ・マフフーズ著「バイナルカスライン」（新訳タイトル「張り出し窓の町」読後レポート提出
参考文献	講義中に各テーマに適した参考書を紹介します。
評価方法	レポート（70%）、積極的な授業参加とレポート提出後ディスカッション（30%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（科学技術と社会 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵のゲノム編集のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。2011年3月11日の東日本大震災と、その後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。	1. イントロダクション、科学、技術、社会とは 2. タームペーパーの書き方について 3. 科学技術とイノベーション 4. 科学技術の発達は人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内に指示する
テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	授業で配布する資料に記載する
評価方法	タームペーパー（60%）、授業内に提示する課題（40%）

13 年度以降	総合科学特殊研究（宇宙論 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超越しており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a 」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1. はじめに／宇宙についての基礎知識 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6. ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

13 年度以降	総合科学特殊研究（宇宙論 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超越しており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b 」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論 a 」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1. はじめに／宇宙論が対象とする宇宙 2. 宇宙の階層構造 3. 物質の階層構造 4. 膨張宇宙の観測 5. 膨張宇宙の理論 6. ビッグバン理論と物質の形成 7. 宇宙の構造形成 8. 物質の究極像 9. 宇宙の進化 10. ビッグバン理論の問題点 11. インフレーション宇宙 12. 宇宙の特異点と量子宇宙論 13. 超ひも理論と膜宇宙 14. まとめ／宇宙論が対象とする宇宙

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回授業の最後に「授業レポート」として課題を出します。その課題の評価を点数化し集計したものを基に相対評価で成績を付けます。

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティングa」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の中のあるテーマについて文章にまとめる作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	1. はじめに／サイエンスライティングとは 2. 「地球外文明」に関する講義内容をまとめる 3. まとめ文の添削・講評・修正 4. 「古代の物質観」に関する講義内容をまとめる 5. まとめ文の添削・講評・修正 6. 「地球科学」に関するビデオの内容をまとめる 7. まとめ文の添削・講評・修正 8. 「生命科学」に関するビデオの内容をまとめる 9. まとめ文の添削・講評・修正 10. 「プリンキピア」に関する本の内容をまとめる 11. まとめ文の添削・講評・修正 12. 「疑似科学」に関する本の内容をまとめる 13. まとめ文の添削・講評・修正 14. まとめ文全体の講評

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティングb」では、春学期「サイエンスライティングa」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物等の解説文を実際に書くという作業を通して、文章力をさらに高めていきます。	1. はじめに／サイエンスライティングとは 2. 科学に関する講義を聴く 3. 科学に関する講義の解説文を書く 4. 添削と講評を基に書き直す 5. 科学に関する論文形式の文章を読む 6. 科学に関する論文形式の文章の解説文を書く 7. 添削と講評を基に書き直す 8. 科学に関するビデオを見て、その解説文を書く 9. 添削と講評を基に書き直す 10. 科学者へのインタビューをし、その記事を書く 11. 添削と講評を基に書き直す 12. 科学に関する本を読む 13. 科学に関する本の解説文を書く 14. 添削と講評を基に書き直す

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「解説文」の完成度を総合的に評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（人工知能入門 a）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では，人間のように言語の理解や推論，問題解決などの知的行動を真似する人工的システムの基本概念と問題解決手法について検討する． 【概要】「人工知能」は，推論・判断などの知的な機能を人工的に実現するための研究，また，これらの機能を備えたコンピューターシステムと広辞苑で定義している．人工知能の目的は，人間の代わりに，機械が自律的に問題を発見し，解決することである．そのために，問題解決，推論，自然言語処理，機械学習など，様々な研究が行われている． 本講義では，人工知能を理解するための必要最小限の知識を習得し，様々な具体例を通じて理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンスと講義概要の説明 2. 人工知能の概要 3. 人工知能の問題と関連研究 4. ファジィ理論と例 5. 遺伝的アルゴリズムと例 6. 探索 7. 人工知能を体験するための環境と基本スキル 8. Python入門 9. 人工知能とPython 10. 顔認識：体験 11. 自然言語処理（1）：関連語を探そう 12. 自然言語処理（2）：日本語処理 13. 総合演習 14. 授業のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどをきちんと解答して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	授業中に随時指定する．
評価方法	授業の参加態度（40%），レポート（20%）及び演習（40%）により総合的に評価する．

13 年度以降	総合科学特殊研究（人工知能入門 b）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義では，人間のように言語の理解や推論，問題解決などの知的行動を真似する人工的システムの基本概念と問題解決手法について検討する． 【概要】「人工知能」は，推論・判断などの知的な機能を人工的に実現するための研究，また，これらの機能を備えたコンピューターシステムと広辞苑で定義している．人工知能の目的は，人間の代わりに，機械が自律的に問題を発見し，解決することである．そのために，問題解決，推論，自然言語処理，機械学習など，様々な研究が行われている． 本講義では，人工知能を理解するための必要最小限の知識を習得し，様々な具体例を通じて理解を深める． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 講義概要 2. 人工知能前半まとめ 3. 機械学習の歴史 4. ディープラーニング初め 5. 人工ニューロン 6. ニューラルネットワーク 7. 文字認識 8. 絵を描こう 9. 中間演習 10. 畳み込みニューラルネットワーク 11. 画像分析体験 12. 音声分析体験 13. 総合演習 14. 授業のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する． また、出される課題やレポートなどをきちんと解答して提出する．
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する．
参考文献	授業中に随時指定する．
評価方法	授業の参加態度（40%），レポート（20%）及び演習（40%）により総合的に評価する．

13 年度以降	総合科学特殊研究（自然言語処理 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理aの知識を踏まえた上、自然言語処理基礎技術のである意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、機械翻訳システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。なお、自然言語処理a未修の方にも十分に理解できるように工夫しています。	1. 講義の概要、自然言語処理aの内容のまとめ 2. 自然言語処理の基礎知識 3. 単語の意味特定 4. 意味解析：　意味解析の方法と実験 5. 文脈解析：　談話構造、照応問題の対処法 6. 知識の表現法 7. 機械翻訳（1）　機械翻訳の処理方式と原理 8. 機械翻訳（2）　機械翻訳システムによる実習 9. 質問応答システムの仕組み 10. 情報検索における言語処理技術 11. 対話システムの仕組み 12. Webと自然言語処理 13. 総合演習（自然言語ツールの活用） 14. 授業のまとめ（全体の復習および課題の提出）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出します。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	必要な資料を配布します。
評価方法	演習課題の完成度 40%と筆記試験 60%の結果を併せて評価します。

13 年度以降	総合科学特殊研究（情報検索演習）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報化社会において、知的資源である情報を効果的に活用することは不可欠です。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深めることを目指します。また、コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得します。 【概要】コンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進めます。	1. 授業ガイダンス：情報検索の基本と必要性 2. 情報検索の基礎技術 3. データベースとシソーラス 4. WEBサーチエンジン：ロボットとインデックス 5. インターネット検索・サーチエンジンによる検索 6. 演習（断片情報による検索） 7. 図書検索の仕組み 8. 図書検索の演習 9. 雑誌の検索／演習 10. 新聞記事の検索／演習 11. 辞書・人物・企業・地図の検索／演習 12. 統計・法律・特許情報の検索 13. 質問応答システムの演習 14. 授業のまとめ（全体の復習と要点の整理）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出します。
テキスト	最初の授業に指示します。
参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業の参加態度(20%)、課題の完成度(20%)及び期末試験(60%)で評価します。

13 年度以降	総合科学特殊研究（プログラミング論 a）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つであるVisual　Basicを用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習します。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行います。	1. 授業のガイダンスとプログラミングの基本知識 2. 開発ツールとしてのVisual Basicの基本知識 3. Visual Basic の基本操作 4. 簡単なプログラムの作成 5. イベント駆動型プログラムの仕組み 6. 総合演習（1）（順次プログラムの作成） 7. 選択構造を持つプログラムの作成法 8. 総合演習（2）（選択構造のプログラムの作成） 9. 繰り返しあるプログラムの作成法 10. 総合演習（3）（各種構造を持つプログラムの作成） 11. クラス、配列や構造体の基礎 12. グラフェックスの基礎 13. 課題の作成（1）（データベースの作成） 14. 課題の作成（2）（情報管理プログラムの作成）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出します。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	最終レポート 50%、課題完成度 30%および授業への参加度 20%を併せて評価します。

13 年度以降	総合科学特殊研究（プログラミング論 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、プログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返しプログラミングの技能を身に付くことを目的とします。 ここでは、最近一番人気であるPythonというプログラミング言語を使って、Windows環境でさまざまな機能を生かすためにプログラム作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、テキストの処理、ファイル操作、インターネットから情報の取得法などについて学びます。さらに、各種な問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムについて紹介します。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されています。	1. 授業のガイダンスとプログラミングの基本知識 2. Pythonに触れてみよう 3. Pythonのデータ構造と使用方法 4. 簡単なプログラムの作成、関数の使え方 5. イベント駆動型プログラムの仕組み 6. 総合演習（1）（各種データ構造の活用法） 7. 選択構造を持つプログラムの作り方 8. 総合演習（2）（選択構造によるプログラムの作成） 9. 繰り返しを持つプログラムの作り方 10. 総合演習（3）（繰り返しによるプログラムの作成） 11. インターネットから情報の取得 12. グラフェックスの基礎 13. 課題の作成（1）（インターネット情報の活用法） 14. 課題の作成（2）（ファイルの操作法）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	最終レポート 50%、課題完成度 30%および授業への参加度 20%を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、（1）情報処理に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。（4）コンピュータの最新技術を紹介します。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術、IoT、人工知能などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。	1.　授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要 2.　データベースとは 3.　SQL言語とデータベース演習 4.　コンピュータ・ネットワークとは 5.　インターネットの仕組み 6.　コンピュータ・セキュリテの原理 7.　情報システムの構成と開発 8.　暗号システムと電子認証の仕組み 9.　IoT（モノのインターネット）入門 10.　IoTの実社会応用 11.　人工知能とは 12.　人工知能の応用実態 13.　総合演習（総合課題の完成および提出） 14.　授業のまとめ（授業内容の復習）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	共有フォルタに置いている教材を事前に予習し、毎回出される課題を指示期日に提出します。
テキスト	使用しません。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験 60%、課題 30%、授業への参加度 10%で総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（コーパス言語学）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コーパス言語学とは、電子化された大規模な言語テキストの集成体であるコーパスに基づき、コンピュータを駆使して、実証的観点から言語の諸特性を観察・調査・記述・分析する研究実践の総称です。 コーパス言語学は、言語に対する新しい見方をもたらすアプローチとして言語学はもとより、テキスト分析、言語教育、自然言語処理などの関連分野に大きな影響を与えています。 本講義は受講者にコーパスを学ぶ意義を解説からスタートし、コーパスの紹介・作成の方法を展開し、さらにコーパス検索技術、頻度の処理、コーパスによる語彙分析を多面的に考察します。	1. コーパス言語学を学ぶ意義 2. コーパスとは何か 3. 主要な英語コーパスと日本語コーパス 4. 正規表現とは 5. 正規表現によるコーパス検索 6. コーパスの作成方法 7. コーパスの作成演習 8. 英語語彙の分析実例 9. 日本語語彙の分析実例 10. 英語文法の分析実例 11. 日本語文法の分析実例 12. コーパスと学習者の関わり 13. 総合演習（コーパス活用法の練習） 14. 講義のまとめ（全体の復習と要点整理）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された内容を事前に予習し、毎回出される課題を完成し提出します。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	随時紹介します。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%の割合で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（からだの機能を測る）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 普段、何気なく生活している中では気づかないが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が溢れている。まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 【講義概要】 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析し、レポートにまとめることで理解を深める。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 加齢と身体能力 3. 棒反応時間測定 - 反応の速さに影響するのは？ - 4. 棒反応時間測定 - データのまとめ方（グループワーク） 5. 血圧調節の基礎 - 身近な健康のバロメータ - 6. 血圧調節実験 - 姿勢変化、運動 - 7. 血圧調節 - まとめ（グループでデータの解析） 8. 体温調節の基礎 - 冷え症・低体温、熱中症 - 9. 体温調節実験 - 寒冷血管拡張反応 - 10. 体温調節 - まとめ（グループでデータの解析） 11. 運動調節の基礎 - スムーズに動くには - 12. 運動調節実験 - プリズム順応 - 13. 運動調節 - まとめ（グループでデータの解析） 14. 成果発表

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各テーマの実験データに関連する論文を調査すること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し、提出すること。
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『生理学実習 NAVI』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）とレポート（60%）で総合的に評価する。

（春）		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（文化について調べて書く b）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
調査にもとづいて文化に関わるレポートや論文を書くことができる能力を身につけることを目標とする。 ここで言う調査とは、フィールド調査・文献調査を含む。文化人類学や関連の学問（地域研究・社会学・民俗学など）の授業を履修したことがある者の参加を歓迎する。 本授業では履修生に授業への積極的な関与を求める。履修者には、文献発表や、調査報告などを求める。 毎年具体的なテーマを設定して研究・調査をしてもらう。本年は文化と「見ること」の関係について文献などで理解を深めるとともに、自分で調べてその結果をまとめる作業を行ってもらう。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1.　ガイダンス 2.　文化の概念 3.　「見ること」について考える 4.　見る見られる関係 5.　視覚文化（映画） 6.　視覚文化（テレビ） 7.　視覚文化（写真） 8.　風景と景観 9.　調査準備 10.　調査実習 11.　学生による調査報告（グループ 1 の発表） 12.　学生による調査報告（グループ 2 の発表） 13.　学生による調査報告（グループ 3 の発表） 14.　まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を課題に反映させること。
テキスト	教材は教員が準備、配付する。
参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、発表および小課題［70%］を評価対象とする。 授業に毎回出席することを前提とするので、欠席が続く学生は成績評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（不動産取引と法）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
賃貸マンションを借りる、分譲マンションを買う、一戸建てを買う。人が生活をするにあたって、「住むところ」の存在は必要不可欠なものである。したがって、ほとんど全ての人は、一生のうちに、一度は不動産取引を経験することになる。しかしながら、その不動産取引の際に法律問題が生じた場合、どうすれば良いのかを学んでいる人は、ほとんどいない。そのため、欠陥住宅問題などの社会問題が絶えず生じているのである。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、不動産取引の際に法律問題が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。同時に、本講義は、不動産という物の見方や注意点をも講義することで、法的問題が生じるのを未然に防止する方法も伝授しようと考えている。	１．不動産建築の法律①－市街化区域と用途地域 ２．不動産建築の法律②－建ぺい率と容積率 ３．不動産売買の法律①－契約書の作成、手付 ４．不動産売買の法律②－欠陥住宅問題 ５．不動産登記の法律①－甲区と乙区 ６．不動産登記の法律②－共同申請主義 ７．マンションの法律①－専有部分と共用部分、管理組合 ８．マンションの法律②－修繕と建替え ９．借地借家の法律①－借地契約の期間と更新 １０．借地借家の法律②－定期借地権 １１．借地借家の法律③－賃借権の登記と特則 １２．借地借家の法律④－借家権 １３．道路・境界・隣近所の法律①－筆界特定制度 １４．道路・境界・隣近所の法律②－相隣関係

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を復習しておくこと。
テキスト	木島康雄監修『最新不動産の法律と手続きがわかる事典』（三修社、2017 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験１００％

(春) 19年度 13～18年度	市民生活と法Ⅰ 総合科学特殊研究（暮らしの中の民法入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法の三大原則とその修正や、「民法」の中でも「生活民法」といわれる分野である、人の行為能力、法律行為、保証と担保、売買・消費貸借・賃貸借・請負等の各種の契約、不法行為、親族、相続等の各問題に関して、具体的な事例を素材としながら、その制度の概要と基礎知識を講義するとともに、適宜、双方向・多方向型の問答や議論をおこなうことで、受講者の理解を深めることとする。	第１回：民法とは何か、民法の構造、民法の三大原則とその修正１（所有権絶対の原則） 第２回：民法の三大原則とその修正２（契約自由の原則、過失責任主義） 第３回：人の権利能力と行為能力 第４回：法律行為１（心裡留保、通謀虚偽表示） 第５回：法律行為２（錯誤、詐欺、強迫） 第６回：保証と担保 第７回：売買契約 第８回：消費貸借契約と利息制限法 第９回：賃貸借と借地借家法 第１０回：請負契約と住宅の品質確保の促進等に関する法律 第１１回：不法行為１（一般不法行為） 第１２回：不法行為２（特殊不法行為） 第１３回：親族（結婚・離婚・親権） 第１４回：相続（相続人・相続分・遺言）

到達目標	一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である「民法」について、その基本原則や、民法の中でも特に「生活民法」といわれる分野に関する基礎知識を習得することを目的とする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。
テキスト	鎌野邦樹『今日から役立つ民法』（ナツメ社、２０１８年）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	筆記試験（８０％）と平常点（２０％）により評価する。

(秋) 19年度 13～18年度	市民生活と法Ⅱ 総合科学特殊研究（市民生活と法)	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが日常生活やマスコミを通して目の当たりにする出来事について、事象単位で、関連法の紹介と解説を行う。憲法、民法、刑法等基本法律に関わるが、基本法の授業であまり触れられない問題や 法令を授業の対象としている。	第1回　ゆりかごと墓場：法律上の生と死、胎児の権利能力、生死を確認できない場合（失踪宣告)、堕胎罪、母体保護法、脳死、臓器移植法、埋葬方法、日本の埋葬法及び諸外国の埋葬などについて解説する。 第2回　ロード・レイジ怒れる運転者：交通事故から起因する人損と物損、自賠責保険、任意保険、損害賠償請求の考え方、加害者の刑事責任について解説する。 第3回　近隣紛争：住居侵入、隣地の使用、袋地と囲繞地、自然水流に対する妨害の禁止等、境界紛争、境界関係、竹木の枝の切除及び根の切取り、境界線付近の建築の制限、及び境界線付近の掘削の制限など主に民法が規律する近隣関係について解説する。 第4回　ストーカー：ストーカー規制法の成立、同法以前の対応、同法に基づく行政の規制、国、地方公共団体、関係事業者等の支援、及び違反者の処罰等について解説する。 第5回　十一：金利に関して、民法が定める法定利息、利息制限法等が定める利息の制限と違反した場合の効力及び刑事罰、及び闇金並びに改正民法の金利について解説する。 第6回　夜逃げ：収入状況から不可能な返済状況に陥ってしまった者の打開救済手段である任意整理、破産、民事再生について解説する。 第7回　ブラックバイト：学生を戦力化し、生活全体をアルバイトで支配する構図が作られた、いわゆるブラックバイトに悩む労働者のみならず、働く者が陥りやすいトラブルに対する対処方について縷々解説する。 第8回　生活保護：憲法上の生存権及び民法上の扶養制度を踏まえ、生活保護法における社会福祉事務所の役割、生活保護手続き、保護の種類と保護の方法について解説する。 第9回　ＤＶ：配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の概要並びにＤＶ被害者の支援措置について解説する。 第10回　心神喪失状況にある者：心神喪失者とは何か、精神障害者とはなにか、精神障害者が行った不法行為の責任や同人がした民事契約の効力、刑罰法令に触れる行為を行った精神障害者の処遇について解説する。 第11回　はれのひ：未成年者の民事の事件と刑事の事件について、少年の責任能力、少年の民事責任と保護監督者の責任、少年が刑罰法令に触れた場合の処遇について解説する。 第12回　School Accident：学校事故とは何か、学校事故における学校側の責任を中心に解説する。 第13回　チャイルド・アブューズ：児童虐待の発見、対策、防止について、法整備の状況及び虐待予防支援の実態について解説する。 第14回　紛争解決：私人間の紛争解決から第三者機関によるもの、そして裁判所における紛争解決まで多様な紛争解決制度の種類とその役割、効果について解説する。

到達目標	市民生活に身近な法律問題についてその基本知識及び基本的対処法を理解する。
事前・事後学修の内容	テキストの予習・復習
テキスト	オリジナルのテキストを配布する予定である。
参考文献	テキスト内においてテーマごとに紹介する予定である。 家族と法（齋藤哲【信山社】)
評価方法	試験 100%　　但し、少人数の場合にはレポート 100%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（大学生のための法律入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
大学生になり、サークル等に入るなどして交友関係が広がったり、アルバイトを始めた学生諸君も多いであろう。人との交流を通じて人間関係を学ぶこと、そして社会経験を積むことは、将来就職をして、一人前の社会人になるために、大変有意義であると思われる。しかし、他方で、社会経験の乏しさゆえに、トラブルに巻き込まれる大学生も後を絶たない。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、日々の生活において法律問題（トラブル）が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。 本講義で、身近な法律を学んで、「生きる力」を身に付けて欲しい。	１．お金のトラブル①－クーリングオフ ２．お金のトラブル②－消費貸借契約 ３．アパート・マンションのトラブル ４．ネット・SNSでのトラブル ５．恋愛トラブル ６．旅行トラブル ７．交通関係のトラブル ８．未成年から成人へ ９．アルバイトでのトラブル １０．就職活動でのトラブル １１．大学・授業でのトラブル １２．サークルでのトラブル １３．刑事事件①－逮捕・勾留・取調べ １４．刑事事件②－裁判員裁判

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学修した内容を復習しておくこと。
テキスト	近江幸治・弘中惇一郎編『学生のための法律ハンドブック』（成文堂、2018 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（日本の司法(1)）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、幕末期、主には明治維新期から約１５０年間にける日本国の法律制度の変遷を、比較法を交えながらその大綱を解説する。 日本の司法の成り立ち、日本の司法の仕組みを沿革的かつ比較法的に紐解いていく。 なお、中等教育諸学校において、社会及び公民の授業を行う際に必要とされる、憲法および法律の基本概念、（刑事・民事）裁判の仕組みなど、法と裁判に関する概括的知識を習得し、解説できるようにする。	第１回　近代司法制度の萌芽 第２回　近代司法制度の成立 第３回　現行司法制度の確立 第４回　明治憲法と司法と市民 第５回　日本国憲法と司法と市民 第６回　裁判所の組織と権限 第７回　法曹養成制度 第８回　裁判官制度 第９回　検察制度 第10回　弁護士制度 第11回　民事裁判制度と刑事裁判制度 第12回　少年司法 第13回　裁判外紛争解決制度 第14回　司法制度への市民参加

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト等の予習
テキスト	オリジナルのテキストを配布する予定
参考文献	市民裁判官の研究（齋藤哲【信山社】）、裁判法（兼子一＝竹下守夫【有斐閣】）ほか
評価方法	試験 100％

13 年度以降	総合科学特殊研究（日本の司法(2)）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、裁判における二大手続である民事訴訟法と刑事訴訟法について、両者の比較を通して、解説を行う。 なお、＊春期日本の司法（１）の単位修得者の受講が望ましい	第１回　開講にあたり 第２回　両訴手続きの沿革 第３回　訴訟構造 第４回　裁判所 第５回　当事者 第６回　捜査・訴訟資料の収集 第７回　起訴と提訴 第８回　審判対象 第９回　公判と口頭弁論 第10回　自白と証拠 第11回　裁判 第12回　不服申立て 第13回　市民参加 第14回　結び

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	開講時に開示する
テキスト	随時、レジュメないし資料を提供する予定である
参考文献	クロスオーバー民事訴訟法・刑事訴訟法（小林秀之・安富潔）、ケースメソッド民事訴訟法（齋藤哲他）、よくわかる民事裁判（山本和彦）、刑事裁判ものがたり（渡部保夫）
評価方法	試験 100％

13 年度以前	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質 a）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。	1. 身の回りの物質　① 原資と原子核 2. 身の回りの物質　② 純物質・化合物・単体 3. 身の回りの物質　③ 分子と状態 4. いろいろな金属　① 金属の性質 5. いろいろな金属　② 金銀銅鉄亜鉛アルミニウム 6. いろいろな金属　③ レアメタル 7. 生活を支える気体 ① 水素と酸素 8. 生活を支える気体 ② 気体の諸性質 9. 水の科学　① 水の特異性・生活の中の水 10. 水の科学　② 溶液・コロイド溶液・酸性と塩基性 11. キッチンの化学 ① 食品の栄養・味と香り 12. キッチンの化学 ② 食塩・食品添加物 13. 微生物と物質 ① 微生物とその増殖 14. 微生物と物質 ② 汚水処理、抗菌、バイオ技術

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	鈴木孝弘(著)『新しい 物質の科学　改訂 2 版』オーム社、2014
参考文献	特になし。テーマに応じて適宜指示する。
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度(提出物)（40%）

13 年度以前	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質 b）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。	1. 繊維素材と洗剤 ①天然繊維と皮革 2. 繊維素材と洗剤 ②合成繊維と合成樹脂 3. 繊維素材と洗剤 ③染料・洗剤 4. 化学物質と環境 ①環境中の化学物質の挙動・生物濃縮 5. 化学物質と環境 ②ダイオキシン・環境ホルモン 6. 化学物質と環境 ③光化学スモッグ・酸性雨・フロン 7. 身の回りの毒 ①毒物の作用 8. 身の回りの毒 ②薬害・アレルギー 9. 身の回りの毒 ③食品汚染 10. エネルギーと物質 ①化石燃料 11. エネルギーと物質 ②原子力発電 12. エネルギーと物質 ③再生可能エネルギー 13. 生命と物質 ①たんぱく質・酵素 14. 生命と物質 ②DNAと遺伝のメカニズム

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	鈴木孝弘(著)『新しい 物質の科学　改訂 2 版』オーム社、2014
参考文献	特になし。テーマに応じて適宜指示する。
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度(提出物)（40%）

13 年度以降	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。	各担当教員による

到達目標	特定研究課題を設定して詳細な調査等を行い、その成果を一定程度整理し、体系化できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自が設定した研究テーマについて主体的に学習・研究を進めていくこと。
テキスト	各担当教員による。
参考文献	各担当教員による。
評価方法	各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。

13 年度以降	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	

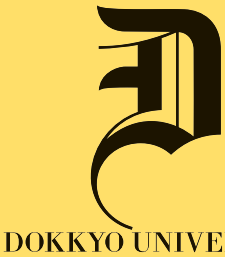
到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

シラバス 言語文化学科

2019年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1825



学　　科	学年	氏　　名
学科	年	